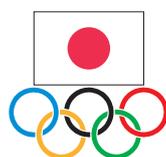


平成22年度

スポーツ環境専門委員会 活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE



財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会

スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

●第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー(横浜市)

会期：2010年9月3日／会場：神奈川県横浜市開港記念会館 講堂／参加人数：約250名



市原 則之 JOC 専務理事

林 文子 横浜市市長



左から、水野正人 IOC スポーツと環境委員
瀬古利彦、大林素子 JOC スポーツ環境アンバサダー



山田二郎 横浜市環境創造局 環境保全部長



左から、板橋一太 JOC スポーツ環境専門委員長
河原智 横浜市卓球協会会長
沼田昭司 横浜市ラグビーフットボール協会 会長
奥寺康彦 横浜 FC 取締役会長
吉田章 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授

●第7回スポーツと環境担当者会議

会期：2010年10月29日／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：約100名



板橋一太 JOC スポーツ環境専門委員長



植田明浩 環境省地球環境局
地球温暖化対策課
国民生活対策室長



中村淳子 JOC スポーツ環境アンバサ
ダー



左から、水野正人 IOC スポーツと環境員
野口美恵 (株) 博報堂 DY メディアパートナーズ



梶利行 福島県会津地方進行局局長



水野正人 IOCスポーツと環境委員 (JOC 副会長)

(財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

●キッズアスリートプロジェクト夢の陸上キャラバン隊 群馬会場

会期：2010年6月18日／会場名：群馬県北群馬郡榛東村立北小学校／参加人数：438名



前列左から、野口選手、菅井選手、有澤理事、中曽根副会長、河野会長、木村選手、江里口選手、田野中選手

●キッズアスリートプロジェクト夢の陸上キャラバン隊 京都会場

会期：2011年2月15日／会場名：京都府京都市立修学院第二小学校



子供たちを指導する朝原選手

●第94回 日本陸上競技選手権大会(混成競技)

会期：2010年6月12日～6月13日／会場名：神奈川県川崎市等々力陸上競技場



前列左から2人目、三宅副会長、右から、高野委員長、澤木専務理事

●キッズアスリートプロジェクト夢の陸上キャラバン隊 石川会場

会期：2010年6月25日／会場名：石川県加賀市立金明小学校 123名



左から、佐藤選手、宮原選手、杉林選手、山田選手

●天皇盃 第16回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

会期：平成23年1月23日／会場名：広島県広島市



●日清食品カップ"第26回全国小学生陸上競技交流大会

会期：2010年8月27日～28日／会場名：東京都国立競技場



新キャラクター「アスリオン」を使用した新ポスター

(財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●第2回エココンテスト実施(エコスローガン募集)

会期：2010年6月4日



グランプリ 水嶋 小裕希さん(7歳) スポーツプラザ報徳



グランプリのスローガンを使用したバナーを作成し、各大会で掲示。

●ペットボトルを廃止し、水のタンクボトルの使用をスタート(2010年9月～)



●エコグッズの作成



エコバック



エコバッジ

●OWS大会でのビーチクリーニング

会期：2010年7月18日～19日／会場：千葉県館山市北北条海岸



●環境バナーの掲示 第65回国民体育大会

会期：2010年9月8日～17日／会場：千葉県国際総合水泳場



●環境ポスターの掲示



左から花傘礼シンクロヘッドコーチ、佐野会長、本間シンクロ委員長

(財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●キリンチャレンジカップ2010 日本代表 対 パラグアイ代表

会期：2010年9月4日／会場：神奈川・日産スタジアム



●ガンバ大阪 追手門学院とのパートナーシップ協定締結

会期：2010年2月19日

会場：ガンバ大阪クラブハウス横第1天然芝グラウンド



●ガンバ大阪 Jリーグ第32節 ホームゲームでの環境活動

会期：2010年11月23日／会場：大阪・万博記念競技場



●浦和レッズ他3クラブ



再生ポリエステルを利用したユニフォームを新シーズンより着用

●AFCアジアカップ2011カタール予選Aグループ 日本代表 対 バーレーン代表

会期：2010年3月3日／会場：愛知・豊田スタジアム



●港の森づくり 名古屋グランパス植樹祭2010

会期：2010年12月11日

会場：愛知・モノづくり文化交流エリア内／参加人数：約250名



(財)日本テニス協会

Japan Tennis Association

●ニッケ全日本テニス選手権84th

会期：10月30日～11月7日／会場：東京都・有明コロシアム
／参加人数：選手256名 観客30,000名



田中副会長、渡邊専務理事、中西大会ディレクターと篠川選手、瀬間選手、井上選手、伊藤選手

●第77回関東ジュニアテニス選手権大会

会期：7月18日～23日／会場：千葉県・白子町 アポロコーストテニスクラブ／参加人数：選手500名 観客2000名



18才、16才、14才、12才以下の部優勝者とポスター

●トヨタジュニアテニストーナメント2010

会期：4月7日～10日／会場：愛知県・東山公園テニスセンター
／参加人数：選手134人 観客400名



入賞者とともに

日本テニス協会スポーツ環境ポスター
「心の環境にエースをねらえ」
松岡修造委員直筆と吉田友佳スポーツ
環境委員



●ダンロップ 全日本ジュニアテニス選手権'10 supported by NISSHINBO

会期：8月5日～17日／会場：大阪市・靱テニスセンター／参加人数：選手960名 観客：1500名



18才以下の部表彰式にて

●昭和の森女子国際トーナメント

会期：6月22日～27日／会場：東京都・昭和の森テニスクラブ／参加人数：選手240名 観客：300名



亜細亜大学の荒木選手、長谷川選手、山本選手、伊波選手とポスター

(社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●第88回全日本選手権大会

会期：2010年9月12日



観戦者の協力も得て回収もスムーズ



●第88回全日本選手権大会

会期：2010年9月12日



活動の「成果」の前で協会の方と記念写真

●Japan Cup 第31回全日本軽量級選手権大会

会期：2010年5月21日～23日



細かく分別するほど、環境に対して、丁寧な取り組み



(社)日本ホッケー協会 Japan Hockey Association

●高円宮杯2010女子日本リーグ 第1節

会期：5月8日／会場：立命館大学校野グラウンド(京都府)



日本リーグ役員と競技役員



開会式風景

●高円宮杯2010女子日本リーグ 第2節

会期：5月15日／会場：岐阜県グリーンスタジアム(岐阜県)



競技役員



競技風景

●高円宮杯2010男子日本リーグ プレーオフ

会期：6月13日／会場：岐阜県グリーンスタジアム(岐阜県)



競技役員



横断幕掲示

(社)日本アマチュアボクシング連盟

Japan Amature Boxing Federation

●全国高等学校ボクシング選手権大会

会期：2010年7月28日～8月3日／会場：沖縄県・豊見城高校体育館



左から幸喜沖縄連盟会長、山根日連副会長、吉森専務理事



分別ゴミ箱

●千葉国体

会期：2010年9月29日～10月4日／会場：千葉県・鴨川市総合運動施設文化体育館



左から吉森専務理事、山根日連副会長、中村千葉連盟理事長



植樹／左から福島日連副会長、鴨川市長、吉森専務、山根副会長

●全日本社会人アマチュアボクシング選手権大会

会期：2010年12月1日～4日／会場：埼玉県・和光市総合体育館



公益財団法人日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●2010女子バレーボール世界選手権大会

会期：2010年10月29日～11月14日
会場：東京都 国立代々木競技場第一体育館・東京体育館



JOC ポスター（JVA 代表理事 立木正夫、JOC 副会長 水野正人、一人おいて JVA 業務推進事業本部長 岩満一臣）

●第13回全日本バレーボール大学選抜男女東西対抗戦2010

会期：2010年11月11日～12日
会場：大阪府 新日本製鐵堺体育館



JVA 環境バナー（全日本大学バレーボール連盟会長 市川伊三夫）

●第63回全日本バレーボール高等学校選手権大会

会期：2011年1月5日～9日／会場：東京都 東京体育館



JVA バレーボールバンク 出展ブース（JVA 国内事業本部長 萩原秀雄）

●第30回記念 全日本バレーボール小学生大会

会期：2010年8月11日～14日
会場：東京都 東京体育館 他



JVA 環境バナー（女子各チーム キャプテンと（右）JOC 環境アンバサダー 大林素子、（左）元全日本選手 朝長孝介）

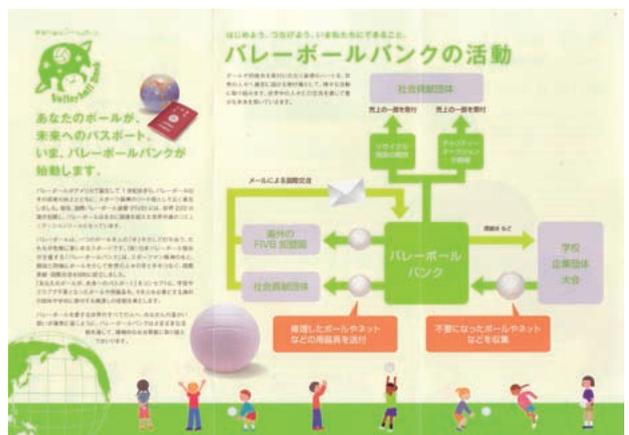
●第63回全日本9人制バレーボール実業団男子選手権大会

会期：2010年7月23日～26日
会場：栃木県 鹿沼総合体育館・宇都宮市体育館



JVA 環境バナー（優勝チーム 住友電工チーム（大阪）

●JVAバレーボールバンク発足



バレーボールバンクパンフレット

(財)日本体操協会

Japan Gymnastic Association

●JAPAN CUP 2009

会期：7月18日～7月19日／会場：千葉県千葉市(幕張メッセ)



館内の床を汚さないようにシートを敷き詰めた／炭酸マグネシウムを入れる容器(左下)

●JAPAN CUP 2010

会期：7月3日～7月4日／会場：東京都渋谷区(東京体育館)



JAPAN CUP 2009と同様、館内の床を汚さないようにシートを敷き詰めた

●International Deutsches Turnfest 2009

会期：5月30日～6月5日／会場：ドイツ(フランクフルト)



会場内にポスター掲示



荒木委員長(一般体操)と森末慎二(環境委員)ら

●2010日本体操祭

会期：11月27日・28日／会場：東京都渋谷区(国立代々木競技場 第1体育館)



会場内に掲げられた横断幕：「この星にスポーツを」



(財)日本バスケットボール協会

Japan Basketball Association

●ALL JAPAN 3on3 BASKETBALL (JBA33) 2010 in OSAKA

会期：2010年8月15日／会場：大阪市中央体育館



JBAとして初めて行った3on3大会でも環境活動を実施
木内貴史 日本バスケットボール協会専務理事
原田茂 日本バスケットボール協会普及編成部長 兼 大会実行委員長 他

●第86回天皇杯・第77回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会

会期：2011年1月2日～10日／会場：国立代々木競技場第1体育館他



大会会場内に設置した環境コーナー



チャレンジ25キャンペーンにも参画



ペットボトルキャップでシュート!
環境活動の様子を視察する木内貴史専務理事



会場内でエコキャップ運動を実施



大会公式プログラムには環境ページを掲載

(財)日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●スピードスケートワールドカップ帯広大会

会期：2010年12月11日～12日／会場：北海道帯広市・明治北海道十勝オーバル



●全日本距離別スピードスケート選手権大会

会期：2010年10月30日～31日／会場：長野市・エムウェーブ



●2010NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

会期：2010年10月22日～24日／会場：名古屋市・日本ガイシアリーナ



●全日本ショートトラック選手権大会

会期：2010年12月24日～26日／会場：東京都江戸川区・江戸川区スポーツランド



(財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●第5回日光杯全日本女子中学・高校生大会

会期：2010年12月24日～26日／会場：霧降アイスアリーナ



日光杯チームエコ活動

●資源リサイクル運動

エコキャップ回収ポスター



●第30回全日本女子選手権大会A

会期：2011年3月10日～13日／会場：帯広の森アイスアリーナ



競技スタッフ

●第15回全日本女子選手権大会B

会期：2011年2月25日～27日／会場：日本ガイシアリーナ



レフェリー

●第78回全日本選手権

会期：2011年2月7日～13日／会場：霧降アイスアリーナ



ペットボトルキャップ回収

(財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」

会期：平成22年10月1日～4日／会場：千葉県佐倉市・佐倉市民体育館



後列左から、菅芳松事務局長代行、高田裕司専務理事、福田富昭会長、富山英明常務理事、齊藤修審判長
前列左から、栄和人女子強化コーチ、土方政和理事

●明治乳業杯 平成22年度全日本選抜レスリング選手権大会

会期：平成22年5月1日～3日／会場：東京都渋谷区・国立代々木競技場第2体育館／参加人数：216名(F78, G75, W63)



●第15回関東幼児レスリング大会

会期：平成22年8月21日／会場：千葉県鎌ヶ谷市・鎌ヶ谷市民体育館／参加人数：34クラブ・125名



●ジュニアクイーンズカップ・レスリング選手権大会

会期：平成22年4月3日～4日／会場：東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館／参加人数：138団体/456名



●天皇杯・平成22年度全日本レスリング選手権大会

会期：平成22年12月21日～23日／会場：東京都渋谷区・国立代々木競技場第2体育館／参加人数：316名／活動内容：パナー、ポスター掲示、大会パンフレット、会場アナウンス



(財)日本セーリング連盟

Japan Sailing Federation

●海の日キャンペーン

会期：7月18日／会場：西宮ヨットハーバー／参加人数：約50名



●青函カップヨットレース

会期：7月24・25日／会場：青森・函館／参加人数：約200名



●SYC相模湾オープンヨットレース

会期：7月18日／会場：相模湾・シーボニアヨットクラブ／参加人数：約300名



●全日本DRAGON選手権大会計測

会期：10月21～24日／会場：西宮・関西ヨットクラブ／参加人数：約100名



●SYC相模湾オープンヨットレース

会期：7月18日／会場：相模湾・シーボニアヨットクラブ／参加人数：約300名



(社)日本ウエイトリフティング協会

Japan weightlifting Association

●平成22年度全国高等総合体育大会・高松宮賜旗第57回全国高等学校選手権大会

会期：2010年8月7日～11日／会場：沖縄県「具志頭社会体育館」／参加者：391名



分別収集に協力する全国高体連飯野部長

●第70回全日本選手権大会・第23回全日本女子選手権大会

会期：2010年5月28日～30日／会場：大阪府「羽曳野コロシアム」



+105kg級優勝者 太田 和臣

●第56回全日本大学対抗選手権大会・第11回全日本大学対抗女子選手権大会

会期：2010年10月31日～11月1日／会場：横浜市 磯子スポーツセンター／参加人数：名215名



団体優勝した九州国際大学



会議資料 (針なしホッチキス)

●第47回全日本社会人・第2回レディースカップ全日本選抜大会

会期：2010年11月18日～21日／会場：山口県「海峡メッセ下関」／参加人数：選手256名



団体優勝した金沢学院大学チーム



社会人団体優勝した自衛隊体育大学チーム

(財)日本ハンドボール協会

Japan Handball Association

●第62回全日本総合ハンドボール選手権大会(男子)

会期：2010年12月22日～26日／会場：東京都 駒沢体育館
／参加人数：選手250名 観客4,500名



左から多田博副会長、渡邊佳英会長、齋藤健 JHL 副会長、市原則之 JOC 専務理事、川上憲太専務理事

●平成22年度第13回ハンドボール研究集会

会期：2010年8月4日、5日／会場：佐久市立中佐都小学校／
参加人数：70名



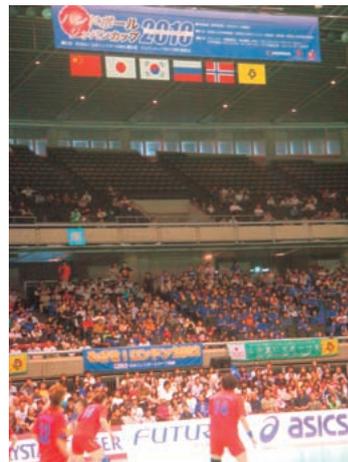
●第65回国民体育大会ゆめ半島千葉国体ハンドボール競技

会期：2010年9月30日～10月4日／会場：千葉県 市川市国
府台市民体育館／参加人数：選手840名 観客10,000名



●ジャパンカップ 2010 TOKYO GAMES

会期：2010年6月4日～6日／会場：東京都 東京体育館／参
加人数：選手120名 観客9,000名



●第19回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会

会期：2010年12月24日～28日／会場：愛知県 愛知県体育
館他／参加人数：選手750名 観客5,000名



●プログラム掲載

第35回日本ハンドボールリーグ2010-2011オフィ
シャルプログラム



(財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●第27回全日本小学生選手権大会

会期：2010年8月5日～8日／会場：旭川市大雪アリーナ・旭川花咲テニスコート



横断幕の前で 北海道ソフトテニス連盟 高松 忠義副会長・佐藤 正矩副会長、(財)日本ソフトテニス連盟 林 敏弘会長、プリンス、プリンセス



資源ゴミの分別を呼びかけるプリンス・プリンセス



資源ゴミ分別所にて 右からソフトテニスプリンス、ソフトテニスプリンセス、ソフトテニスプリンセス、(財)日本ソフトテニス連盟 林 敏弘会長と岩崎 麻未さん、大西 諒典君、中嶋 来未さん



開会式で「スポーツと環境について」のメッセージを発表するプリンス・プリンセス大西 諒典君、中嶋 来未さん

●第14回全日本シニア選手権大会

会期：2010年9月9日～11日／会場：北九州市 三萩野庭球場、直方市西部運動公園庭球場他



横断幕と大会役員



大会を支えていただいた方々と大会役員

(社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●第27回全日本ジュニア馬場馬術大会

会期：7月17日～19日／会場：静岡県御殿場市馬術・スポーツセンター



大会風景

●第34回全日本ジュニア障害馬術大会

会期：8月5日～8日／会場：山梨県馬術競技場



環境パンフレットを持つジュニア選手たち



馬術連盟が配るエコバッグ



馬術連盟が大会の時に使用するエコベスト



広報誌「馬術情報」

(社)日本フェンシング協会

Federation Japonaise D'escrime

●第18回JOCジュニアオリンピックカップ大会2011

会期：2011年1月8日～11日／会場：東京・駒沢オリンピック公園体育館



●高円宮杯フェンシングワールドカップ2010GP大会

会期：2010年5月14日～16日／会場：東京・駒沢オリンピック公園体育館／参加人数：3日間で約4000名



(財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●第25回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

会期：2010年4月18日／会場：神奈川県 横浜文化体育館



優勝した塚田真希選手（左）と準優勝の杉本美香選手（右）

●平成22年全日本柔道選手権大会

会期：2010年4月29日／会場：東京都 日本武道館



優勝した高橋和彦選手

●平成22年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2010年11月20日～21日／会場：千葉ポートアリーナ



中村淳子 JOC スポーツ環境アンバサダーによる啓発スピーチ



中村淳子 JOC スポーツ環境アンバサダーと環境横断幕



60kg 級優勝の山本浩史選手



57kg 級・宇高菜絵選手（左）と70kg・渡邊美奈選手（右）

(財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●2010 JAPAN CUP 国際女子ソフトボール大会

会期：2010年8月6日～8日／会場：宮城県仙台市 元気ワールド仙台



日本代表チームと環境パナー



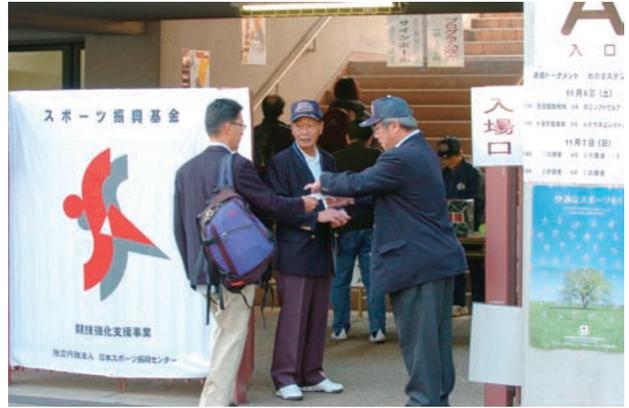
台湾代表チームと環境パナー



優勝したアメリカ代表チームと環境パナー

●第43回日本女子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント

会期：2010年11月6日～7日／会場：京都府京都市 わかさスタジアム京都



入場口と啓発ポスター



リーグポスターと啓発ポスター



3位のルネサスエレクトロニクスチーム表彰式行進風景と環境パナー

(社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●第2回全国理事会

会期：2010年7月24日／会場：東京都渋谷区・岸記念体育会館503～504会議室



左から佐川肇副会長、坂本剛二会長、松丸喜一郎専務理事

●平成22年度全日本社会人ライフル射撃競技選手権大会兼第66回国民体育大会リハーサル大会

会期：2010年9月3日～9月5日／会場：広島県安芸太田町・つつがライフル射撃場



会場入り口にポスター掲示



(社)日本近代五種・バイアスロン連合

Modern Pentathlon & Biathlon Union of Japan

●第7回チャレンジ近代五種国際大会in千葉 兼第5回JOCジュニアオリンピックカップ

会期：2010年9月12日／会場：日本エアロビクスセンター



射撃練習会の風景→ フロンガス・鉛弾を使わない環境にやさしいAPS-3を紹介



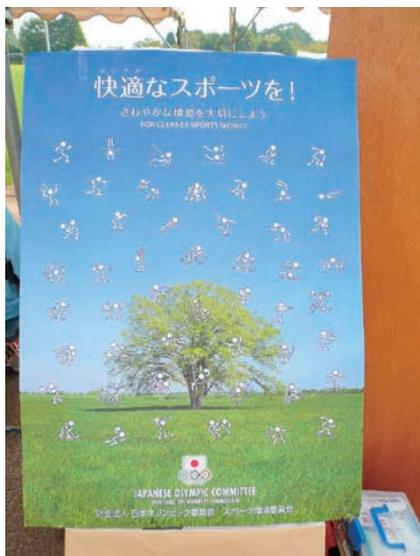
現役近代五種選手によるデモ風景



BB弾を撤去



環境備品にて分別ゴミ



環境ポスターの展示



大会参加者とスタッフの集合写真

(財)日本ラグビーフットボール協会 Japan Rugby Football Union

●エコキャップ運動 世田谷ラグビースクールとカーワ ンヘッドコーチ

会期：2011年2月27日／会場：秩父宮ラグビー場



●エコキャップ運動 ワセダクラブと箕内選手

会期：2011年2月6日／会場：秩父宮ラグビー場



●エコキャップ運動 バナーとキャップ回収専用ボックス

会期：2010年12月26日／会場：秩父宮ラグビー場



●チャレンジ25参加PRブース

会期：2010年11月28日／会場：秩父宮ラグビー場



(社) 日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

●第49回全日本登山体育大会

会期：2010年10月22日～24日／会場：静岡県・富士山麓



●第13回JOCジュニアオリンピックカップ

会期：2010年8月13日～15日／会場：富山県南砺市・桜が池CC



●平成22年度自然保護委員総会

会期：2010年9月12日～13日／
会場：新潟県柏崎市・じよんのび温泉施設



公益社団法人 日本カヌー一連盟

Japan Canoe Federation

●第33回NHK杯全日本カヌースラローム競技大会

会期：2010年4月11日／会場：富山県富山市



●平成22年度日本カヌースラローム選手権大会

会期：2010年10月10日／会場：東京都青梅市



(財) 全日本ボウリング協会

Japan Bowling Congress

●平成22年度第1回定時評議員会、第2回理事会

会期：2010年5月30日／会場：田町ハイレーン（東京都港区）
／参加人数：約100名



会場内にポスターを掲示（右：協会赤木会長）

●JOCジュニアオリンピックカップ 第34回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2010年7月20日～21日／会場：品川プリンスホテルボウリングセンター（東京都港区）／参加人数：選手約230名



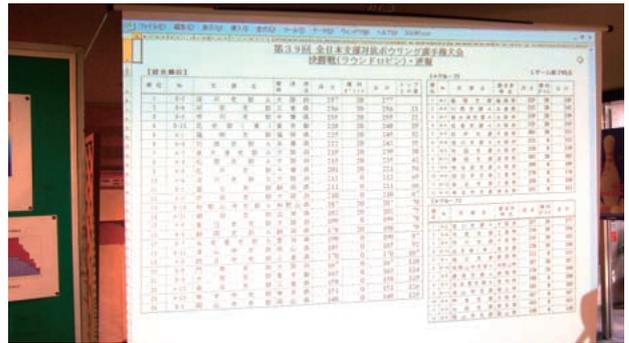
左：男子優勝者 新畑雄飛選手 右：女子優勝者 向谷美咲選手

●第39回全日本支部対抗ボウリング選手権大会

会期：2011年1月21日～23日／会場：イーグルボウル(大阪府大阪市)／参加人数：選手約600名



プロジェクターによる記録速報を用紙節減のために導入



最終日、決勝戦での速報表示

(社) 全日本銃剣道連盟

All Japan Jukendo Federation

●関東ブロック銃・短剣道・審判研修会、高段審査会

会場：埼玉県・朝霞市総合体育館



(社)日本カーリング協会

Japan Curling Association

●第28回 全農 日本カーリング選手権大会 表彰式

会期：2011年2月8日～13日／会場：名寄市 北海道立サンピラーパーク カーリングホール



館内のポスター掲示

●2011軽井沢国際カーリング競技大会

会期：2011年1月26日～30日／会場：スカップ軽井沢



ゴミの分別収集の様子

●第19回JOCジュニアオリンピックカップ

会期：2010年12月1日～5日



日本ジュニアカーリング選手権大会

●第8回日本シニアカーリング選手権大会

会期：2011年2月25日～27日／会場：青森県青森市：青森スポーツ会館カーリングホール



(社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●第15回岩手県釜石はまゆり国際トライアスロン大会

会期：2010年9月5日／会場：岩手県釜石市根浜海岸特設コース



大会関係者及びボランティア

●阿武隈川トライアスロンINフルーツ王国福島大会

会期：2010年9月12日／会場：東京都福島市民プール周辺



エコステーション

●町田トライアスロン連合練習大会

会期：2010年9月19日／会場：東京都町田市立室内プール、尾根緑道周辺



●第1回芦屋アクアスロン大会

会期：2010年9月26日／会場：兵庫県芦屋市総合公園 潮芦屋ビーチ特設コース



レスキュー隊

●トライアスロン日本選手権

会期：2010年10月17日／会場：東京都お台場海浜公園周辺



(財)日本ゴルフ協会 Japan Golf Association

●第75回日本オープンゴルフ選手権競技

会期：2010年10月14日～10月17日／会場：愛知カンツリー倶楽部(愛知県・名古屋市)



JGA 安西孝之会長と塩田良理事・事務局長



愛知カンツリー倶楽部フロント



名古屋市営地下鉄星ヶ丘駅ギャラリーバス



ギャラリープラザ

●第43回 日本女子オープンゴルフ選手権競技

会期：2010年9月30日～10月3日／大利根カントリークラブ 東コース(茨城県・坂東市)



大会スタートホール



JGA カフェ内

(社)日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●第21回全日本U23スカッシュ選手権大会

会期：2010年6月5日・6日／会場：セントラルフィットネスクラブ錦糸町



JOC 環境啓発ポスターと日向常務理事（左）潮木常務理事（右）



学生を中心とした参加者と共に、分別収集を徹底した

●第24回ジャパンジュニアスカッシュ選手権大会

会期：2010年8月18日～20日／会場：ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE



JOC 環境啓発ポスターと宮城島常務理事（右）マイボトル・マイカップキャンペーンを行った

●第38回全日本学生スカッシュ選手権大会(個人戦)

会期：2010年12月3日～7日／会場：ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE



全日本学生スカッシュ連盟もエコキャンペーンに協力

●istα! 日進カップ第39回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2010年11月3日～7日／会場：さいたまスカッシュスタジアムSQ-CUBE



キャンペーンバナーと選手権上位入賞者

写真左：3位前川美和（メガロス武蔵小金井所属）、優勝小林海咲（H.GANS）、準優勝松井千夏（J-ROCK）、3位鬼澤こずえ（Point）
写真右：3位清水孝典（SQ-CUBE PRO）、準優勝机伸之介（SQ-CUBE PRO）、3位岡田賢（エルスポーツ京都）、優勝福井裕太（H.GANS）



JSA エコキャンペーンポスター

(社)日本ボディビル連盟

Japan Bodybuilding Federation

●3月総会

会期：2010年3月14日



●ジャパンオープン

会期：2010年7月4日



●日韓大会

会期：2010年8月1日



JBBF 会長他



選手団

●日本クラス別

会期：2010年7月25日



●オールジャパンフィットネス

会期：2010年8月8日／会場：福岡県



(社)全日本テコンドー協会

All Japan Taekwondo Association

●第4回全日本テコンドー選手権大会での環境問題への取り組みの様子

会期：2011年2月20日／会場：駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場



右 (社)全日本テコンドー協会 会長 金原 昇
左 (社)全日本テコンドー協会 技術委員長 金 天九
環境ポスターと大会プログラムの広告掲載



(社)全日本テコンドー協会 国内公式 A 級審判員 北野 功
環境ポスターと大会プログラムの広告掲載



環境ポスター



ゴミの分別



環境ポスター

日本カバディ協会

Japan Kabaddi Association

●第21回全日本カバディ選手権大会

会期：2010年9月11日～12日／会場：東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室／参加人数：選手約150名、観客約150名



一島正真副会長

●第4回東日本カバディ選手権大会

会期：2010年6月26日～27日／会場：東京都 帝京中学・高等学校体育館／参加人数：選手約150名、観客約150名



日韓親善試合



男子



日韓親善試合



女子



日韓親善試合

特定非営利活動法人日本ローラースポーツ連盟

Japan Roller Sports Federation

●第51回全日本ローラーホッケー選手権大会

会期：2010年8月19日～22日／会場：秋田県由利本荘市体育館



会場にて



受付にて

●第10回全日本インラインホッケー選手権大会

会期：2010年8月28日～29日／会場：茨城県日立市サンピア日立



受付にて

●第59回全日本フィギュア選手権大会

会期：2010年7月30日～31日／会場：徳島県徳島市立スポーツセンター



審判控室にて

●第18回全国選抜ローラースケートマラソン

会期：2011年1月9日／会場：渡良瀬遊水池谷中湖周回道路



本部テント横にて男子優勝山本紳貴・女子優勝篠塚奈知

財団法人全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

●東京スノーワールド in お台場

会期：2010年12月17日～19日／場所：港区台場 フジテレビ1F広場及びシアターモール



人工雪を降らせ、スノースポーツの楽しさ、雪の大切さをアピール



雪遊びを楽しむ子供達

●「I LOVE SNOW エコアクション」のロゴマーク入りのマグネット



クロスカン트리スキーを体験



販売収入の一部をカーボンオフセットに活用

(財)全日本軟式野球連盟

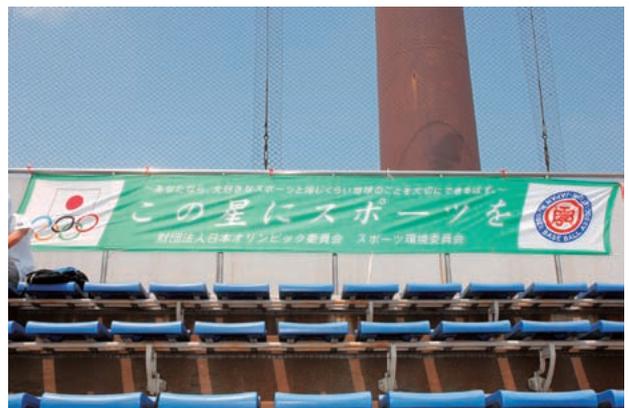
Japan Rubber Baseball Association

●高円宮賜杯第30回記念全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント

会期：8月14日～19日／会場：大田スタジアム



競技会場にて、専務理事：渡邊起祐



公益社団法人全日本アーチェリー連盟

All Japan Archery Federation

●全日本キヤデット選手権入賞者

会期：2010年6月26～27日／会場：岡山県備前市



●全日本選手権高校生以下の出場者

会期：2010年10月22～24日／会場：静岡県掛川市つま恋



(財)日本自転車競技連盟

Japan Cycling Federation

●日本スポーツマスターズ2010三重大会

会期：2010年9月19日／会場：三重県伊勢市 サンアリーナ



鈴木 健一伊勢市長 コースのスタート・フィニッシュ地点にバナーを会場周辺で、ポスターの掲示、パンフレットの配布を行った

●第13回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース

会期：2010年10月16日～17日／会場：宮城県大和町 宮城県自転車競技場



競技場審判棟にバナーを 会場で、ポスターの掲示、パンフレットの配布を行った

●第6回全国ジュニア自転車競技大会

会期：2010年10月24日／会場：三重県四日市市 水沢・桜



コースのスタート、フィニッシュ地点にバナーを会場周辺で、ポスターの掲示、パンフレットの配布、ゴミの分別を行った

●2010年全国チーム対抗自転車競技大会

会期：2010年11月3日／会場：静岡県伊豆市 日本サイクルスポーツセンター



250m 競技場走路のフェンスにバナーを会場で、ポスターの掲示、パンフレットの配布を行った

(財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●第一三共ヘルスケア・レディース2010・第33回全国レディース卓球大会

会期：2010年7月30日～8月1日
会場：真島総合スポーツアリーナ(ホワイトリング)



左より、植松克之副会長、第一三共ヘルスケア株式会社三田知良様、前原正浩専務理事、遠藤ミサコ常務理事、後藤広子環境委員長

●全日本卓球選手権大会(一般・ジュニアの部)

会期：2011年1月18日～23日
会場：東京体育館



会場オーロラビジョンにおいて“チャレンジ25”のCM放映



会場入り口にて環境ブースの設置



個人チャレンジャーの募集

全日本アマチュア野球連盟

Baseball Federation of Japan

●NPO法人アオダモ育成の会 平成22年度植樹活動

会期：2010年9月20日／会場：由仁町道有林



参加者



栗山秀樹氏と参加者

(財)日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●日本リーグ高岡大会

会期：2010年10月10、11日／会場：高岡市民体育館
参加人数：350名



末綱選手、高橋正樹高岡市長、綿貫民輔会長、前田選手

●平成22年度実業団大会

会期：2010年6月9～13日／会場：グリーンアリーナ神戸
参加人数：1200名



秋草日本実業団会長、矢田立郎神戸市長

●ヨネックスジャパンオープン2011

会期：2010年9月21～26日／会場：東京体育館
参加人数：214名



潮田選手、池田選手

●JOC味の素NTC練習会

会期：2011年1月10日／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：85名



潮田選手と練習生

「フォート・キシモ」提供

(財)全日本空手道連盟

Japan Karatedo Federation

●第10回全日本少年少女空手道選手権大会

会期：2010年8月7日・8日／会場：東京武道館



【(財)全日本空手道連盟 会長 笹川 堯と分別キャンペーン (JOCポスターの前で)】大会会場で、会場内のゴミ箱設置場所以外のゴミ収集において分別の呼び掛けを実施した。

●第38回全日本空手道選手権大会

会期：2010年12月11日・12日／会場：東京武道館 (11日)、
日本武道館 (12日)



【分別キャンペーン (大会本部にて)】大会本部に JOC 環境ポスターを掲示し、意識付けを行なった。

(財) 全日本弓道連盟

All Nippon kyudo Federation

●平成22年度【東京】学生特別臨時中央審査

会期：2010年11月12日～14日／会場：全日本弓道連盟中央道場



ポスターの掲示（審査会）※中央 石川武夫副会長



ゴミの分別（審査会）

●第44回建国記念奉祝弓道大会

会期：2011年2月11日／会場：全日本弓道連盟中央道場



大会開会式で環境に関するスピーチをする石川武夫副会長（大会）



ポスターの掲示（大会）

(財) 全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

●中古剣道具は全日本武道具協同組合の協力により、使用可能な状態に整備し、各国に寄贈した

会期：2010年11月14日／会場：埼玉県 大宮通運働倉庫内



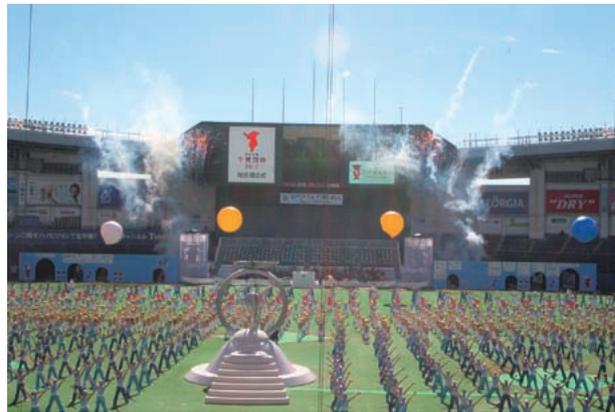
(財)日本体育協会

Japan Sports Association

●第65回国民体育大会

会期：2010年9月25日～10月5日

※水泳競技会：9月8日～17日、ゴルフ競技会：9月21日～23日



●日本スポーツマスターズ2010三重大会

会期：2010年9月17日～21日※ゴルフ競技は9月13日～15日



●生涯スポーツ・体力づくり全国会議2011

会期：2011年2月3日



●創立100周年記念シンポジウム福島会場

会期：2010年10月23日



●創立100周年記念シンポジウム京都会場

会期：2010年12月11日



●創立100周年記念シンポジウム広島会場

会期：2011年2月26日



(特非) 日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

●第33回JOAセッション「第1回ユース・オリンピック・ゲームズ」、オリンピックレクチャー 010、011

会期：2010年5月30日／会場：明治大学アカデミーコモン



左から、衣笠泰介（シンガポール・スポーツ学校）、阿部生雄（筑波大学）、水野正人（JOA 副会長）、佐藤優香（トリアスリート）、伊藤公（オリンピック評論家）、後藤光将（明治大学）、和光理奈（中京大学）、猪谷千春（JOA 会長）、望月敏夫（元駐ギリシャ大使）

●JOAセミナー

会期：2010年5月30日／会場：明治大学アカデミーコモン



舛本直文 JOA 理事



藤原庸介 JOA 理事



水野正人 JOA 副会長

日本トップリーグ連携機構

Japan Top League

●2010年度若手研修会

会期：2010年6月26日～27日／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター



主催者挨拶：市原則之 専務理事



ファンや支援者との関係を深める基礎ビジネスマナー講座
松澤美穂子 講師



チームビルディング（リーグを越えた選手の交流・連携）
グループ毎に、様々な難題にチャレンジするリーグ代表の若手選手



チームビルディング（リーグを越えた選手の交流・連携）
鶴川高司 講師



MBTIによるチームビルディング（自己・他者理解）
松場俊夫 講師



8競技9リーグの若手選手73名が参加

環境方針

Policy of the JOC on Environmental Management Systems(EMS)

■ 環境基本理念

財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC 事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

■ 行動指針

1. JOC 事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

平成18年3月17日

財団法人日本オリンピック委員会

会長 竹田 恆和

- 2009年7月11日付でISO14001の認証登録を更新(2度目)
ISO(International Organization for Standardization) 14001



認証登録証を受け取った竹田恆和 JOC 会長

- JOC事務局内レクチャー



平成22年度 スポーツ環境専門委員会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2010

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告	2
Photographic report of activities on Sport and Environment	

本文目次

Contents

1. スポーツ環境委員の意義について	51
Objective of the JOC Sport and Environment Commission	
2. 第6回 JOC スポーツと環境・地域セミナー 開催報告	53
Report of the 6th JOC Regional Seminar on Sport and Environment	
3. 第7回スポーツと環境担当者会議 開催報告	58
Report of the 7th National Sports Federations Conference on Sport and Environment	
4. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について	63
Issues regarding awareness and implementation activities	
(1)各競技団体の活動	64
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations	
(2)スポーツ環境委員・アンバサダーの活動	109
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission	
(3)スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	119
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs	
(4)国際大会での啓発活動	122
JOC environmental activities at the International Games 広州アジア大会、アスタナ冬季アジア、エルズルム冬季ユニバ	
(5)環境省との連携について	123
Collaboration with the Ministry of Environment	
(6)スポーツと環境についてのレクチャー原稿	125
Lecture draft on Sport and Environment	
5. IOC スポーツと環境委員会について	136
IOC Sport and Environment Commission	
(1)IOC スポーツと環境委員会	137
IOC Sport and Environment Commission	
(2)2011 IOC スポーツと環境賞	138
2011 IOC Award for Sports and Environment	
6. 関連資料	146
References	
(1)JOC スポーツ環境活動者一覧	146
Activities person of Sport and Environment	
スポーツ環境専門委員会	146
Member of Sport and Environment Commission	

IOC スポーツと環境委員会	147
IOC Sport and Environment Commission	
OCA スポーツと環境委員会	147
OCA Sport and Environment Commission	
JOC スポーツ環境アンバサダー	148
JOC Sport and Environment Ambassador	
本会加盟団体スポーツ環境担当者一覧	149
National Federation	
(2) IOC スポーツ環境委員会小史	152
Brief history of the IOC Sport and Environment Commission	
(3) JOC スポーツ環境委員会小史	153
Brief history of the JOC sport and Environment Commission	
(4) オリンピックムーブメントアジェンダ21	154
Olympic Movement's Agenda 21	

1 スポーツ環境専門委員会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

環境活動で世界のスポーツ界をリードしよう

訴え続けることの大切さ

2010年夏の猛暑、冬の山陰地方の大雪、世界各地の大洪水などの異常気象が地球温暖化と密接な関係があるという研究報告が最近マスコミに報じられた。世界は戦争、テロ、政治不安、不況など様々な問題を抱えており人々の環境問題への関心も必ずしも一様ではなく薄らぐ場合もないではない。しかし、温暖化は間違いなく地球環境を蝕んでいるのである。



最近ある競技の全国ジュニア選手権大会で挨拶をする機会があり、話の後半で環境問題への取り組みの重要性に触れさせてもらった。多分、子どもたちはスポーツ大会でそんな話を聞くとは予想していなかっただろうし、同伴の親たちも同じであったに違いない。意外な顔つきの皆さんを前に淡々と話しをさせてもらったが、開会式後に関係者から予想外の褒め言葉をいただいた。関係者によれば、場違いな話だけに環境問題の重要性について改めて子どもや親に認識してもらった効果があったのではないかという。当然のことであっても、また相手にはすでに分かっていることであってもできるだけ多くの機会にこの問題に触れることが大切だと思う。環境問題は立ち止まってはくれないし、人々が本気を出さなければ止まらないのだから。

広めたい地道な努力

毎年開かれる地域セミナーと担当者会議は「スポーツと環境委員会」の二大イベントである。その内容構成は委員会で揉んで作り上げるのだができるだけユニークな環境活動の取り組みが紹介されるようにしている。たとえば、9月に横浜市で開かれた地域セミナーでは「給水設備を配置してペットボトルの再利用」、「グラウンドの芝や土を傷めないようにグラウンドの選手の飲料は水に限定」、「選手の学校訪問で手土産に芝生の種子」、「ナイター開始時間の繰り上げによる電気節約」などが取り上げられた。また10月の担当者会議では「スキー大会でのCO2排出量測定」「競技会場で子どもたちに環境学習」などの試みが紹介された。

いずれも素晴らしい試みであり、多くの団体がこれらをモデルに新しい活動を展開するよう願っているのだがなかなかそうはいかない。参加者はアイデアを持ち帰るが各団体自体の活動には結びついていないのである。なにがそれを阻んでいるのだろうか。調べてみると、「リーダーシップ」、「団体構成員の意識と組織体制」、「資金」の問題にぶち当たる。リーダーシップでも組織のトップを含む幹部のそれが特に重要である。また組織運営に環境問題の担当者がしっかり位置づけられているかということも大切である。「資金」の問題はどの団体も抱えていることであるが団体が本気を出したらスポンサーや関係業者も協力してくれたという報告もある。団体には知恵が求められている。

注目されている日本スポーツ界の環境活動

オリンピック東京招致は不成功に終り、その後のサッカーW杯誘致も同様の結果に終わったが、その原因の一つとして日本スポーツ界と世界のスポーツ関係者をつなぐ国際関係の弱

さが指摘されている。アジアの最東部に位置し海に囲まれた日本は陸続きの大陸諸国に比べてそのような機会が圧倒的に少ない。今後そのような面での努力が格段に進められなければならないが、その際、日本のスポーツ界が環境活動に意欲を持つことが強い切り札となる可能性がある。物を大切にする心、節約や儉約などの国民性ととも環境問題に対応する日本の高度の科学技術は広く知られているところである。最近、ある国際大会で日本選手の環境問題での言動が強い関心を持たれていることを肌で感じたことがある。日本はいずれオリンピックの招致に再挑戦すると思うがスポーツ界の環境問題への取り組みはきっと良い影響を及ぼすにちがいない。

財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会
委員長 板橋 一太

2 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

Report of the 5th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣 旨：財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は平成13年度からスポーツ環境委員会を設置し、啓発・実践活動を推進してまいりました。この度その活動のひとつとして、第6回の地域セミナーを横浜市で開催いたします。このセミナーはスポーツ界における地球環境保全の啓発・実践活動の必要性を理解してもらい、関東地区のスポーツに携わっている皆様に当委員会の環境保全活動にご理解と実践の協力をお願いするものです。
2. 共 催：財団法人日本オリンピック委員会、横浜市（JOC パートナー都市）
3. 後 援：文部科学省、関東地方環境事務所、財団法人日本体育協会、神奈川県、神奈川県教育委員会、財団法人神奈川県体育協会、財団法人横浜市体育協会
4. 日 時：平成22年9月3日（金） 13：30～17：00
5. 場 所：横浜市開港記念会館 講堂
〒231-0005 横浜市中区本町1-6 TEL：045-201-0708
6. 参加者：JOC・日本体育協会の役員及び加盟団体、関東地区各県の体育協会、教育委員会、スポーツ関係部局、JOC パートナー企業、ワールドワイドパートナー、JOC パートナー都市関係者の環境担当者及びスポーツ指導者、一般市民、その他 約250名
7. プログラム：テーマ「スポーツの大会・イベントと環境問題について」
 - 13：30 開会
主催者挨拶
市原 則之（JOC 専務理事）
林 文子（横浜市市長）
 - 13：40 基調対談
『スポーツ界における地球環境問題の啓発・実践活動』
対談者：瀬古利彦（JOC スポーツ環境アンバサダー）
大林素子（JOC スポーツ環境アンバサダー）
コーディネーター：水野正人（IOCスポーツと環境委員会 委員）
 - 14：50 休憩
 - 15：00 プレゼンテーション
『横浜市の環境施策』
山田二郎（横浜市環境創造局 環境保全部長）
 - 15：15 パネルディスカッション
『スポーツ界における環境活動の新しい展開について』
パネリスト：吉田 章（筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授）
河原 智（横浜市卓球協会 会長）
沼田 昭司（横浜市ラグビーフットボール協会 会長）
奥寺 康彦（横浜FC 取締役会長）
コーディネーター：板橋 一太（JOC スポーツ環境専門委員長）
 - 16：50 閉会の挨拶
水野正人（IOCスポーツと環境委員会 委員）
 - 17：00 閉会

■ パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長からのメッセージ

IOC スポーツと環境委員会として、横浜市で6回 JOC スポーツと環境地域セミナーが開催されることにお慶びを申し上げます。

IOC スポーツと環境委員会は1995年に創設されて以来、スポーツ界に於ける環境保全の啓発と持続可能なスポーツとイベント実践に向けて全力を尽くして参りました。

良くご存知のように、今まで経験もしたことも無い高い気温、洪水、干ばつ、より強くなる紫外線、又降雪量の減少など地球温暖化による気候変化が具象化し又深刻になりつつあります。野外競技場では高い気温や汚染された空気が選手を悩ませるなど大きな影響があります。今こそスポーツ関係者はこの状況を踏まえ対策を講ずるべきです。JOC のパートナー都市である横浜市、又神奈川県は素質のある選手や指導者を育てるのみならず、昨年トライアスロン世界選手権など多くの国際大会を開催した最もスポーツの盛んな都市のひとつです。参加者の皆さんには現在地球が危機的状況にあることを学び、スポーツの持続可能性への努力を強化して下さい。



IOC スポーツと環境委員会
委員長 パル・シュミット

Mr. Tsunekazu Takeda

President

Japanese Olympic Committee

On behalf of the Sport and Environment Commission of the IOC, it is my great pleasure to congratulate you that the 6th JOC Sport and Environment Regional Seminar is held in Yokohama. Since its foundation in 1995, the IOC Commission has been striving to promote environmental preservation in the world of sports and to implement sustainable sport and event in the world.

As we all know that the climate change is getting more sensible and serious in recent years such as inexperienced heat wave, flood, drought, stronger ultraviolet rays and less snowfall caused by global warming. This change adversely affects sports like bothering athletes with heat and polluted air at outdoor venues. Now is the time to take actions for us involved in sport to establish not only clean sport world but also disseminate stronger and influential message to the whole world.

I'm aware the City of Yokohama, one of the partner city of the JOC and Kanagawa Prefecture are most active sport regions in Japan hosting several international sport events such as the Triathlon World Championship last year. I hope all the participants

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Pál Schmitt', written in a cursive style.

Pál Schmitt

Chairman, IOC Sport and Environment Commission

■セミナー概要

JOCは9月3日、JOCパートナー都市である横浜市と共催で「第6回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」を、横浜市開港記念会館で開催。関東地区の競技団体関係者を中心に約250名が参加。同セミナーは、地球環境保全のスポーツ界における啓発・実践活動の必要性を理解してもらい、実践の協力を呼びかけることを目的として実施。

●開会の挨拶

市原則之JOC専務理事と、横浜市の林文子市長のあいさつで開会。

市原専務理事は「JOCは2001年にスポーツ環境専門委員会を設置し、環境保全活動を推進しております。また、JOCと日本体育協会が来年100周年を迎えますが、その記念事業のひとつとして、12月11日に京都市で『スポーツと環境』をテーマにシンポジウムを開催し、より多くの方々にスポーツと環境についての係りを理解して頂こうと取り組んでおります。今セミナー開催にあたり、横浜市をはじめとする関係者に深く感謝いたします」と挨拶した。

林市長より、「横浜市では、スマート都市プロジェクトとして8年間で41%のゴミの削減を実現するなど、環境問題に先駆けて取り組んできました。また来年はバスケットのプロチームも増えるなどスポーツ振興にも力を入れております。スポーツはなんとも言えない幸福をもたらすものです」と、横浜市の環境とスポーツへの取り組みを交えて挨拶された。

●基調対談「スポーツ界における地球環境問題の啓発・実践活動」

第1部は、水野正人JOC副会長（IOCスポーツと環境委員会委員）をコーディネーターに、JOCスポーツ環境アンバサダーの瀬古利彦さんと大林素子さんによる基調対談「スポーツ界における地球環境問題の啓発・実践活動」が行われた。

水野副会長は、まず二酸化炭素の排出による地球温暖化の概要を説明。

瀬古さんはマラソンの経験を振り返り、四日市市で育ち、子供のころから光化学スモッグの中で練習し、もっと空気のきれいな場所で練習をしたいと思っていたこと。最近では、駅伝やマラソンの試合で、先頭を走る中継車が環境に配慮して、すべて電気自動車になっていることなど、日本陸上競技連盟の取り組みを紹介。

大林さんは、バレーボールの試合中クーラーの温度設定を調整、試合が終わったらすぐ照明を消すなど、具体的な事例を挙げて紹介した。

●横浜市の環境施策

横浜市の環境施策について、横浜市環境創造局の山田二郎環境保全部長が紹介した。横浜市では、「樹林

地を守る」「農地を守る」「緑をつくる」の3分野からなる「横浜みどりアップ計画」を取組んでおり、その財源確保のため昨年「横浜みどり税」を設定。市民は1人900円を5年間、法人は市民税の年間均等割額の9%相当額を課税し、みどり基金を設立、その用途を特別会計で開示。市民の方々のご協力のお陰で、計画が進められていることについて講義した。

その他、ゴミ処理に関しても、2001年に161万tだったゴミを30%削減することを目標にし、すでに41%減まで実現。生ゴミの資源化、ゴミ処理場での廃棄物発電と熱利用など、多角的な環境対策をとっていることを示した。

●パネルディスカッション「スポーツ界における環境活動の新しい展開について」

パネルディスカッション『スポーツ界における環境活動の新しい展開について』は、板橋一太JOCスポーツ環境専門委員長をコーディネーターに、吉田章・筑波大学大学院人間総合研究科教授、河原智・横浜市卓球協会会長、沼田昭司・横浜市ラグビーフットボール協会会長、奥寺康彦・横浜FC取締役会長の4人をパネリストに行われた。

吉田氏は、これからは『スポーツで環境』という考え方を持って取り組んでいく考えを示し、スポーツ界から何が発信できるかを考え実行することが大切と説明。例えば、会場でのゴミ分別は広く行われるようになったが、自治体によってゴミの分別基準が異なり開催地によって分りにくいのが現状。スポーツスタジアムの基準があってもいいのでは、と提案した。

河原氏は、「温暖化の影響もあり、昔はエアコンのない体育館でも試合ができたが、今はエアコンのない体育館で、熱中症で倒れる選手が出るなど、体育館のエアコン設置は避けられない。使い過ぎは良くないが、上手に利用していくことが大切である」と語った。また、2009年に開催した世界選手権では、ゴミを極力減らそうと、選手が試合中に飲む水の問題に取り組み、20ℓの水のタンクを準備。選手は自分のペットボトルを用意し、タンクから補充、再利用することで、本来ペットボトル5万本が必要な大会だったが、1万本以下で済ませることができたことなど、実際に取り組んでいる環境保全活動を紹介した。

沼田氏は、日本ラグビー協会の「やさしさにトライ」という標語について紹介。「これからは人に優しく、環境にも優しくという考えで取り組みたい」と話

し、2019年に開催予定の東京ワールドカップについて、2016年東京オリンピック招致を参考に、『自然と共生するコンセプト』の考えを、ラグビーワールドカップの開催にも取り組みたいと意欲を示した。

奥寺氏は、「サッカー選手の行動の影響力は大きい。スタジアムでは、ゴミの分別のほか、大画面で環境のスローガンを流して啓発したり、選手が学校訪問をした時に環境対策について子供たちに話したりと、様々な取り組みを行っている。また、スタジアムでは、持ち帰り用のプラスチックコップでジュースを売って、ゴミを減らすなど工夫している」と、活動を紹介した。

板橋委員長は「いまスポーツ界が取り組むべき活動

は、新しい展開の時期を迎えています。スポーツ人だけでなく、競技の設備業者、移動を担う輸送業者など、多くの関係者が協力関係を構築して、環境活動を進めようとする時期です」とシンポジウムをまとめた。

●閉会の挨拶

最後に水野副会長（IOC スポーツと環境委員会委員）が「横浜市の皆様、林市長を初め、パネリストの方々のお陰で有効な知識を得ることができました。このセミナーで得た情報を理解し、そして実行することを決議し、採択したいと思います」と呼びかけ、全員の拍手で決議を採択、セミナーを締めくくった。



出席者一覧

所属先	氏名	
(財) 日本オリンピック委員会	水野正人	
	市原則之	
	板橋一太	
	藤原庸介	
	浅草和敏	
	橋爪功	
	瀬古利彦	
大林素子		
横浜市市長	林文子	
神奈川県	山崎博	
財団法人 神奈川県体育協会	吉田一久	
	大野徹	
財団法人 横浜市体育協会	奥山直樹	
	五反田哲哉	
財団法人 東京都体育協会	大久保拳志	
	中野英則	
(財) 日本水泳連盟	角田真司	
(財) 日本サッカー協会	齋藤由紀	
(財) 全日本スキー連盟	玉利聡一	
(財) 日本テニス協会	宮沢賢一	
(社) 日本ボート協会	田中章一	
(社) 日本ホッケー協会	小野寺等	
	大河原邦之	
(社) 日本アマチュアボクシング連盟	牧島秀夫	
(財) 日本バレーボール協会	寺崎誠	
(財) 日本バスケットボール協会	上杉忠	
(財) 日本スケート連盟	羽角国広	
(財) 日本アイスホッケー連盟	加藤真弓	
(財) 日本セーリング連盟	君塚晋	
(社) 日本ウエイトリフティング協会	青山篤	
(財) 日本ハンドボール協会	米田迪	
(財) 日本自転車競技連盟	新木康稔	
(財) 日本ソフトテニス連盟	大池新次	
(財) 日本卓球協会	柳下秋久	
(財) 全日本軟式野球連盟	後藤広子	
(社) 日本フェンシング協会	長久保由治	
(財) 日本ソフトボール協会	安藤哲二郎	
(財) 日本ラグビーフットボール協会	鈴木征	
横浜市卓球協会	高野敬一郎	
	岩上教行	
	尾形好雄	
	生沼剛	
	(社) 日本空手道連盟	矢島孝一郎
	(社) 日本カールリング協会	小川豊和
	(社) 日本トライアスロン連合	鈴木信之
	(社) 日本ボディビル連盟	磯野武夫
	(社) 日本ダンススポーツ連盟	隅田雄一
	(特非) 日本クリケット協会	宮地直樹
	日本ローラースポーツ連盟	清宮邦雄
	(社) 日本パワーリフティング協会	宮本英尚
横浜市卓球協会	河原智	
	渡辺良雄	
	妹尾愛子	
	工藤司朗	
	椎名一男	
	中村孝太郎	
	平井建昭	
横浜市レディース卓球連盟	阿部陽子	
	武居和子	
	佐藤久子	
横浜市レクリエーション卓球連盟	横山千代美	
	村田早苗	
横浜市ラグビーフットボール協会	兼子ひろみ	
	加瀬茂子	
横浜市ソフトボール協会	野水幸子	
	沼田昭司	
横浜市山岳協会	松浦隆	
	廣瀬正春	
横浜市クレー射撃協会	榎本輝昭	
	石井清一	
横浜市なぎなた連盟	今村逸夫	
横浜市アーチェリー協会	桑原ひろみ	
	若林武正	

所属先	氏名
横浜市空手道連盟	山口文利
横浜市ダンススポーツ連盟	鈴木信夫
横浜バレーボール協会	五十嵐裕子
横浜市陸上競技協会	陣貞夫
青葉スポーツセンター	鶴園卓也
金沢スポーツセンター	前崎裕彰
港北スポーツセンター	堀川忠雄
栄スポーツセンター	藤沢重利
瀬谷スポーツセンター	谷慎也
都築スポーツセンター	横田春男
戸塚スポーツセンター	吉田文雄
中スポーツセンター	矢部寛和
西スポーツセンター	畑田康
緑スポーツセンター	森脇りさ子
南スポーツセンター	藤田茜
神奈川スポーツセンター	砂川恵一
保土ヶ谷スポーツセンター	田村晋
横浜文化体育館	河野樹夫
横浜市スポーツ医学センター	長濱悟史
鶴見川漕艇場	増田崇秀
三ツ沢公園	森下直泰
(財) 横浜市体育協会	森山明
	白鳥純生
	高橋一男
	金子忠彦
	國分昭男
	植木克典
	今井健雄
	天野直樹
	渡辺憲二
	堀川修二
	福川摩乙
	橋谷田和彦
(財) 横浜市レクリエーション協会	山口陽介
鶴見区体育協会	平井洵子
中区体育協会	山口宏
緑区体育協会	杉山郡啓
泉区体育協会	有泉昌雄
(財) 川崎市体育協会	常盤智之
藤沢市体育協会	五島三津雄
茅ヶ崎市体育協会	設楽孝治
(財) 厚木市体育協会	石田洋史
横浜市立小学校体育研究会	大熊賢司
神奈川県小学校体育研究会	馬場正徳
神奈川中学校体育連盟	木下泰雄
横浜市体育指導委員連絡協議会	藤原正章
	柴田武志
	久米元夫
筑波大学大学院	太田智忠
(株) 横浜フリースポーツクラブ	池上啓二
横浜マリノス (株)	吉田章
八千代エンジニアリング (株)	奥寺康彦
NPO 法人 ともに浜をつくる会	荒川祐輔
(株) 横浜アーチスト	佐々木伸一
(株) 相鉄エージェンシー	門脇由希大
(株) 日テレイベンツ	岩澤弘泰
(財) 横浜観光コンベンションビューロー	楠本健司
全日本潜水連盟	関裕之
NPO 法人 未来に残そう青い海	須田祐貴
横浜金沢産業連絡協議会	服部健司
横浜市環境創造局	渡辺康浩
環境科学研究所	本郷昌宏
横浜市環境創造局みどりアップ推進課	佐々木明
	田中信幸
	荒川隆
	吉村忍
	計屋賢二
	寺島俊介
	蓮野智久
	石井彰
	上原直子
	伊藤高志

所属先	氏名	
横浜市環境創造局南部農政事務所	関正彦	
横浜市環境創造局環境保全部	山田二郎	
横浜市環境創造局環境保全部規制指導課	榎康則	
横浜市環境創造局西部水再生センター	堀義彦	
横浜市地球温暖化対策事業本部地球温暖化対策課	高橋俊和	
横浜市市民局	谷内徹	
横浜市市民局スポーツ振興部	西山雄二	
横浜市市民局スポーツ振興課	小泉英一	
	酒井信治	
	宮崎三美	
	宮田純一	
ミズノ (株)	小濱絵梨	
(株) アシックス	岡田正子	
(株) スケール	鳴尾幸治郎	
(株) 日本旅行	太田啓滋	
近畿日本ツーリスト (株)	伊藤政照	
神戸市	小谷昌徳	
一般財団法人 基幹法政院 国際スポーツ研究・交流センター	杉浦洋介	
(財) 横浜市体育協会 (スポーツ情報センター長)	若松英樹	
アプロスポーツ (株)	大前圭一	
(株) フォート・キシモト	村山哲朗	
東京新聞	真城千春	
博報堂 DY メディアパートナーズ	(財) 横浜市体育協会 (スポーツ情報センター長)	山野純子
	アプロスポーツ (株)	中西祐介
	(株) フォート・キシモト	二宮渉
	川廷昌弘	中山裕章
	酒井達朗	榎本芳久
	前田独平	大崎暁美
	若林茂樹	野口美恵
JOC 事務局	阿部幹雄	
	渡辺稔一	
	尾畑雄志	

3 第7回スポーツと環境担当者会議開催報告

Report of the 6th National Sports Federations Conference on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣 旨：スポーツと環境に関する啓発・実践活動の理解と、関係団体及び多くの関係者との環境保全について相互の連携、活動の推進を図るために標記会議を開催する。
2. 主 催：(財)日本オリンピック委員会
3. 後 援：文部科学省、環境省、(財)日本体育協会
4. 日 時：平成22年10月29日（金）13：30～17：00
5. 場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター 1階 研修室
〒115-0056 北区西が丘3-15-1 TEL：03-5963-0400
6. 出席範囲：①本会役員、スポーツ環境専門委員、アスリート専門委員、スポーツ環境アンバサダー
②本会加盟団体環境担当者（3名程度）
③JOCパートナー企業／ワールドワイドパートナー 計 約100名
7. プログラム：テーマ『スポーツと環境・新たな取り組みについて』

13：00	受付
13：30	開会挨拶 JOC 副会長 水野正人
13：40	環境省との連携について ～ チャレンジ25とスポーツ界との連携 ～ 対談：環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 国民生活対策室長 植田明浩 JOC スポーツ環境アンバサダー 中村 淳子 JOC スポーツ環境専門委員長（コーディネーター） 板橋一太
14：20	オリンピックと環境問題について ～ バンクーバー冬季オリンピックを終えて ～ 対談：IOC スポーツと環境委員 水野 正人 (株)博報堂DY メディアパートナーズ 野口美恵
15：30	休憩
15：40	競技会場の施設と環境について ～ スポーツ大会の運営とその施設での実践活動 ～ 報告：スキー・猪苗代の取り組み 福島県会津地方振興局局长 畠 利行
16：15	環境活動の今後の展開について IOC スポーツと環境委員（JOC 副会長） 水野正人
17：00	閉会挨拶 JOC スポーツ環境専門委員長 板橋 一太

■ 会議概要

JOCは10月29日、「第7回スポーツと環境担当者会議」を味の素ナショナルトレーニングセンターで開催しました。JOC スポーツ環境専門委員、スポーツ環境アンバサダー、競技団体の担当者など約90名が参加、スポーツと環境に関する啓発・実践活動の理解と相互連携を図った。

■ 開会の挨拶

はじめに、国際オリンピック委員会（IOC）スポーツと環境委員の水野正人 JOC 副会長より、「IOCは1990年代に、『環境』をオリンピックムーブメントに加えることを決定し、環境活動に取り組んできました。各競技団体で、これなら取り組んでみようかということを考えながら今日のセミナーに参加いただきたいと思っています」と挨拶。

■ 環境省との連携 チャレンジ25の推進と協力

第一部では、「環境省との連携について～チャレンジ25とスポーツ間の連携について～」と題し、環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室の植田明浩室長、JOC スポーツ環境アンバサダーの中村淳子さんを招き、JOC スポーツ環境専門委員会板橋一太委員長がコーディネーターを務めて対談。

植田室長は「JOCと環境省は長い間連携し活動をしてきました。スポーツ界を通じた広報普及活動は、今や切っても切れない関係になっております」と話し、環境省が現在進めている「チャレンジ25」と、2009年度まで行っていた『チームマイナス6%』について紹介。1990年比での温室効果ガス6%削減を目標にした『チームマイナス6%』は2005年度から始まり、同25%削減を目指す『チャレンジ25』は2009年度から推進。植田室長は「どちらもストップ温暖化に向けて国民一丸となって取り組むという点では同じ。ただし、6%の削減は身近な取り組みで達成出来る目標だったことから、こまめに電気を消すなどの個人が取り組めるものが中心でした。しかし25%削減という目標と

なると、社会全体や地域全体で取り組む必要が出てきます。エコ住宅、カーボンオフセット、地産地消などの取り組みが加わったことが新しい点です」と紹介。企業・団体と個人それぞれでチャレンジャーの登録を募集しており、個人チャレンジャーはすでに40万人を超えていると報告された。

また、「スポーツと連携して地道に広報啓発活動をしなければならないと感じています。ストップ温暖化の活動は、自転車に乗るなど健康じゃないと出来ない取り組みも多いです。健康＝エコというイメージがあるので、スポーツ活動をされる方々に活動をぜひ広めていただきたいと思います」と呼びかけた。

続いてアンバサダーの中村さんが身近な取り組みについて、「家庭で生活していると毎日のゴミの量に驚かされています。アンバサダーという立場になり、環境省のウェブサイトを見て勉強するうちに、小さな意識の差で取組めることがたくさんあると分かりました。まずは新しく購入する電化製品を省エネタイプにするなど意識しています」と話しをされ、現在住まれている自治体の取組みについても紹介した。「私の自治体での取り組みは、これまでの3R（Reduce, Reuse, Recycle）から5R（3RとRepair, Refuse）になり、それを参考にしています。Repairは壊れたものも修理して使うこと、Refuseは不要なものは買わない、もらわないということです。買い物をした時に過剰な包装紙を断ったりする心がけを始めました。また児童館では、牛乳パックの空き箱で椅子を作ったり、空のペットボトルでおもちゃを作ったりしているのを見て、新しいものを買わなくても工夫次第で出来ることがあるのだと気付かされています」と話し、小さな心がけの積み重ねが大切だと訴えた。最後に、「私たち



は、世界を目指すスポーツ選手・指導者なので、世界全体の環境を意識した啓発活動を考えていきたいと思っています」と環境啓発への意気込みを語った。

板橋委員長は、「IOCでは『サステイナブル（持続可能）なスポーツ活動』という観点から環境活動を展開していますが、言葉は違っても中身は同じ。JOCと環境省で連携しながら環境対策を進めていくことが、IOCの目指すサステナビリティにつながっていきます」とIOCとの関わりについて触れ、対談を締めくくりました。

■バンクーバー冬季オリンピックの環境対策

続いて『オリンピックと環境について～バンクーバー冬季オリンピックを終えて～』と題し水野副会長と、JOCのホームページ担当としてバンクーバー大会の取材をした博報堂DYメディアパートナーズの野口美恵さんが対談。

水野副会長は「バンクーバー大会は、私たちはスプリングオリンピックと呼んだほど暖かく、雪不足に悩まされた大会でした。組織委員会では、SSET（持続可能性・スポーツ・イベント・道具箱）という手法を立ち上げて環境対策に取り組んでいました」と、バンクーバー大会の概要を説明。大会組織委員会の取り組みについて、野口さんは「大会誘致が決定した7年前から、組織委員会は環境の専門部会を作り、計画を実行してきました。環境専門のコンサルタント会社と契約するなど、地域や社会を取り込み組織的に環境対策に取り組んだ大会として、ロゲIOC会長や各メディアでも高い評価を受ける大会となりました」と全体像を紹介した。

そして具体的な取組みとして（1）シンボルとなる建物の建設、（2）グリーンビルディングガイドラインの設定により一定の指標作り、（3）水関連施設の廃熱を電気に再利用、（4）政府や企業を巻きこんだ活動——という4つの柱が紹介され、「まず（1）のシンボルについては、松くい虫の被害にあったパイン材を天井に利用したスピードスケート会場『オリンピックオーバル』の取り組みが、特徴のある活動で人々の心に印象付けることが出来ました。さらに（2）のグリーンビルディングガイドラインは、建物の環境配慮を評価するものですが、これまでバンクーバーには環境基準がなかったので新しい取り組みでした。（3）の廃熱の再利用は、日本のスケートリンクでもプールを併設するなど昔から行われている取り組みですが、すべての施設で行ったという所に意味があります。（4）はスター制度という表彰で、環境貢献・社会貢献・経済貢献などにつながる活動をしたスポンサーや納品業者、政府など62の団体が、選手のメダルセレモニーと同じ会場で表彰を受けました」と具体的な取り組みを取り上げ説明。

最後に、「この組織委員会が目指したゴールは、デモンストレーションです。さまざまな取り組みを可能な限り行い、1つでも多く人々の目に触れ、次の行動へのお手本やきっかけになることが目標です。会場の売店で使う食器を再生紙や廃材を使うなど目に見える



小さな取り組みをする一方で、選手村の建物の全体で非常にエネルギー効率の高いシステムを導入するなど目に見えない部分で大量の温暖化ガス削減も実行している。ソフト面とハード面から上手に環境対策を実行し、これ以上思いつかないくらい全力で取り組んだことが、バンクーバーの組織委員会が目指したサステナビリティの形でした」と結論付けた。

また大会組織委員会の取り組みという観点から、水野副会長は日本水泳連盟の取り組みを例に挙げ、「大会時のリザルト等紙で配布していたものを、ネット上に掲載するようにし、消費する紙を削減しました。また選手・役員に配布していたペットボトルの水も、大きなタンクを用意し、マイボトルを使うか紙コップを1人1個まで配布する方式にして、ペットボトル削減につなげました。各競技団体でも参考にしていただければと思います」と呼びかけた。

■ FIS フリースタイルスキー世界選手権 猪苗代大会でのカーボンオフセット

第二部は、『競技会場の施設と環境について～スポーツ大会の運営とその施設での実践活動～』として、猪苗代で行われた2009FIS フリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会（2009年3月2日～8日、猪苗代町・磐梯町）での取り組みについて、福島県会津地方振興局の畠行局長から報告。

この大会は、大会開催に伴い排出された二酸化炭素をグリーン電力証書によってオフセットするという、非常に画期的な取り組みで注目を集めた。畠局長は「まず大会全体での二酸化炭素の削減努力をしました。エコカーやハイブリッドカーの利用、ゴミの分別持ち帰り、公共機関利用の呼びかけと、鉄道での輸送。さらに自然エネルギー導入の検討として、太陽光発電や温泉廃湯利用ヒートポンプの導入などを検討しました」と、二酸化炭素の削減努力について紹介。「4つの競技会場、宿泊施設、式典会場、交通機関やシャトルバスなどの消費電力量や使用量から算出した排出量は272t。これを、郡山布引高原風力発電所や太陽光発電設備で生み出された自然エネルギーの環境価値分によるグリーン電力証書で、カーボンオフセットしました」と説明。この事業は、平成20年（2008年）度環境省カーボン・オフセットモデル事業にも認定され、補助金を受けて実施された。



さらに事業の成功だけでなく、普及啓発活動にも発展させた旨も説明し、「福島県スキー連盟の協力をいただき、未来の環境共生スキーヤー育成事業を行いました。まず小中学生を無料送迎バスでのべ36台1700人招待し、競技観戦を通してスキーに関心を持ってもらいました。同時に、地球温暖化に関する学習の時間を設け環境教育を行いました。スキーは温暖化が進むと出来なくなってしまう競技です。温暖化防止に一丸となって取り組んでいます」と、非常に先進的かつ組織的な取り組みをした事例を取り上げて説明された。

■競技施設での取り組みを紹介、水野IOCスポーツと環境委員

続いて、「環境活動の今後の展開について」として、水野IOCスポーツと環境委員が登壇。地球温暖化の原因や、IOCにおけるこれまでの環境活動や決議を説明。その上で、各競技施設ではどんな取り組みが行われているかを、各競技施設の写真を交えながら紹介した。「大阪市中央体育館は、天井全体が緑で覆われており、雨水も再利用しています。北神戸田園スポーツ公園は、緑をたくさん残した施設で、太陽光発電なども行っている。東京都はすべての小学校の校庭で、芝生化を進めています。今後のオリンピック招致においても環境活動への取り組みが重要になってきますので、日本国内での事例をこれからも多く集めていきたいです」と話し、最後に「スポーツ競技には、その施設が欠かせません。私たちは、施設の環境に配慮

していくことを考えていきましょう」と呼びかけた。

■競技団体環境活動についての報告

(財)日本陸上競技連盟 石上敬久総務部長から、連盟主催の大会において、環境ブースのテントを必ず出して、環境啓発、チャレンジ25への会員の呼び掛け等を行っていること。紙削減の取り組みとしてパソコンやiPadを取り入れる計画などを検討していること。また、キッズアスリートプロジェクトの中で花の種を参加者に配布し、花一杯運動を実施していることを報告。

(財)日本サッカー協会玉利聡一総務部係長(環境プロジェクトメンバー)から、協会として取り組んでいる『クリーンサポーター活動』と題した、試合後観客と一緒に清掃活動を行う取り組みについて説明。また、今後の展望として、指導者を対象に、環境啓発について理解してもらえるプログラムを作成し、競技指導と併せて環境啓発への理解を持ってもらえるようコミュニケーションを図るシステムを検討中と報告。

(財)日本テニス協会 生沼明人JTAスポーツ環境委員から、協会作成の環境啓発ポスターを紹介。ジュニア選手の大会を中心にポスターを掲載し、指導者でもある松岡修造氏を中心に環境啓発活動を行っていることを報告。

(社)日本アマチュアボクシング連盟 寺崎誠常務理事より、大会では紙削減、ゴミの分別などを呼びかけると共に、懇親会等の場で寺崎常務理事から地球温暖化をテーマにした話しを行い、環境問題についてより多くの方に理解してもらおう取り組んでいることが報告。

■閉会の挨拶

最後に、板橋委員長から「バンクーバーの環境活動はIOCの環境活動のスタンダードになっていくと思われれます。猪苗代の取り組みは、カーボンオフセットの考え方や二酸化炭素排出量を測定するという姿勢が重要だったことから紹介いただきました。今回得た情報をもとに、それぞれの立場から環境対策に取り組んでいただきたいと思います」とあいさつし、有意義な会議を締めくくりました。

出席者一覧

敬称略・順不同

所属先	出席者名
JOC	水野正人
	板橋一太
	藤原庸介
JOC スポーツ環境専門委員会	佐野和夫
	浅草和敏
	風間明
	鎌賀秀夫
	橋爪功
	平松純子
	村里敏彰
	中村淳子
環境省	植田明浩
	相澤和春
福島県会津地方振興局	畠利行
(株) ジェイティービー	倉田知己
	三林史明
(財) 日本陸上競技連盟	風間明
	有澤政雄
	石上敬久
(財) 日本水泳連盟	齋藤由紀
	丸笹公一郎
	林正洋
	小川知伸
(財) 日本サッカー協会	玉利聡一
(財) 日本テニス協会	生沼明人
(社) 日本ホッケー協会	寺田一夫
(社) 日本アマチュアボクシング連盟	寺崎誠
(財) 日本バレーボール協会	橋口陽一
	上杉忠
	斎藤聖二
(財) 日本バスケットボール協会	松岡憲四郎
	乙守亜記
(財) 日本スケート連盟	新田俊彦
(財) 日本アイスホッケー連盟	君塚晋
(財) 日本レスリング協会	外川三郎
	関貴文
	大橋正教
(財) 日本セーリング連盟	青山篤
(財) 日本ハンドボール協会	川上憲太
	村上隆
(財) 日本自転車競技連盟	大池新次
(財) 日本ソフトテニス連盟	田中正男
(財) 日本卓球協会	佐藤勲
(財) 全日本軟式野球連盟	牧野勝行
	長久保由治

所属先	出席者名
(財) 日本相撲連盟	新井宏宣
(財) 全日本柔道連盟	坂本健司
(社) 日本馬術連盟	大波多廣一
	矢作直也
	飯田悟
(社) 日本フェンシング協会	川口大三
(財) 日本ソフトボール協会	鈴木征
	上山政樹
(財) 日本バドミントン協会	近田昭
	本多修治
(財) 全日本弓道連盟	戸部孝仁
(財) 全日本剣道連盟	吉澤菊夫
(社) 日本近代五種・バイアスロン連合	荒木大三
(財) 日本ラグビーフットボール協会	高野敬一郎
	児玉隆一郎
	大山高行
(社) 日本山岳協会	松隅豊
(社) 全日本アーチェリー連盟	穂苺美奈子
(社) 全日本銃剣道連盟	藤田廣大
(財) 全日本ボウリング協会	宮内久美子
(社) 日本カーリング協会	舟本正子
(社) 日本トライアスロン連合	鈴木信之
	松生治子
(財) 日本ゴルフ協会	林忠男
(社) 日本スカッシュ協会	小前ひろみ
(社) 日本ビリヤード協会	東仙明彦
(社) 日本ボディビル連盟	磯野武夫
	高岡光弘
(社) 全日本テコンドー協会	高橋秀肇
(社) 日本ダンススポーツ連盟	岸尾政弘
日本カバディ協会	河合陽児
日本ローラースポーツ連盟	清宮邦雄
(株) 博報堂	酒井達朗
(株) 博報堂DYメディアパートナーズ	中山裕章
	前田独平
	大崎暁美
	野口美恵
アフロススポーツ	戸村功臣
フォート・キシモト	二宮涉
	横山健太
事業・広報部	細倉浩司
	渡辺稔一
	尾畑雄志

4 スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

(1)各競技団体等の活動

(財)日本陸上競技連盟	64	(財)全日本柔道連盟	89
(財)日本水泳連盟	66	(財)日本ソフトボール協会	90
(財)日本サッカー協会	67	(財)日本バドミントン協会	91
(財)全日本スキー連盟	69	(財)全日本弓道連盟	92
(財)日本テニス協会	70	(社)日本ライフル射撃協会	92
(社)日本ボート協会	71	(財)全日本剣道連盟	93
(社)日本ホッケー協会	72	(社)日本近代五種・バイアスロン連合	94
(社)日本アマチュアボクシング連盟	72	(財)日本ラグビーフットボール協会	95
公益財団法人 日本バレーボール協会	73	(社)日本山岳協会	96
(財)日本体操協会	74	公益社団法人 日本カヌー連盟	97
(財)日本バスケットボール協会	75	(財)全日本空手道連盟	97
(財)日本スケート連盟	76	(社)全日本銃剣道連盟	98
(財)日本アイスホッケー連盟	77	(財)全日本ボウリング協会	99
(財)日本レスリング協会	78	全日本アマチュア野球連盟	100
(財)日本セーリング連盟	80	(社)日本カーリング協会	101
(社)日本ウエイトリフティング協会	82	(社)日本トライアスロン連合	101
(財)日本ハンドボール協会	83	(財)日本ゴルフ協会	102
(財)日本自転車競技連盟	84	(社)日本スカッシュ協会	103
(財)日本ソフトテニス連盟	85	(社)日本ボディビル連盟	104
(財)日本卓球協会	86	(社)全日本テコンドー協会	105
(財)全日本軟式野球連盟	87	日本カバディ協会	106
(社)日本馬術連盟	88	日本セパタクロー協会	107
(社)日本フェンシング協会	88	特定非営利活動法人 日本ローラースポーツ連盟	108

(2)スポーツ環境専門委員・アンバサダーの活動

瀬古 利彦〈スポーツ環境アンバサダー〉	109
岩崎 恭子〈スポーツ環境アンバサダー〉	110
原田 早穂〈スポーツ環境アンバサダー〉	111
松岡 修造〈スポーツ環境アンバサダー〉	112
大林 素子〈スポーツ環境アンバサダー〉	114
塚原 光男〈スポーツ環境アンバサダー〉	116
田南部 力〈スポーツ環境アンバサダー〉	118

(1) 各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

(財)日本陸上競技連盟

1. 実施概要

世界規模で「地球環境保全」が叫ばれております。スポーツ界でも環境問題は避けて通る事のできない大きなテーマです。オリンピック開催に際しても、環境への配慮が大きな関心を集めております。陸上界も日本陸連は、いち早くこの問題に対処すべく、平成18年に総務委員会に環境プロジェクトを作り、その後、[JAAF グリーンプロジェクト] を立ち上げ、環境省ともタイアップし「チームマイナス6%」→「チャレンジ25」の募集活動と地球温暖化防止のPR、啓発活動を主催大会会場に於いて積極的に展開してきました。さらに日本陸連が地域活性化イベントとして展開している「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」とタイアップし子ども達、将来のアスリートに環境問題の大切さを訴えております。

2. 平成22年度事業活動

- ・ 主催大会会場にて環境ブースを設置し環境活動を展開
- ・ 啓発ポスター(陸連独自のポスターの作成・JOC ポスター)
- ・ チャレンジ25宣言者の募集
- ・ 花の種の作成と配布
- ・ 大会プログラムに「温暖化防止のPR」の掲載
- ・ 新横断幕の作成と大会会場に環境PRの横断幕を掲示
- ・ 記念植樹
- ・ IT化の推進によるプログラム、リザルト等の紙減量運動の展開
- ・ ごみ分別の指導

3. 具体的な活動実施内容とその成果(事業活動)

- 東京都お台場の森に東京マラソンの寄付金で植樹50本 4月
- 第94回日本陸上競技選手権大会(丸亀) 6月4日～6日
環境保全PRのプログラム掲載と横断幕掲示
- 第94回日本陸上競技選手権大会混成競技(川崎) 6月12日～13日
チャレンジ25の横断幕を掲示
花の種400袋配布
表彰式で「チャレンジ25」横断幕を持って選手と記念撮影
- キッズアスリート・プロジェクト(群馬) 6月18日
花の種200袋を提供し、花一杯運動と環境保全キャンペーンを陸連環境大使の「瀬古利彦氏」より講演

- “日清食品カップ” 第26回全国小学生陸上交流大会（東京）8月27日～28日
横断幕の掲示、花の種800袋配布 ポスター20枚 JOC 分10枚各所に掲載
ブース2ヶ所設置しチャレンジ25の宣言者の募集2日間で：231件
- 千葉国体（千葉）10月2日～3日
環境啓蒙キャンペーン、JAAF グリーンプロジェクト用「ブース」を設置
環境横断幕の掲示、陸連ポスター、JOC ポスターの掲示
花の種600袋の配布とチャレンジ25宣言者募集：335件
- 第41回ジュニアオリンピック（横浜）10月23日～24日
環境ブースを設置し JAAF グリーンプロジェクト活動の推進
花の種の配布、体協100周年記念バッチの配布
チャレンジ25宣言者募集：282件
- 皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝（京都）23年1月16日
環境横断幕を掲示
- 天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝（広島）23年1月23日
環境横断幕を掲示
- キッズアスリート・プロジェクト（京都）2月15日
環境横断幕の掲示 環境 PR （ポスター掲示）
花の種の配布500袋
- 東京マラソンフィニッシュ地点に環境横断幕を掲示 2月27日
- びわ湖毎日マラソンにて花の種配布 3月6日

4. 全体的な成果と今後の課題（JOC スポーツ環境専門委員／風間明）

主催大会会場にて実施してきた環境活動（陸連独自の環境ポスター・横断幕等の掲示、掲載・プログラム紙上での PR・植樹・花の種の配布等）の成果は十分な手ごたえを感じている。また、会場に来られる観衆に対する環境省とのタイアップによる国民的運動「チャレンジ25」の宣言者募集活動も努力が実っています。これからは啓蒙、啓発活動から一歩前進し実践活動へ移行し、競技会の運営のなかに資源、エネルギーの節減に努めるよう提案、指導し、大会の IT 化を促進させ特に紙減量を目標に掲げて行きたい。関係者一人一人が環境保全の重要性を十分に認識していただき、身の周りのことから実践頂けるよう啓蒙、啓発活動を継続して行きたい。

特に今後は将来を担う子ども達をターゲットにした環境保全の行動指針を考え、地球温暖化防止を共に考えて行きたい。

(JAAF グリーンプロジェクト)

(財)日本水泳連盟

1. 実施概要

最重要資源としての『水』に直接かかわる競技団体として、地球を取り巻く状況およびその環境整備を常に心がけるよう、積極的かつ持続できる身近な活動を行い、また、水泳3団体と共催コンテストを実施するなどして、関係者が共通認識を持つことで活動の幅を拡大・促進し、連携の輪を広げる。

2. 平成22年度事業活動

- ・第2回 エココンテスト 実施 (エコスローガンの募集)
- ・第3回 エココンテスト 企画
- ・エコグッズ作成による啓蒙活動
- ・マイボトル推進運動
- ・競技会等における継続的環境啓発ポスター・バナー掲示、チラシ配布

3. 具体的活動実施内容とその成果

<第2回エココンテスト>

水泳3団体共催でエコスローガン募集、応募総数256通からグランプリを決定し、(財)日本水泳連盟主催「ジャパンオープン」(平成23年6月4日)開始式にて表彰。

=グランプリ受賞作=

『かえないで。みずとくうきのあおいほし。』(水嶋小裕希さん 7歳)

※受賞作品のバナー・広告データ作成、大会プログラム等に使用するなど、啓発活動に活用する。

<エコグッズの作成>

- 1) マイボトル: 全国JOCジュニアオリンピックカップ参加記念品として参加者全員に配布
- 2) エコバッジ: 新デザインエコバッジ作成(5000個)。競技役員・選手団等に使用海外での啓蒙活動にも使用する。
- 3) エコバッグ: 各大会監督者会議時に配布資料と共に配布し、参加者はその後これを携帯し繰り返し使用する。

<マイボトル推進運動>

環境省マイボトル・マイカップ普及促進キャンペーンに伴い、ペットボトルの使用を廃止し、タンクボトル(洗浄・殺菌消毒後繰り返し利用)を採用。

その結果、2.2キロリットル(500mlペットボトル4,400本分)削減

<『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化>

<環境バナー・ポスター・チラシの継続的配布>

4. 全体的な成果と今後の課題

継続的啓蒙活動の一環として始まったエココンテストは3年目を迎え、競技団体内部だけではなく、愛好者も参加する大きな活動の輪を広げつつある。

今後も、このような社会とのつながりを持った活動の輪を益々拡大し、関係者一人一人も直接水資源にかかわる事から、より積極的に環境活動に参加するよう啓発活動を推進したい。

【JOC スポーツ環境専門委員 佐野 和夫】

財団法人日本水泳連盟では、スポーツ団体が取り組むことのできる環境活動の重要性を認識し、2005年にスポーツ環境委員会を発足させて以来、新しい環境活動を提言し、継続的活動を積極的に行ってきた。また、自然に深く関わる競技ならではの視点から環境問題を身近にとらえ、活動の輪を広げてきた。

今後も、身近な環境活動を地道に続け、日本水泳界全体にエコ活動の普及、徹底していきけるよう、今後も努力していきたい。

(財)日本サッカー協会

1. 実施概要

JFAの「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境3原則（2009年7月に署名）、そして、環境省「チャレンジ25キャンペーン」（2010年1月に登録）に基づき各種活動の継続実施を行った。また、環境プロジェクトにおいては、「地球で一番愛されているスポーツだからこそ地球を一番愛しているスポーツへ」をテーマに活動を再開した。

2. 平成22年度事業活動

- ・主催/後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- ・主催競技会におけるシャトルバス手配等による環境負荷への配慮
- ・主催競技会におけるクリーンスタジアム活動の継続
- ・JFA グリーンプロジェクトの推進
- ・Jリーグ各クラブの環境活動に関する活動把握や一部クラブへの活動ヒアリング/アドバイスの実施
- ・環境プロジェクトを通じた各種啓発活動の推進
- ・国連グローバル・コンパクトの国内分科会活動参加によるケーススタディの研究や情報収集活動
- ・オフィス（JFAハウス）における環境への配慮（クールビズ・ウォームビズの実施等）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<競技会における代表的な活動>

7競技会/約1,800名の参加により、クリーンサポーター活動は通算にて100回以上の開催、1万7,000名以上の累計参加となった。また、今年度はフットサル日本代表の壮行試合での実施も行った。

<JFA グリーンプロジェクト>

前年同様、都道府県サッカー協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。スポーツを親しむ環境整備に向けた47都道府県へのアプローチを実施した。

<環境プロジェクト>

ワールドカップ等各種事情により一時活動を中断したが、再開後、理事メンバーへの環境活動への趣旨説明、啓発活動や実験的に指導者講習会（資格更新のためのリフレッシュ講習

会)での環境啓発講演を実施した。

< Jリーグ >

リーグをはじめ各種クラブにて活動を実施しているが、一部事例を下記に記載。

名古屋グランパス	選手/サポーター/中部電力/地域行政と共に植樹イベントを実施。また、カーボン・オフセット EXPO にて基調講演を実施した。
ガンバ大阪	追手門学院大学との交流/スポンサーシップから、ユース選手の受け入れ、大学生の環境活動へのボランティア参加等、広く協業を開始した。
京都サンガ	サポーターから提供を受けた廃油から選手バスへのバイオディーゼル燃料の給油を実施した。
川崎フロンターレ	市民団体の協力により、クラブハウスに太陽年温水器を設置。年間約3億tの二酸化炭素排出量の削減が見込まれる。
ヴィッセル神戸	エコプロジェクト活動を継続、床発電システムについて10試合以上での計画、実施となりました。

4. 全体的な成果と今後の課題

各地域の競技会、Jリーグにおける活動、日本代表戦を通じた各種清掃活動や啓発活動を通じて、確実に環境への意識は浸透している。一方、今年度については、本協会都合にて環境活動を実施しきれないものもあった為、これからは、改めて啓発活動や実践活動を実施していきたい。

具体的な成果として、一部ご紹介したい。

- ・JFA プロジェクト活動再開に伴い、指導者への環境教育の検討を開始した。テスト・イベントとして神奈川県サッカー協会主催の指導者講習会にて、「サッカーと環境活動」についての講演活動を実施した。
- ・ヴィッセル神戸 床発電システムの取組がCNNに取り上げられ、国内外を含め、サッカー界の活動への関心の喚起や啓発に役立った。
- ・名古屋グランパス 植樹祭イベントについては、JFAでも視察を実施したが、クラブ・選手・サポーター・スポンサー・地域行政関係者が一体となり、植樹を実施したもので、参加型エコイベントとして非常に有用なものであった。その結果、カーボン・オフセット EXPO 講演依頼の対応を行うなど、その場を通じてJFA・その他クラブの活動概要もプレゼンテーションを行い、サッカー界の活動広報に役立った。

【JOC スポーツ環境専門委員 田嶋幸三氏】

2010年度は、FIFA ワールドカップ南アフリカ大会の各種準備/本番等の対応との兼ね合いから、各種環境活動への取組が停滞するものがあつた。残念でならない部分もあるが、役員改選に伴い、岡田理事が環境プロジェクトの新リーダーに就任したことや環境プロジェクト・メンバーに環境省からメンバー参加を頂くなど、来年度に向けた各種活動の基礎を築くことができたと評価している。

また、Jリーグでの活動も基本的な地域清掃・スタジアムでのゴミ分別活動がもはやチーム・サポーターにとって当たり前の活動となり、一部のクラブでは地域ごとの特徴的な活動やクラブ職員のアイデアから企業や地域を動かす魅力的な活動が誕生している。今後もアイデアや工夫に富んだ活動を応援していきたい。

(財)全日本スキー連盟

1. 実施概要

本連盟は冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉え、「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し6年目を迎えている。このキャンペーンでは、「自然に対する感謝を表す活動」、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」という四つのキーワードを掲げ、「雪」を通して環境保全に対する啓発活動を行っている。

2. 平成22年度事業活動

- ・チャレンジ25キャンペーンへのチャレンジャー登録活動
- ・「I LOVE SNOW エコアクション」の展開
- ・オリンピックズ FUN FESTA in NOZAWA の開催
- ・東京スノーワールド in お台場 への協力

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<チャレンジ25キャンペーンへのチャレンジャー登録活動>

本連盟会員（約9万9千人）のチャレンジ25キャンペーンチャレンジャーとしての登録活動を推進し、環境保全に対する啓発活動を行った。

<I LOVE SNOW エコアクションの展開>

温暖化が進むと、最初にできなくなってしまうといわれるのが「スノースポーツ」で、雪とともに生きる私たちスキーヤー、スノーボーダーにとって、それは見過ごすことのできない事実である。

たとえば、小さなことでも具体的なアクションに繋がる活動を目指そうという主旨のもと、カーボンオフセットによるCO2の削減（I LOVE SNOW エコアクションロゴマーク入りのマグネットを販売し、その収入の一部をカーボンオフセットプロバイダーを介してニュージーランドの森林管理プロジェクトに使用する）を推進している。

また、「I LOVE SNOW キャンペーン」ホームページに、多くの選手、スキーヤー等のエコへの思いを掲載している。

<オリンピックズ FUN FESTA in NOZAWA の開催>

オリンピック出場選手をゲストに迎え、親子を対象とした雪上イベントである「オリンピックズ FUN FESTA in NOZAWA」を開催し、参加した親子がイベントを通して選手と直接ふれあうことで、スノースポーツの素晴らしさや雪の大切さを実感してもらう機会を提供した。

<東京スノーワールド in お台場 への協力>

日本スキー発祥100周年委員会が主催するイベントに協力し、東京お台場のフジテレビ前の広場に人工雪を降らせ、子供達に雪あそびの楽しさなどを体感してもらった。スノースポーツの活性化をはかるとともに会場にブースを設けエコアクション活動を行った。

<成果>

これらの活動により、雪、自然を守ることの大切さ、小さなことでも実践することが環境

保全に繋がることをアピールできた。

4. 全体的な成果と今後の課題

「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し6年目を迎え、本キャンペーンの主旨や活動が定着し、環境保全に対する啓発活動ができてきている。今後もこの活動が継続的に進めるよう努めていきたい。

【JOC スポーツ環境委員 村里敏彰】

「温暖化がすすむと、ぜったいに消えるスポーツがある」というキャッチコピーでスキー連盟は、危機感を持って環境保全に対する啓蒙活動を行ってきた。地域活動として各スキー場やスポーツ会場でのゴミ拾い運動やまた世界フリースタイル猪苗代大会でのカーボンオフセット事業等底辺層から世界イベントまで幅広い形で、スノースポーツに携わる多くの人々に理解と行動も求めてきた。今後も全ての雪上スポーツ人の基本的理念として継続推進していきたいと考えている。

(財)日本テニス協会

1. 実施概要：「テニス DE エコ」をスローガンに、テニス協会および協力テニス団体そして、協力諸組織とともに、環境保全の活動を進めた。

2. 平成22年度事業活動：

- (1) 本会が主催する大会時に環境バナー、ポスターの掲出
- (2) 「環境だより」「2011環境リポート」の発行
- (3) 使用済みのボールの再利用を進める NPO とのコラボレーション
- (4) ホームページの活用

3. 具体的な活動実施内容とその成果

「大会時での環境バナー、ポスターの掲出」

本会が主催する全日本レベルの14大会、コーチーズカンファレンス、デ杯、ジュニア合宿などで、環境バナー、心の環境ポスター、JOC ポスター、エコフラッグを掲出した。

「環境だより」「環境リポート」の発行

都道府県の環境委員および環境担当者へ「環境だより」を発信した。また各地の環境活動を掲載した「2011環境リポート」を発行し、全国に送付するとともにカンファレンス参加者400名に配布し、指導者に問題提起をした。

「使用済みのボールの再利用を進める NPO とのコラボレーション」

使用済みボールを小学校に寄付して、机や椅子へ取り付ける再利用の運動をすすめる NPO グローバルスポーツアライアンスに協力して呼びかけを継続したことにより、県テニス協会段階でこの取り組みをするところが増えた。

「ホームページの活用」

スポーツ環境委員会のページに、「心の環境ポスター」と「テニス DE エコ環境チェックシート」が取り出せるようアップした。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境バナーやポスターの掲出については、本会主催大会はもちろん地方の大会にも浸透しつつあり、選手や指導者にも環境意識の啓発活動が推進されてきた。地球温暖化についての世論の高まりとあいまってテニス関係者の意識も変化している。一方でジュニア大会時の更衣室におけるゴミの残留など選手はもちろん指導者および観客をまきこんだ教育・啓発および実践活動が必要である。

【JOC スポーツ環境専門委員 橋爪 功】

この数年テニス界でも環境保全について各地での活動が発展してきた。今後はテニス団体ならではの具体的な実践活動、たとえば成果がみえるように数値化したものを全国的に展開していく必要がある。

(社)日本ボート協会

日本ボート協会では、「安全・環境委員会」(2007年度に設立)を中心に Think Globally、Act Locally (地球規模で考え、身の回りのできることを実行)の基本に則り「身の回りのできることから実行」をモットーに、地道な日常活動を継続している。

また、地域や企業のボランティア活動が活発していることから、競技の普及も意識した環境保全活動での連携も試行している。

●2010年度の主な活動について

都道府県協会、その他所属団体、個人等いろいろなレベルで諸活動を実践した。

1. 啓発活動

大会・会議等での環境活動の紹介

2. ボート環境保護・改善

大会でのゴミの分別回収、練習水域近辺の危険物除去や清掃

3. ボランティア団体との協働

企業内ボランティアの支援を受け、会場清掃とエコキャップ回収(全日本選手権)

●2011年度の活動計画について

「啓発」と「実践」活動を継続し、その定着を図る。

1. 大会での啓発ポスター掲示

2. 大会プログラムへの啓発広告の掲載

3. 練習水域とその周辺の清掃活動推進

4. ボランティア団体との協働による活動推進

(社)日本ホッケー協会

1. 実施概要

当協会は主管協会・連盟とともに、環境活動の重要性を促し、啓発・実践活動を行った。今後も全国の方々に広めていけるように、より多くの啓発・実践活動に取り組む。

2. 平成22年度事業活動

- ・大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示
- ・競技会等における環境活動
- ・研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

3. 具体的な活動実施内容とその成果

＜大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示＞

当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

＜競技会等における環境活動＞

当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。

＜研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示＞

当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が実り、選手・開催地等の関係者に環境活動の啓発が徐々に理解されてきた。今後は啓発活動に加えて、スポーツと環境保全の内容をより理解して頂き、実践活動を一人一人が行えるように促していきたい。

(社)日本アマチュアボクシング連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として取り組める環境活動の重要性を認識し「ゴミの減量」をスローガンに、継続的に活動を行った。

「ゴミの減量」は大勢の人に知れ渡っており、協力体制も非常に良かった。

2. 平成22年度事業活動

- (1) 大会時環境啓発ポスターと横断幕の掲示。
- (2) ゴミの減量と分別を必ず要請する。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

(1) 本会主催大会にて環境啓発ポスターと横断幕を掲示し環境啓発活動を行った。

(2) 競技会における環境活動

勝敗の結果と次戦と次々戦対戦の案内掲示板をやめてプロジェクターに変えたことにより、対戦者の名前カード（プラスチック製30cm×60cm）を試合が終わると不要になる為、選手にあげていましたが選手も嫌がり、棄てる者もあり産業廃棄物になっていた。それがプロジェクターになり、ゼロになった。

4. ポスター、横断幕の掲示などにより選手や関係者に少しずつ理解を得ることが出来たと思う。日本全体としても環境に関しては数多くの啓発活動を行っており、一般の方の協力も非常に良い。

公益財団法人 日本バレーボール協会

1. 実施概要

日本バレーボール協会（JVA）はスポーツ団体が取り組む環境活動の重要性を認識し、『CO₂削減にみんなが手を挙げれば温暖化はブロックできる』のメッセージを発信して、全国都道府県バレーボール協会の理解と支援を求め、積極的に環境に関する啓発促進と実践活動を継続実施して、地球環境の保全に貢献することとしている。

2. 平成22年度事業活動について

- ・大会開催会場に環境啓発ポスターやバナーの掲出
- ・競技会等における環境活動
- ・「バレーボールバンク」の設立

3. 具体的な活動実施内容とその成果について

<大会開催会場に環境啓発ポスターやバナーの掲出>

当協会が主催する全国各地の全カテゴリーの全国大会（6人制20大会と9人制12大会）の会場にJVA環境メッセージバナーを掲出し、主要大会には日本オリンピック委員会（JOC）環境ポスター掲示やパンフレット配布等を行って、選手・観客への啓発活動を行うと共に役員の更なる自覚を促している。その結果、全国各地の大会開催地で環境意識が浸透した。

<競技会等における環境活動>

当協会主催の全ての全国大会と可能な限り各加盟団体主催の全国大会のプログラムに、JVA環境メッセージ及びJOC環境ポスターを掲載し、大会期間中は資源とゴミの分別収集や紙コップの記名で1日一人1個の使用による省資源・ゴミ削減の実践が定着している。スポーツと環境に関する講話等には当協会選出のJOC環境アンバサダー大林素子氏が、毎年「全日本小学生大会」や「全国中学大会」（JOCジュニアオリンピックカップ）に赴いて、若い頃から環境意識を持った選手の育成に努めて成果を得ている。

<「バレーボールバンク」の設立>

当協会がバレーボールを介して世界の国々と手を繋ぐ国際貢献・国際交流と、環境保全問題に積極的に取り組む目的で設立したシステムで、日本国内で不要となったボールやネットなどの用器具を回収し、それらを必要とする海外の団体や学校へ寄付すると共に、修理できないものは様々なリサイクルグッズに加工して再利用し、グッズの売上の一部は社会貢献団体に寄付される活動がスタートした。

4. 全体的な成果と今後の課題について〔JOC スポーツ環境専門委員 浅草和敏〕

これまでの当協会の環境活動は、JOCの環境基本理念と行動指針に基づいた環境問題啓発活動であったが、全国各都道府県協会に環境推進委員を指名したことで、当協会主催大会の開催地で着実にこの地道な実践活動が定着してきた。

今後は、当協会が本年度創設した「バレーボールバンク」を、オリジナリティな環境活動としてしっかりと根付かせることにより、世界のバレーボール競技の発展と環境保全に貢献することが課題であり、大変意義深い事業であると考えている。

(財)日本体操協会

日本体操協会では、前年度の取り組みを継承しつつ、本年度は以下のとおり環境保全活動の実践に取り組んだ。

【報告】

1. 環境啓発横断幕の設置

前年度より継続して、国内外における各競技大会や催事などにて環境啓発に関する横断幕を会場内に設置した。また、大会時には会場アナウンスによる啓発活動をした。

2. 炭酸マグネシウム対策

体操競技では、選手が演技時に滑り止め用として「炭酸マグネシウム」を使用する。炭酸マグネシウムは、会場内を汚すなど懸念される部分があることから、床にビニールシートを敷き、器具付近では掃除機を使用して炭酸マグネシウムを吸い取ることを実施してきた。また、炭酸マグネシウムを入れる容器においては、粉が外部に粉塵化することを最小限に抑えること目的として、球体状で上部に取出し口があるもの、あるいは蓋が付いたものなど商品の改良が進められ、積極的に活用してきた。

3. ゴミ分別回収

体操競技や新体操競技の大会会場、一般体操のイベント会場では、ゴミの分別回収や持ち帰りをアナウンスによって啓発活動を実施した。一般体操では、催事にむけて各団体より運営委員を2名ずつ選出し、当日は会場内の清掃に協力を得た。

【課題】(JOC スポーツ環境専門委員／森末慎二)

- ・炭酸マグネシウム使用時は必要以上に撒き散らさないように努め、床に落ちた炭酸マグネ

- シウムはこれまでと同様に掃除機で吸い取る。
- ・深刻化しつつある環境問題を各々が認識できるよう、「地球温暖化防止啓発活動」を継続して取り組む。
 - ・各加盟団体および各都道府県組織において、環境保全について主体的に取り組めるよう、推進をはかる。
 - ・次年度は体操競技の世界選手権東京大会が開催されるので、炭酸マグネシウム対策について一層の取り組みをはかる。

(財)日本バスケットボール協会

1. 実施概要

(財)日本バスケットボール協会は、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないとの自覚、スポーツ界にも環境対策が必要との認識を自らの行動と共に、傘下連盟・団体、プレイヤー及びファンの方々と共有するよう環境関連のメッセージを発信する等、環境保全活動を積極的に推進する。

2. 平成22年度事業活動

- ・(財)日本バスケットボール協会 「環境基本方針」策定
- ・主催大会開催時の環境活動マニュアル作成
- ・環境省、JOC イベントへの参画

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<大会開催時>

- (1) プログラムへの環境取組みメッセージ広告掲載
- (2) 大会会場内への横断幕、ポスター掲示
- (3) モノを大切にす(3R)の推進
 - ・削減 (Reduce) ・再利用 (Reuse) ・リサイクル (Recycle)
- (4) ゴミの分別
- (5) その他
 - ①環境関連イベント(啓発活動)の実施と記録整理等
 - ②参加スタッフ、選手への啓発活動発信(マニュアル配布等)

<団体内部における環境活動>

- (1) クールビズ(夏季期間)、ウォームビズ(冬季期間)への参画
- (2) グリーン購入・調達の推進
- (3) 会議資料の電子化による紙の削減

<各種取り組みへの参画>

- (1) JOC 主催担当者会議、フォーラム及びイベント等への参加
- (2) チャレンジ25キャンペーンへの参画、HP へのリンクバナー掲出

4. 全体的な成果と今後の課題

環境活動への取り組みは徐々に浸透してきており、傘下団体においても環境への意識は高まってきている。

尚、実施にあたっては、まだ各大会開催地が進める環境保全活動と一体になった推進が出来ていないことから、今後は大会開催が決まった早い時点から地元自治体との調整、交流を図っていく。

(財)日本スケート連盟

2010年度主な活動

1. 啓発対象競技会

【フィギュア】

国内大会	全日本ノービス	ポスター	パンフレット	
	全日本ジュニア選手権	ポスター	パンフレット	バナー
	全日本選手権	ポスター	パンフレット	バナー

国際大会	グランプリ NHK 杯	ポスター	パンフレット	バナー
------	-------------	------	--------	-----

【スピード】

国内大会	全日本距離別	ポスター	パンフレット	バナー
	全日本選手権	ポスター	パンフレット	

国際大会	ワールドカップ帯広大会	ポスター	パンフレット	バナー
------	-------------	------	--------	-----

【ショート】

国内大会	全日本距離別	ポスター	パンフレット	バナー
	全日本選手権	ポスター	パンフレット	バナー

2. セミナー(フィギュア)

- 審判員セミナー 東セミナー (東京・230名)
西セミナー (大阪・180名)
スポーツと環境保全セッションにて、JOC主催 環境セミナー
9月3日(横浜) パネルディスカッションの報告と啓発スピーチ

3. 実践活動

- 競技会におけるゴミ分別の徹底
- ペーパーレスの推進
競技会結果等をホームページ掲載閲覧に振り替え記録紙の使用量を削減
- シールタンブラーを推奨し紙コップ、ペットボトル使用量削減に努めた

4. JOC スポーツ環境専門委員 平松純子

日本スケート連盟では、スピード、ショートトラック、フィギュアの3部門において、ポスターの掲示、ごみの分別、紙使用の削減、競技中の紙コップの再利用等を実践してきました。それに加え、昨シーズンより連盟のロゴ入り横断幕の掲示も行いました。

全国よりフィギュアの審判員が集まる各種セミナーでは昨年引き続き“スポーツと環境”についてのレクチャーを行いました。

それに加え、毎年夏に野辺山で行われるフィギュア新人発掘合宿や、強化選手合宿でも講義の中に“環境問題”について考える時間を提供し、幼いころより自分たちを取り巻く環境問題の大切さを認識して貰いました。その為の運動の一つとして、“マイボトル”持参運動は、不用な容器の削減、飲み物の無駄を省きました。

今後も、スポーツ界から出来る環境保全を地道に続けていきたいと思っています。

■合宿名：第20回全国有望新発掘合宿

開催日：22年7月24日～7月31日

場 所：長野県 南牧村（帝産アイススケートトレーニングセンター）



(財)日本アイスホッケー連盟

(財)日本アイスホッケー連盟では、平成19年の環境委員会設立以来、環境保全の啓発と実践活動を行っているが、今年度は『JIHF 資源リサイクル運動』と称して、ペットボトルのキャップを回収する運動を新たに開始した。

ポスターとエコキャップ回収BOXを作成して、各試合会場に設置した。ペットボトルの分別だけではなく、外したキャップの再資源化を推進する本プロジェクトは今後も継続して行い、それと同時に、加盟団体主催の大会など、全国に大きな広がりとなるような広報活動に取り組んでいく。

栃木県日光市で行われる『日光杯全日本女子中学・高校アイスホッケー大会』では、「日光杯チームエコ」と題して毎年活動が続けている。第5回大会となる今年度もECOブースを設置してパネルなどを展示し、ごみ減量のキーワード「3R」リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化）の実践を呼びかけた。

地元のボランティアの方々によるリユース（再使用）食器による豚汁、おにぎり、ココアなどの提供が行われ、今大会だけで、のべにしてコーヒーカップ1,076個、どんぶり760個、箸650膳分をリユース食器で賅った。

2010年度 環境保全啓発活動を行った国内大会

大会名	期間	会場
第5回日光杯全日本女子中学・高校生大会	2010.12/24-12/26	栃木県日光市 霧降アリーナ、細尾ドーム
第66回国民体育大会冬季大会（成年の部・少年の部）	2011.1/26-1/30	新井田インドアリンク、南部山アイスアリーナ ふくちアイスアリーナ
第78回全日本選手権	2011.2/7-2/13	栃木県日光市 霧降アリーナ 細尾ドーム
第15回全日本女子選手権（B）	2011.2/25-27	愛知県 日本ガイシアリーナ モリコロアイスアリーナ
第30回全日本女子選手権（A）	2011.3/10-3/13	北海道帯広市 帯広の森アイスアリーナ

(財)日本レスリング協会

平成22年度のまとめ

現在実施している通常の啓発活動に加え、委員会では各競技団体と当協会の活動内容を比較、検討したうえで、実行できることを年間の目標として定め、組織的に活動して行くこととした。

1. 平成22年度活動内容

	競技会名／開催地	開催日	参加数	備考
1	平成23年度 全日本女子選手権大会 東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館	平成22年 4月2日～4日	138団体 511名	バナー、プログラム掲載ポスター掲示、会場アナウンス
2	JOC ジュニアオリンピックカップ 2010年度全日本ジュニア選手権大会 神奈川県横浜市・文化体育館	平成22年 4月23日～25日	1,273名	バナー、プログラム掲載ポスター掲示
3	東日本学生春季新人戦選手権大会／ 女子選手権大会 東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館	平成22年 6月8日～10日	409名	バナー、プログラム掲載ポスター掲示
4	沼尻杯 全国中学生選手権大会 茨城県水戸市・県立スポーツセンター	平成22年 6月12日～13日	489名	バナー、ポスター掲示
5	明治乳業杯 平成22年度全日本選抜選手権大会 東京都渋谷区・国立代々木競技場第二体育館	平成22年 5月1日～3日	216名	バナー、プログラム掲載ポスター掲示、会場アナウンス
6	第58回全日本社会人選手権大会 山形県山形市・山形市総合スポーツセンター	平成22年 7月3日～4日	131名	バナー、プログラム掲載

7	第27回全国少年少女選手権大会 広島県広島市・広島県立体育館	平成22年 7月23日～25日	159クラブ 1,200名	田南部力氏からの環境 レクチャーバナー、プ ログラム掲載ポスター 掲示、会場アナウンス
8	第1回ユースオリンピック競技大会 シンガポール・インターナショナル コンベンションセンター	平成22年 8月15日～17日	105名 (26競技201種目)	スクエアバナー
9	第14回関東幼児会 千葉県鎌ヶ谷市・鎌ヶ谷市民体育館	平成22年 8月21日		バナー、ポスター掲示
10	第1回スポーツアコード・ コンバット・ゲームズ 中華人民共和国北京市・ 北京農業大学体育館	平成22年 8月28日～9月4日		スクエアバナー、ポ スター
11	第65回国民体育大会・ゆめ半島千葉国 体 千葉県佐倉市・佐倉市民体育館	平成22年 10月1日～4日	34クラブ 125名	バナー、ポスター掲示 パンフレットの配布
12	第27回社会人オープン選手権大会 第16回社会人団別選手権大会 東京都新宿区・スポーツ会館	平成22年 11月20日～21日	249名	バナー、プログラム掲 載ポスター掲示、会場 アナウンス
13	天皇杯 平成22年度全日本選手権大会 東京都渋谷区・国立代々木競技場第二 体育館	平成22年 12月21日～23日	316名	バナー、プログラム掲 載ポスター掲示、会場 アナウンス
14	第24回少年少女レスリング選手権大会 東京新宿ライオンズクラブ旗争奪戦 東京都新宿区・スポーツ会館体育館	平成23年 2月11日	26クラブ 248名	バナー、プログラム掲 載ポスター掲示、会場 アナウンス
15	第15回全国少年少女選抜大会 東京都渋谷区・国立オリンピック記念 青少年総合センター	平成23年 3月5日～6日	114クラブ 469名	バナー、プログラム掲 載ポスター掲示、会場 アナウンス

2. 全体的な成果と今後の課題

当協会が環境委員会を設け、本格稼動して6年を経過した。大会会場でのポスター、バナーの掲示、大会パンフレットや協会季刊誌などでの啓発活動、そして会場内での環境保全についてのアナウンスなどにより、選手、スタッフ、観客の皆さんに当協会の環境活動の取り組みが理解されてきたと思われる。設立当初、本委員会は、ゴミ収集担当のイメージを持たれていたが、啓発活動が浸透するにつれ、そのイメージも払拭され、ゴミの分別収集などへの協力が得られるようになった。しかし、まだまだ活動が伝わらない大会もあるので、改善に向けて登力していきたい。

今後の課題として次の3点を挙げた。①一部の大会会場内のペットボトルの散乱など、選手の傍若無人な体育館利用に対する指導。②各県協会への啓発活動と実践活動に関するアンケート調査の実施。③啓発活動から実践活動への移行としてパーパーレス化への挑戦。なお、水泳連盟のモデルケースが大きな柱となるが、会場の電光掲示板などのハード面の問題もあるので、その点を考慮して、実行できるところから進めていきたい。

3. JOC スポーツ環境専門委員として (JOC スポーツ環境専門委員／鎌賀秀夫)

今年度7月からJOC環境アンバサダーとして、当協会の男子ナショナルコーチの田南部力氏が就任し、ナショナルチームの選手たちへの啓発活動が行われるようになり、新たな前

進が見られた。また、各傘下団体の環境委員の協力も得られ、啓発活動の取り組みも推進されてきた。

なお、来年度の当協会のスポーツ環境委員会は、定期的に委員会を開催して実践活動を推進していくこととしたい。

■環境委員会名簿

	氏名	所属
委員長	鎌賀 秀夫	全国少年少女連盟事務局長
委員	木名瀬 重夫	全日本女子連盟理事・JOC 専任コーチ
委員	真田 栄作	高校体育連盟専門部事務局次長
委員	本田原 明	日本社会人連盟常任理事
委員	白井 正良	全国少年少女連盟理事
委員	吉澤 昌	日本格闘競技連盟事務局
委員	関 貴史	味の素ナショナルトレーニングセンター専任コーチ

第65回国民体育大会レスリング会場



高田裕司日本協会専務理事 武田明子日本協会事務局局員



(財)日本セーリング連盟

自然の中で活動を行うセーリングスポーツを通して環境意識を啓蒙する「JSAF 環境キャンペーン」に格別のご理解、ご協力をいただき、誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

2010年度も、例年通り種目別の全日本選手権大会における環境キャンペーンを実施いたしました。具体的には、環境フラッグ並びにスポンサーロゴの表示された横断幕を掲揚し「残したいのはきれいな海」を標語とし、レース運営規則にゴミの投棄を禁止する項目を追加、環境意識の普及啓蒙に努力いたしました。20大会延べ約3000名の参加選手や運営関係者が、

環境への意識を高める機会となりました。

また最も中心的な「海の日」の活動につきましては、例年通りスポンサーロゴの表示されているJSAF「海の日」ポスターを作製いたしました。これには、前年度に引き続いて「JSAF 全国少年少女海の絵コンテスト」の最優秀作品を図柄として採用し全国の関係組織に配布して、大変好評を博しました。

これと並行して、海の日環境キャンペーンイベントを全国的に募呼び掛け、全国各地で沢山のセーラーが「海の日」に清掃活動、レース、クルージング、ピクニック等の活動をおこないました。

各地のイベントにおいて、環境フラッグ並びにスポンサーロゴの表示された横断幕を掲揚し「残したいのはきれいな海」を標語として、環境意識の証として参加者全員にJSAF環境フラッグを配布してイベント中掲揚するなどして、参加選手や運営関係者環境への意識を高める貴重な機会となりました。

2010年度も継続して「JSAF 全国少年少女海の絵画コンテスト」を「海の日」にちなんで実施いたしました。最優秀作品は、次年度の海の日のために全国に配布するポスターの図柄に採用される計画です。

子供たちの描く絵は、極めて美しく、純粹に心に訴える力に溢れています。描くほうも、観て楽しむほうも自然環境を意識する大変良い機会となることは、子供たちはもちろん大人たちにとっても大いに役立つことと考えました。

締め切りの10月末には全国各地の少年少女から昨年を大幅に上回る500点を超える作品が送られて参りました。

小学生低学年から中学生まで素晴らしい作品ばかりで、海と船の絵を描かれている柏村勲画伯と世界的マリニイラストレーターの高橋唯美さんのお二方に審査をお願いし、12月に各賞の選定と次年度のポスターの図柄となるグランプリの選定いたしました。

年毎に多くの応募を得ることができ、全国の絵の好きな少年少女たちに海と船と自然を意識してもらうよい機会となると同時に、セーリングスポーツを少しでも意識してもらう普及のよい機会ともなりました。

応募様式や結果発表、表彰状にも、スポンサーロゴを表示させていただきました。

このように、スポンサーの皆様のご協力により、「海の日」を中心として、全国規模で環境意識の啓蒙とセーリングスポーツの普及に努めました。

これらの活動の詳細は日本セーリング連盟の機関紙「J-Sailing」誌上に記事として掲載し、全国10000名の連盟登録者に配布されました。

また、国民体育大会、選手権大会等、イベントによっては、専門誌「舵」誌上や地方紙に掲載されたものもありました。

以上、写真を添付（口絵ページで参照ください）してご報告申し上げます。

「残したいのはきれいな海」を標語として、JSAF環境キャンペーンは競技選手、運営関

係者をはじめ、全国の海好きの人々や、全国の絵の好きな少年少女達に毎年楽しみにしてもらおうことのできる活動へと更なる工夫に努め、地道に充実してまいります。

今後とも引き続き皆様のご理解とご協力をいただきますよう、謹んでお願い申し上げます。

（（財）日本セーリング連盟 環境委員会 常務理事 青山 篤）

(社)日本ウエイトリフティング協会

平成22年度スポーツと環境保全に関わる啓発・実践活動報告書

大会／会議名	(1) 第12回全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会 (2) 全国高等学校総合体育大会 (3) 第65回国民体育大会 (4) 第56回全日本大学対抗選手権大会 第11回全日本大学対抗女子選手権大会 (5) 第47回全日本社会人・第1回レディースカップ全日本女子選抜大会
開催日時	(1) 7月23日～7月25日 (2) 8月7日～8月11日 (3) 10月2日～10月4日 (4) 10月31日～11月1日 (5) 11月18日～11月21日
開催場所	(1) 神奈川県立体育センター (2) 沖縄県八重瀬町具志頭社会体育館 (3) 八千代高校体育館 (4) 横浜市 磯子スポーツセンター (5) 山口県 海響メッセ下関
参加人数	(1) 選手 91名 (2) 選手 391名 (3) 選手 301名 (4) 選手 215名 (5) 選手 256名
ポスター掲示場所/枚数	(1) 競技会場内／4枚 (2) 競技会場内／4枚 (3) 競技会場内／4枚 (4) 競技会場内／4枚 (5) 競技会場内／4枚
パンフレットの配布方法／枚数	なし
横断幕掲揚場所	各大会、競技会場に掲揚した。

●その他（活動報告書）

環境意識の高まりとともに、循環型社会の実現が模索されている。当協会においても、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、大会主催の際は審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営に当たっては、できるだけ廃棄物を出さないこと（リデュース）はもちろん、飲み物の容器・食器についても再利用（リユース）や原材料としての再生利用（リサイクル）

ル)を考慮している。大阪府羽曳野コロセアムで開催する西日本学生連盟主管の全日本新人選手権大会・全日本大学対抗選手権大会(2部)における競技大会では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用、横浜市磯子スポーツセンターで開催する東日本学生連盟主管の全日本新人選手権大会・全日本大学対抗選手権大会(1部)では、弁当に紙と経木でできた容器を使用した。

国民体育大会、全国高校総体、社会人選手権大会、レディースカップ全日本女子選抜大会などで、開催地自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

競技大会において、全日本学生連盟の協力のもと、環境保全のための活動を行うとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、今後も様々な取り組みを行う予定である。

(役職 理事、環境委員会委員長 守 昌宏)

(財)日本ハンドボール協会

1. 実施概要

全世界的な環境問題を改善してゆくためには、我々一人一人の自覚が不可欠である。そこで、スポーツ団体が取り組める環境活動として、多くの方々が集まる大会等にあると考え、会場へのバナー・ポスター掲示、プログラムへのポスター掲出等を行った。これからは、各都道府県協会、各連盟とも積極的に連携し、個人個人の環境問題への意識が更に高まるように取り組みたい。

2. 平成22年度事業活動

- ・全国大会開催時の会場に環境バナー、ポスターを掲示
- ・大会プログラムへの環境ポスター掲出
- ・「チャレンジ25キャンペーン」の推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<大会における環境啓発活動>

- ・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出し広報した。
- ・環境ポスターを大会プログラムに印刷するようになった。
- ・環境バナーを2枚追加作成し、一大会での複数会場使用の場合に対応できるようにした。

<チャレンジ25キャンペーンの推進>

- ・チャレンジ25宣言を行い、協会ホームページからリンクをさせた。
- ・都道府県協会・連盟・役員に「チャレンジ25キャンペーン」News Letterを再配信し、キャンペーン参加を促進した。

<事務局におけるクリーン購入・エネルギー節約>

- ・事務用品の利用にあたり、エコ商品の購入に努めた。

- ・資料配付にあたりメール添付を多用し、ペーパーレス化に努めた。
- ・夏季はクールビズとした。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境バナー、ポスターの大会や集会会場への掲出により環境問題への啓発活動を行って来たが、必ずしも十分に意識浸透したとは言えない。これからは、より具体的な例を挙げて啓発活動を行うことが必要と考え、他のNFの取組を参考に、その方法を検討してゆきたい。

(財)日本自転車競技連盟

1. 実施概要

自転車は、CO₂を排出せず健康的で地球環境に優しい乗り物である。それを使用して自然の中を走る競技として、環境破壊は競技の存続にも関連する。環境保全は当然のこと、出来ることから実施していく。

また、競技界だけでなく、自転車製造業界も Rohs 指令を適用し、製造時の有害物質の削減に取り組んでいる。

2. 平成22年度事業活動

- ・環境保全啓発ポスター、バナーの掲示とパンフレット配布
- ・ゴミの分別回収
- ・ロード・レースのコースに、ボトルの投棄場所を設定
- ・廃棄用紙の活用

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ・本連盟主催事業の会場において、環境保全啓発ポスター、バナー掲示と環境パンフレットの配布を通して、啓発活動を行った
- ・会場において、ゴミの分別を行い、リサイクルへの協力を推進した
- ・ロード・レースにおいて、コース上に投棄されたボトルは回収されない場合があったが、投棄場所を指定し回収率を高め、環境保全を図った
- ・連盟事務局で使用するコピー用紙に、廃棄用紙の裏を再利用し、紙を削減した

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナーの掲示とパンフレットの配布などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。会場となった市町村の中には、自転車都市を宣言して、環境保全に取り組むところが出ている。

小さなことから、出来ることからをモットーに、今後の取り組みとして、

- 紙の削減 ・コミュニケの個別配付を廃止し、ボードに張り出しをする
- ゴミの削減 ・ペットボトルを大容量タイプにし、関係者にマイコップの携行を奨励し、容器数を削減する

- ・弁当のメニュー、包装を簡素化、はしを廃止し、関係者にマイはしの携行を奨励する
- ・ロード・レースにおける、指定場所でのボトル投棄の徹底を図る
- ・ゴミの持ち帰りを推進する

(財)日本ソフトテニス連盟

(財)日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成21年度に設置されました。

設置前年度(20年)に「この星にスポーツを」の横断幕を作成し、傘下48都道府県支部に2枚ずつ配布し、各支部の施設に常設するとともに大会や会議での啓発活動として掲載いただく活動からスタートしました。

22年度には、下記の全国大会会場で環境ポスター掲示、リーフレット配布、機関誌・大会プログラムに「快適なスポーツを！」の刷り込み、分別ゴミ箱の設置、マイペットボトルの活用により紙コップ削減のリディース活動等々を実施して、大会参加の選手や観客と関係者の方々に環境問題に対して強い関心を持っていただく機会となった。

特に21年10月に開催された“ソフトテニスフェスティバル2009”で全国から選出されたソフトテニスプリンス・プリンセスが22年8月に開催された第27回全日本小学生選手権大会の開会式で、小学生と応援の保護者等に「スポーツと環境について」のメッセージを発表し、環境保全のアピールを行ない大会期間中の資源ゴミの分別の協力を呼びかけました。

23年度からは「環境・教育部会」と改称し、引き続き上記の活動を各支部との連携を図り推進していく予定である。

記

主な大会名	開催日	会場	主管団体
アジア競技大会日本代表予選会	5/3~5/5	大阪市	大阪府ソフトテニス連盟
全日本シングルス選手権大会	5/15~16	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	7/23~25	宇部町	山口県ソフトテニス連盟
全日本小学生選手権大会	8/5~8	旭川市	北海道ソフトテニス連盟
全日本高等学校選手権大会	8/5~12	沖縄市	沖縄県ソフトテニス連盟
全国中学校大会	8/23~25	岡山市	岡山県ソフトテニス連盟
全日本社会人選手権大会	9/4~5	さいたま市	埼玉県ソフトテニス連盟
JOC杯・全日本ジュニア選手権	9/11~12	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シニア選手権大会	9/10~12	北九州市	福岡県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	10/15~17	徳島市	徳島県ソフトテニス連盟
西日本選手権大会	7/17~18	三木市	兵庫県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	7/17~18	金沢市	石川県ソフトテニス連盟
国民体育大会	9/25~29	白子町	千葉県ソフトテニス連盟
日本実業団リーグ	10/29~31	福知山市	京都府ソフトテニス連盟

全日本クラブ選手権大会	10/30～31	白子町	千葉県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	11/19～22	宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
日本リーグ	12/16～19	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本インドア選手権大会	23・2/6	大阪市	大阪府ソフトテニス連盟

(財)日本卓球協会

日本卓球協会環境委員会は、平成17年度に設置された。翌18年度より、環境ポスター、標語の掲示と環境委員会で作成した分別ゴミ箱を全国大会会場に設置する等の啓蒙活動を、大会開催地の主管団体そして会場関係者にご協力をお願いし、実施してまいりました。

平成22年度も、これまでの環境委員会の活動を継承し以下の加盟団体、大会会場にご協力をお願いしてまいりました。ご協力をいただきました関係各位に対しまして心より御礼申し上げます。

また、新たな活動として

- ① “チャレンジ25” 本会ロゴマークを作成
- ② 平成23年度ゼッケンに “チャレンジ25” 本会ロゴマークを印刷
- ③ 全日本卓球選手権大会（一般・ジュニアの部）において
 - ・ 環境委員会のブースを設置し個人チャレンジャーの募集（812名の参加）
 - ・ ペーパーレスに取り組み、昨年度より27,500枚の用紙削減、インク削減
 - ・ 会場オーロラビジョンにおいて “チャレンジ25” のCM 放映
- ④ 平成23年度より本会名刺に “チャレンジ25” 本会ロゴマークを印刷

啓蒙活動へのご理解とご協力ありがとうございました。

ご協力いただいた大会会場と主管団体（平成22年度）

大会名	開催日	会場	主管団体
全国ラージボール卓球大会	6/10-13	鹿児島アリーナ	鹿児島県卓球連盟
全日本クラブ選手権大会	7/16-19	新青森県総合運動公園青い森アリーナ	青森県卓球連盟 青森市卓球協会
全国レディース卓球大会	7/30-8/1	真島総合スポーツアリーナ	長野県卓球連盟 長野市卓球協会
全日本卓球選手権大会 (マスターズの部)	11/12-14	大阪市中央体育館	大阪卓球協会
全日本卓球選手権大会 (一般・ジュニアの部)	1/18-23	東京体育館	東京都卓球連盟

(財)全日本軟式野球連盟

1. 実施概要

財団法人全日本軟式野球連盟はスポーツ振興に寄与する目的から、平成17年度に環境担当委員会を設置し事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観客者に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

また、使用済軟式野球用具を各支部から集め、軟式野球用具が入手しづらい地域の国へ寄贈する他、バットの廃材を利用した植林活動寄付金付きストラップを販売するなど、環境保全に繋がる実践的活動も行っている。

2. 平成22年度事業活動

- ・競技会等での環境啓発活動
- ・競技会等での環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

【競技会等での環境啓発活動】

連盟主催大会及び講習会にて、環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境パンフレットの配布を行った他、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼び掛けなど、参加者や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

【競技会等での環境活動】

使用済野球用具の再利用を目的に、12月末に主管開催した“A”アジア野球選手権大会にて、参加した海外チームへ使用済軟式野球ボールを寄贈した。JICA 国際協力機構へ使用済グローブやヘルメットなどを寄贈した。

また、バットの廃材を利用して作った植林活動寄付金付きストラップを販売した。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境パンフレットの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼び掛けにより、全国大会においては参加者の環境への意識向上に繋がってきた。今後は、各支部大会においても積極的な環境啓発活動を行えるよう、支部へ呼びかけていきたい。

また用具寄贈については、支部の協力も年々増え、22年度は国内でのアジア大会開催が良い機会となり、多くの用具を寄贈することができた。軟式野球用具の手に入りづらい地域の子どもたちにとって貴重な用具として再利用されることを期待し、今後も継続的に活動を行っていきたい。

(社)日本馬術連盟

1. 実施概要

子供たちと一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

2. 平成22年度事業活動

- ・大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ・ジュニア競技会時に子供たちに対し、環境活動の啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

〈大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示〉

連盟主催大会（10大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

〈ジュニア競技会時に子供たちに対し、環境活動の啓発〉

大会名（開催場所）	参加人数
全日本ジュニア馬場馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	62名
全日本ジュニア総合馬術大会（山梨県馬術競技場）	13名
全日本ジュニア障害馬術大会（山梨県馬術競技場）	220名

ジュニア選手たちに対し、大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境問題についての講演を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

22年度は、ジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を継続的に続けることによって、啓発から実践に繋がると考える。これからも多くの方々に、スポーツと環境に対して啓発を続けてゆく所存です。

(社)日本フェンシング協会

1. H22年度事業活動方針

競技者、指導者等に対して啓蒙運動を図り、環境活動に関する理解を深める。
競技会等で実際に省エネ、ゴミ分別等に参加することにより実践を行う。

2. 活動実施内容と成果

- (1) 高円宮牌フェンシングワールドカップ2010（H22年5月14日～5月16日）において環境ポスター、バナーを掲示して啓発を図るとともに、選手・観客とも特にゴミや使用後のペットボトルの資源回収としてのごみ収集への協力を喚起した。
- (2) 高円宮牌フェンシングワールドカップ2010において、決勝大会の為の会場作りにつ

いて使用素材を変更し再利用可能素材を活用した。(H21年の黒パンチシートを止めてH22は緑の養生シートに変更。必要箇所のみ色パンチシートで識別)

- (3) JOC ジュニアオリンピックカップ・フェンシング選手権大会 (H23年1月8日～11日) において環境ポスターを掲示して啓発を図った。年齢が若い選手が対象であり、個別にもアナウンスで周辺を清掃することに注意喚起を図った。
- (4) その他の大会 (全日本選手権 H22年12月16日～19日)、(国民体育大会 平成22年10月2日～5日) および日本フェンシング協会主催大会において、環境ポスター掲示を奨励した。
- (5) 破損した装備品・用具の回収を一元化して再資源化を図っている。
用具取扱業者の協力により、鋼鉄製の競技用剣の破損処分を集中して実施した。
- (6) ペーパーレス化、用紙類の再利用促進
H22年度については事務局からの支部連絡 (49支部) については90%以上を電子メールによる書類等の配布を実施し、役員連絡 (理事19、常任委員6) については2名を除いて電子メールによる文書配布を実施した。連絡事務においては大幅な紙幅の削減が可能になった。

3. 全体成果と今後の課題

ポスター・バナー等の掲示については、少数の大会にて実施してきているが、地方大会の主催団体・主管団体と協力して啓発活動を拡げてゆく努力が必要と痛感した。また、参加団体 (学校・クラブ) によってゴミの取扱、用具の整備整頓、後片付け等にばらつきがあることから指導者と連携について方策を検討して行く。

(財)全日本柔道連盟

財団法人全日本柔道連盟では、前年度に引き続き、柔道ルネッサンス特別委員会と事務局が中心となって、環境保全に関わる啓発・実践活動に取り組んだ。

当連盟主催の下記大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し、選手や当連盟役員とも協力して、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。練習会場や観覧席においては、担当の係員を配置し、選手や観客による自発的なゴミ分別とゴミの持ち帰りを徹底した。

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会では、中村淳子・JOC スポーツ環境アンバダサーが、試合と試合の合間に競技会場でスピーチを行い、参加選手や観客に向けて、一人一人が日常生活の中で環境を意識して行動することの重要性を訴えた。

1. 第25回皇后盃全日本女子柔道選手権大会 (平成22年4月18日、横浜文化体育館)
2. 平成22年全日本柔道選手権大会 (平成22年4月29日、日本武道館)
3. 平成22年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 (平成22年9月18日～19日、埼玉県立武道館)
4. 平成22年度柔道フェスタ (平成22年10月24日、秋田、山梨、京都、愛媛、佐賀)
5. 平成22年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 (平成22年11月20日～21日、千葉ポートアリーナ)

平成22年度も、単に全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会における柔道ルネッサンス委員会が主導し、多くの都道府県において、大会時の観客や保護者に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会場美化運動、あるいは社会奉仕として地元地域の清掃活動を実施している。

その一例として、福井県からは、坂井市の坂井町柔道教室の子供達が「JR丸岡駅クリーンアップ作戦」として、駅舎及びその周辺の清掃活動を実施していることが報告された。
(下記写真参照)

(柔道ルネッサンス特別委員会)

【JOC スポーツ環境専門委員／山口香】

柔道界としては、嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。



「JR丸岡駅クリーンアップ作戦」の様子

(財)日本ソフトボール協会

スポーツ環境委員長 鈴木 征

1. 実施概要：

屋外競技であるソフトボールが、地球温暖化等による天候不順や、大気汚染によって実施できなくなる事を危惧し、JOC 環境委員会のスローガンである「この星にスポーツを」、また(財)日本ソフトボール協会の環境スローガンである「ホームラン 入ったスタンド ゴミはなし!」を、大会毎にバナー掲示をし、継続的活動を積極的に行うとともに、大会会場でのゴミの分別回収を推進した。また、来年度以降は各大会のプログラムに、環境に関する標語もしくはメッセージを入れ、より積極的な活動を進めていく。また、本会主催のソフトボール講習会、ソフトボールフォーラムにおいて、環境啓発を行う。

2. 平成22年度事業活動

大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示。

講習会等でのオリンピックを中心とする講師による環境啓発。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

本会主催大会にて、環境啓発ポスター、バナー掲示を行い、啓発活動を行った。

また、本会が全国9地区で行うソフトボールフォーラムにおいて、講師を務める指導者

(主にオリンピック)に、講習の際、環境問題の啓発のためのソフトボール版「5分間スピーチ原稿」(別添)を作成配布し、講師に環境啓発を講演の内容に織り込んだ。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示や、ソフトボールフォーラムでの講演などの啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者及び観客に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

来年度以降は、上記に加え、各大会のプログラムにも標語もしくはメッセージを入れ、より多くの方々の環境に対する理解を求めて、積極的に環境保全に努めていきたい。

(財)日本バドミントン協会

本会では平成18年4月1日より、初めて環境委員会を正式に立ち上げ現在にいたっております。

年々、地球規模による環境問題に対し、環境委員会を中心に登録会員全員に向けて、環境保全の意識を高めることを中心に地道な活動ではありますが続けてきました。

今までにエコバックを参加賞に採用するとか、本会の案内、大会要項の申し込み方法、連絡方法などにあたり電子メールを活用しての紙の削減をするなどの活動を行い、より環境保全の意識を高めることを徹底してきました。

今年度も以下の活動を実施しました。

1. 本会の案内、大会要項、大会申し込み、連絡方法等の電子メール活用による紙の削減の推進。
2. 理事会及び年3回の評議員会にてより多くの会員に案内していただくためにパンフレットを配布する。
3. 本会の主催する国内競技会19大会にポスターを配布し、開催会場での掲示を依頼しました。特に観客の多い日本リーグは全国18ヶ所にて開催しており、特に重点的に配布する。
また、国内で行われる国際4大会においても同様の活動をしております。しかし、国際大会でのアジア諸国においてはスポーツと環境問題の関係の理解度が低い国も多く、今後も理解を深めていきたいと思っております。
4. 国内事業部と連携をとり、大会参加者、主催大会すべての開催県・主管団体に対して以下三つのお願いをして、全大会要項に必ず記載することとする。

依頼事項

- (1) ゴミの分別収集に協力してください。
- (2) 部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。
- (3) マイ歯ブラシを持参して大会に参加して下さい。

5. 味の素ナショナルトレーニングセンターにおけるドリンク類のキャップと本体の分別、ゴミの分別の徹底。

今後においては基本姿勢である「出来ることから始める」をモットーにより一層のエコを目指して、地道に努力していきたいと思っております。

(財)全日本弓道連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動参加の重要性を認識し、行事参加者各位へ啓発活動を行った。

2. 平成22年度事業活動

- ・主催行事における環境啓発活動
- ・主催行事における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<主催行事における環境啓発>

本連盟主催大会にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。

本連盟加盟団体の大会において主催者挨拶の中で環境に関する内容を話した。

<主催行事における環境活動>

ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に努めた。

照明、空調の調整をこまめに行い、CO₂削減について取り組んだ。

大会速報を掲示のみに留め、紙の使用を削減した。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示など啓発活動により、参加者に環境保全を促すことが出来た。

これからも個々の意識を高め、実践活動に繋げていくことが必要だと考えている。

(社)日本ライフル射撃協会

1. 実施概要

(社)日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会内に「環境部会」を設置している。環境保全に関する取組みと会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

2. 平成22年度事業活動

- ① 競技会等での環境ポスター掲示。
- ② 射撃場施設でのゴミの分別回収の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施。
- ③ 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業。

④ 環境保全に関する内容を講習会で実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① 競技会等での環境ポスター掲示。

全国加盟団体に環境ポスターを配布するとともに全国競技会で環境ポスターを掲示し、会員への啓発に努めた。

② 射撃場施設でのゴミの分別回収の徹底とゴミ持ち帰り運動等の実施。

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともにゴミを持ち帰ることによる施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止や施設内照明等の電力省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

③ 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業。

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

④ 環境保全に関する内容を講習会で実施

日本体育協会公認コーチ講習会で、環境保全についての取り組み内容を講義で説明することにより指導者への意識の向上に努めた。

4. 全般的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会で行うことにより、会員の意識の向上に成果があった。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌やウェブ上への環境に関する記事掲載や講習会や研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を計画したい。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾（鉛弾）の回収と適正な処理は全国で適切に処理されている。

施設利用の際の場内清掃の励行（クリーン運動）やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践についても会員の理解と協力を得る中で拡大していきたい。

今後も地道な活動ではあるが、全会員に一層浸透するように身の周りのできることから実施する。

（総務委員会 環境部会 田村恒彦）

（財）全日本剣道連盟

1. 実施概要

毎年、全国の剣道愛好者から寄贈いただいた中古剣道具を、剣道具が入手しにくい海外の国々に、各国日本大使館を通じてその国の剣道連盟や剣道団体に寄贈している。平成元年から取り組み、毎年、約10カ国に、（財）JKAの補助を得て購入した普及版の剣道具や竹刀と組み合わせて、各国20組程度の剣道具を贈っており、「中古剣道具

寄贈事業」として定着している。

2. 平成22年度活動

- ・中古剣道具のリユース活動（中古剣道具寄贈事業）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

22年度についても、全国から寄せられた1年間分の中古剣道具を、全日本武道具協同組合所属の補修技術を持ったベテランの方々に協力をいただいて11月に補修作業を行ない、ヨルダン、アイルランド、エストニア、リトニア、ギリシャ、クロアチア、エクアドル、モンゴルの8カ国に寄贈を行なった。

※添付写真参照

4. 全体的な成果と今後の課題

寄贈先の各国からは大変感謝されている。また、愛用した道着・袴や剣道具を再び使ってもらえることから剣道愛好者からも高い支持を得ている。寄贈される方々には、本連盟までの送料を負担していただいているにもかかわらず、寄贈が絶えずに安定・継続した事業活動となっている。

(社)日本近代五種・バイアスロン連合

1. 実施概要

スポーツ団体を取り組める環境活動の重要性を認識し、「快適なスポーツ！ストップ地球温暖化」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

今後、団体だけの活動に止まらず、全国に発信していただけるような活動を視野に入れて取り組む。

2. 平成22年度事業活動

- ・大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ・競技会等における環境活動
- ・環境保全に関する呼びかけと清掃活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

〈大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示〉

本主催大会にて環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い啓発活動を行った。

〈競技大会等における環境活動〉

本会主催大会において、プログラム、リザルト等をウェブ上に反映し、紙の削減を行い、1年間で1万枚の削減に繋がった。

また、会場において照明や空調の温度調整、出場選手等には公共交通機関の使用を促すなどして、CO2削減に取り組んだ。

＜環境保全の関する行動＞

本大会において、射撃練習会を実施。フロンガス・鉛弾を使わないスポーツエアガンを紹介。また、スポーツと環境についての意識向上を目的に、主催者から参加者への環境保全の大切さを呼びかけ、その後、敷地内の清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターやバナー掲示、パンフレットの配布などの啓発活動を通して多くの出場選手、大会関係者に理解がえることが出来た。

今後、現役の近代五種アスリートを招くなどして、啓蒙活動から実践活動へ意識を変え、スポーツと環境が大きな係わりを持つことを一人でも多くの方に理解してもらえようこれからも積極的に環境保全に努めていきたいと思う。

(財)日本ラグビーフットボール協会

日本ラグビーフットボール協会は、管理委員会に環境部門設置より4年目を迎え、環境部門委員によりスポーツにおける環境活動への取り組み事例の研究及び検討を行い、『社会貢献活動の1つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして下記の事業を実施した。

1. 事業活動

- ①日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
- ②地球温暖化防止のための『チャレンジ25キャンペーン』（環境省主管）加盟メンバーとして環境保全活動への協力
- ③協会内各委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進を図る
- ④日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
- ⑤9月3日、10月29日開催のJOC環境担当者会議に参加し他団体の取り組み事例の研究
- ⑥2016年オリンピック（公式競技決定）、2019年ワールドカップ（日本開催決定）に向けての環境PRの発信

2. 具体的な実施内容

- ①広報活動（環境啓発PR）

広報委員会との連携によりホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境保全運動を推進した。

 - ・「FOR ALL, FOR EARTH」の日本協会環境タイライン活用
 - ・「チャレンジ25キャンペーン」の露出PR
- ②試合（競技場）を観客・ファンへの環境啓発活動のチャンスと捉えてのPR推進、JOC環境協力バナー（横断幕）を試合グラウンドに掲出。

また場内アナウンスにより、ゴミ分別回収協力の呼び掛け
- ③秩父宮ラグビー場での「エコキャップ運動」をスタートし、ペットボトルキャップを回収し、資源の再利用促進することでCO₂排出量の削減、キャップの再資源化で得る売

却益を以って発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動を行った。また、キャンプの回収した総数、それを焼却した際に発生するCO₂の量、提供できるワクチン数は定期的にホームページ等で報告している。

- ④ 試合開催時にチャレンジ25のデスクを設置しファンへの参加協力呼びかけ
- ⑤ トップリーグ参加チームと日本協会による「Try For Green プロジェクト」を展開。トライ数に応じた寄附により、森林保全活動支援を行う（8月網走市での植林活動を実施）
- ⑥ 省エネルギー、エコ商品利用、試合観戦時の公共交通機関利用の推奨

FOR ALL, FOR EARTH.

(環境部門メンバー 高野 敬一郎、児玉 隆一郎、岩上 教行、片山 良太、大山 高行)

(社)日本山岳協会

当協会における環境保護に関する活動は、登山活動の山岳自然に対する負荷を自覚し、山岳自然を美しく保ち、後世に伝えるために山岳地域の自然環境保護と環境保全を中心に活動している。具体的には以下のような活動を年間を通して行っている。

- ① 独自制度である「自然保護指導員制度」の普及及び推進
- ② 自然保護委員総会（各都道府県に1名配置）の開催
- ③ 環境省の自然公園指導員制度及び自然公園ふれあい全国大会への協力
- ④ 山岳自然保護関係団体と連携して自然保護活動の推進
- ⑤ 山岳地域におけるゴミ捨て防止、トイレマナーの向上等の推進
- ⑥ 各地域における清掃登山等の実践

また、自然環境変化の影響を受けやすい山岳では、ライチョウの棲息減少、増えすぎたシカ、クマやサルの人里への侵出など、変化が顕実化してきています。これらの変化は、連鎖的・相乗的に生態系全体に深刻な影響を及ぼしています。我々は環境保全に寄与するため生息の実態を把握することからはじめるべきと考え、これらの野生動物の棲家を活動のフィールドにする山岳スポーツ愛好家に呼びかけ、「山の野生鳥獣目撃レポート」プロジェクトをほかの山岳団体と連携して全国活動を実施しています。

● 登山者のマナー

- 1. 自然を傷めないこと
植物の盗掘、湿地帯等への踏み込みをしない。
- 2. 水場を汚さない
残飯等は持ち帰る。洗剤は使用しない。水場の上流には立ち入らない。
- 3. テイクイン・テイクアウト
山に持ち込んだものは、全て持ち帰る。山では焼却しない。ゴミを埋めない。
- 4. ゴミを持ち込まない工夫
食材は多く持ち込まない。食べられる量だけ調理する。

5. トイレマナーを守る

登山口で済ませる。携帯用トイレの使用を習慣づける。

6. その他

野生動物への配慮（ペットの持ち込み等）。移入植物の侵入への配慮。

公益社団法人 日本カヌー連盟

1. 実施概要

本連盟では、「環境対策委員会」において従来より「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」を推進し、JOC スポーツ環境委員会提供ポスター及び横断幕を国内主要競技大会期間中に掲示することで環境保全に対する啓蒙活動を行なってきた。

「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」は1981年より各種大会において利用する河川、湖等において競技会開催期間中の水上及び周辺施設内の清掃を行なうことを主にして継続的に活動している。

2. 平成22年度事業活動

- ①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示
- ②競技会等における環境活動

3. 具体的な活動内容と成果

- ①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示

本会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕掲示を行い、啓発活動を行った。

- ②競技会等における環境活動

分別収集用のゴミ箱を設置し、競技会場周辺の自然環境を美しく保つよう呼びかけた。
競技会終了後は、選手も加わって撤収、清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

元々自然環境下で行うスポーツであることから、環境保全に関しては選手・役員共に関心は高いが、今後は観客を含め、更に環境に対する意識を高めるべく活動を行っていきたい。

(財)全日本空手道連盟

1. 実施概要

競技会開催時にゴミ分別収集を呼び掛け、これを徹底できるように意識付けを行なった。

2. 平成22年度事業活動

- ・競技会開催時における環境ポスターの掲示
- ・競技会におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ

3. 具体的な活動実施内容とその成果

【競技会開催時、環境啓発ポスターの掲示】

本連盟が主催した第10回全日本少年少女空手道選手権大会及び第38回全日本空手道選手権大会において、環境啓発ポスターを掲示し、ゴミの分別収集を呼び掛け、啓発活動を行なった。

4. 全体的な成果と今後の課題

ここ数年のポスター掲示等の啓発活動が実り、大会役員、競技係員、観客に分別収集の意識が芽生えている。しかし、分別はしてあるが、競技会終了後のゴミ収集場所はゴミ箱に入りきらないほどゴミであふれかえっている状況がある。今後はゴミを出さない工夫を呼び掛けたり、ゴミの持ち帰りを呼び掛けたりして、大量のゴミを出さないように意識付けを行ないたい。

(社)全日本銃剣道連盟

環境状況活動状況報告書

活動状況においては、当連盟は主として、体育館又は武道場で稽古をし、試合を行うのが通例であるが、特に環境保全については、安全管理面からも重要であり概ね次のような指導をし、実践活動をしている。

1. 試合等の運営

試合等では、観客席及び選手控え室における整理整頓について、会場指導係を巡回させて、ゴミの区分を徹底させ、ゴミの出さないよう指導し、特に、弁当の空箱等は放置することなく、持ち帰るよう指導している。

また、講習会等には空箱が出ないように業者のお弁当を注文しゴミが出ないように行っています。

2. 研修会等での行動

研修会等においては、環境美化を研修会の当初の段階で注意喚起している。

研修会終了時には担当を決め、清掃の徹底を図り、また道場を出る際には休憩時等には照明の消灯確認徹底を図り、環境保全に取り込んでいます。

3. 事務所帰宅時

事務所を帰宅時は、流し場の清掃整頓及び必ず電源のコンセント等を外し帰宅する。

4. 平成23年度事業計画には、環境整備とドーピング対策を明記し、今後とも武道環境と会員の安全管理教育を推進している。

(財)全日本ボウリング協会

1. 実施概要

スポーツと環境保全への啓発活動は、「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」ことを選手に認識させること方針として、平成22年度も引き続き常設委員会である「普及開発委員会」が担当した。具体策としての大会における活動については、協会特別委員会の「情報技術（IT）委員会」が協力した。

2. 平成22年度事業活動

- ・協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示とパンフレット配布
平成22年度定時評議員会・理事会
文部科学大臣杯争奪第17回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会 ほか
- ・協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導
- ・記録速報紙等の用紙使用量削減を実施
第39回全日本支部対抗ボウリング選手権大会
文部科学大臣杯争奪第49回全日本ボウリング選手権大会

3. 具体的な実施内容とその成果

- ・協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示とパンフレット配布
- ・協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

協会が主催する全国大会や、定時評議員会・理事会などの会場に環境啓発ポスターを掲示した。一部の大会ではプログラム冊子に環境啓発の広告を掲載し、選手・役員への環境啓発パンフレットの配布を行った。また全ての協会主催大会の「監督会議」や「選手ミーティング」では、環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行い、大会中は場内アナウンス等により、選手、役員、観客など、大会に関わるすべての人がマナーを意識し守るよう導くことを目標とし実施した。

- ・記録速報紙等の用紙使用量削減を実施

平成21年度に一部大会で実施した「競技成績の大型スクリーンによる公開」を、今年度は全日本選手権大会で引き続き実施し、全日本支部対抗選手権大会でも新たに導入した。従来の紙プリント主体の成績速報配布と比べ、コピー用紙削減と情報伝達のスピード化に大きく貢献した。また携帯端末で大会の成績を見ることが出来る web サイトは、22年度はアドレス告知を進めたことで利用者が大幅に増加しており、情報提供の多様化が一局集中の防止にも効果を上げていると思われる。いずれも選手・スタッフの両方から好評を得ることができた。

4. 全体的な成果と今後の課題

会場内での記録速報掲示は、これまで協会本部が国際大会等で実施してきたモデルケースを、21年度に初めて、大会を主管する県連盟が主体となって実施し、22年度は更に導入大会を増やすことができた。新規導入に向けては、利用する選手の意識や評価が運営側を動かすきっかけになっていると思われる。選手のエコ意識を啓発する活動と様々なアイデアの提案・実現を並行して進めてゆくことで、より高い成果を目指したいと考えている。

全日本アマチュア野球連盟

1. 実施概要

北海道にあるアオダモの木は、バット材として世界一と言われている。日本野球界全体としての取組みであるが、バット材として適するまでに70年以上もかかるこの木材を安定供給させるため「NPO 法人アオダモ資源育成の会」を設立した。野球界では、将来のバット材の確保を図るとともに、植林や草刈りなどをとおして植栽環境保全にも貢献しながら“バットの森”を育てる取組みを展開している。

2. 平成22年度事業活動

・植林活動

3. 具体的な活動内容とその成果：

(1) 平成22年7月10日(土) 午前10時00分～11時30分

場所：新冠国有林 2164林班ろ小班

参加者：日高南部森林管理署長、札幌篠路高校野球部員31名、えりも高校野球部員5名、穂別高校野球部員5名、北海道森林管理局、北海道庁水産林務部、地元ボランティアなど関係者160名、1000本

(2) 平成22年7月24日(土) 午前10時00分～11時30分

場所：苫小牧国有林 1298林班ろ小班

参加者：山崎伸介北海道森林管理局長、横浜ベイスターズ 松本啓二郎、読売ジャイアンツ 谷内田敦士 以上2名、尚志学園高校野球部員28名、苫小牧駒澤大学野球部員11名、北海道森林管理局、北海道庁水産林務部、胆振森づくりセンター、地元ボランティアなど関係者 80名、200本

(3) 平成22年9月20日(月) 午前10時～11時30分

場所：由仁町道有林 119林班02小班

参加者：中島俊明北海道庁水産林務部森林環境局長、プロ野球解説者 栗山英樹、北海道医療大学野球部員10名、札幌龍谷高校野球部員35名、少年野球チーム、北海道森林管理局、北海道庁水産林務部、胆振森づくりセンター、地元ボランティアなど関係者190名、500本

(4) 平成22年10月16日(土) 午前10時～11時00分

場所：苫小牧東部地域 つたもり山林内

参加者：鶴川高校野球部員23名、厚真高校野球部員13名(株) 苫東、地元ボランティアなど関係者50名、100本

4. 全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きな係りを持つことを以前から考え啓蒙し、実践してきた。すでに「NPO 法人アオダモ育成の会」が出来て10年以上経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

(社)日本カーリング協会

1. 実施概要

日本カーリング協会主催の各種大会で、環境保全に対する取り組みを参加選手、役員へアピールし、運動の輪を地方協会へ広げるよう情報発信をした。

2. 22年度事業活動

大会時のみならず、主要施設へポスターの掲示を行った。

国際大会では、徹底したゴミの分別回収を行い、内外に環境保全活動をアピールした。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

日本カーリング協会主催大会開催施設に、常時ポスターの掲示をお願いし、結果、大会開催施設だけではなく、多くのカーリング専用施設に、10月から4月までの期間、ポスターの掲示が出来た。

主要大会でのゴミ分別回収を実施したことによって、地方協会へその取り組みが広がった。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全活動についての意識の高まりはあったものの、まだ大きな広がりにはなっていないため、すぐ取り組めることからスタートし、活動を全国的なものにしていきたい。

(社団法人 日本カーリング協会 事務局長 倉本憲男)

(社)日本トライアスロン連合

2010年度、日本トライアスロン連合環境委員会は9月に集中し各競技大会に主催者側と共に出席した。

各大会前の挨拶ではスローガンを改めて訴えると共にスポーツと環境についてご理解とご協力をお願いした。

ECO-STATIONを設置したり、ビーチクリーンを行ったりと積極的に行われておりスポーツと環境が浸透している事を強く感じさせるものであった。

競技大会会場ではゴミ等を処理することを考えがちであるが違う視点で考えることも必要と思われる。エードステーションのコップの再利用とか選手の立場からは自転車の再利用等処理を考えることより再利用を考えることで自然とゴミ等はなくなるように思える。主催者側も長年にわたる開催を考えるならば地元（開催地）のご理解を得るため積極的に環境も視野に入れるべき事ではないか。あとは選手達の意識の問題だけである。

一昨年度は、横浜国際トライアスロン大会にて横浜市環境局のご協力で大会会場である山下公園前の海の清掃活動によってトライアスロン大会は成功裡を収めた。海洋汚染にもトライアスロン関係者の積極的な行動を進めることで全国に波及することを強く希望する。



日本トライアスロン連合・岩城会長

(日本トライアスロン連合 環境委員会 委員長鈴木信之)

(財)日本ゴルフ協会

1. 実施概要

スポーツ団体に取り組める環境活動の重要性を認識し当協会では、日本オープンゴルフ選手権競技・日本女子オープンゴルフ選手権競技・日本シニアオープンゴルフ選手権競技の3オープン競技にて、「ごみの分別活動」を実施した。

2. 平成22年度事業活動

- ・大会時に環境啓発ポスターの掲示
- ・ゴミの分別箱の設置

3. 活動実施内容

【大会時の環境ポスターの掲示】

大会会場内のクラブハウスに来場された多くの方に見てもらえるように、玄関入口付近やロッカー入口付近等に掲示をした。

【大会における環境活動】

(3オープン共通)

大会期間中は、3オープン競技で約63,500名の来場があった。

各大会会場内のすべてのごみ箱は、分別収集を実施しギャラリーの方へご協力頂いた。

JGA カフェ内（飲食ブース）では、再生紙などを使用した器などを使用した。

（日本オープンゴルフ選手権競技）

ギャラリー向けの駐車場は用意せず、コースの立地条件を生かし公共交通機関の利用を促すよう案内をし、最寄り駅とコース間ではバス輸送を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

3 オープン競技では、分別収集のごみ箱を配置し、ギャラリーの皆様にご協力頂いた。今後は、分別収集に加え更なるごみの量の減量に努めるようにしていきたい。

例)

- ・ボランティアの方などに「マイボトル」持参の協力依頼
- ・大会関係者の「マイボトル・マイカップ」

(社)日本スカッシュ協会

1. 実施概要

スカッシュはコートがスポーツクラブ内に有るため、クラブとの関係が殊に重要となる。コート周りだけでなく、クラブの利用法を含めて、全てのライフスタイルに環境意識を取り込むように促す事をキャンペーンの中心に据えた。

2. 平成22年度事業活動

- ・日本選手権大会開催時に会場に応じたエコキャンペーンの実施（マイボトル・分別・節水など）
- ・大会会場に JOC 制作の環境啓発ポスターを掲示
- ・大会表彰式に環境啓発のスピーチを実施
- ・ライフスタイルの中での環境意識啓発を訴えるポスターを全国に配布
- ・協会公式サイトで啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

＜大会開催時の実施状況＞

当協会主催の全ての大会で JOC 啓発ポスターを掲示し、当協会エコキャンペーンを実施。キャンペーン内容を大会パンフやウェブサイトにて事前に告知し周知を図り、会場にはバナーを掲示して協力を促した。

＜エコキャンペーンの具体的内容＞

ジュニア大会ではドリンクはマイボトル、マイカップを利用するように給水タンクを用意した。

全日本選手権では会場が狭かったため、分別収集とエコロジー意識の啓発を主眼としたキャンペーンを行い、主に節水や公共交通機関の使用を促した。大会公式サイトでは上位入賞選手が率先してエコロジー意識が有る事をスローガンバナーと共に撮った

写真でアピールした。

<エコキャンペーンポスターの作成>

クラブ利用時と自宅での生活に意識の違いがあることが多く、どこでもいつでも同じ意識で環境への配慮を行うよう啓発するポスターを作成した。ポスターには全日本選手権時に撮影した同大会上位入賞選手やジュニアナショナルチーム選手の写真を使い、ソフトイメージでまとめあげた。スカッシュ普及キャンペーンポスター配布と同送にて全ての団体会員に送付。また機関誌やウェブサイトで継続的に呼びかけを行っている。

4. 全体的な成果と今後の課題

エコキャンペーンは3年目を迎え、ジュニア大会では意識が定着している。少しずつでも長く続ける事で、意識がより確実なものになってゆくのを実感できるのはとてもモチベーションが上がる。スカッシュ競技は競技でも大会でも廃棄物は少なく、環境負荷の低いスポーツであるが、スカッシュ後シャワーの節水呼びかける事でクラブとの関係を向上させ、新しい努力目標も探し続けている。日常生活とスポーツ時との意識の差を無くし、常に環境を考える習慣づけがなされれば上々の成果と思われる。継続が何よりも重要である。

(社)日本ボディビル連盟

1. 実施概要

当連盟の環境委員会は2009年10月に設立され一年を経過した。そのような中で、まずスポーツ環境委員会がIOCとJOCに組織されていること、また私達の連盟がJOCに加盟していてスポーツ環境委員会に参加していることを関係者に周知を図り、「ストップ！地球温暖化・出来ることからやっぺいこう。」をスローガンに活動を行った。今後さらに、スポーツ環境の重要性を関係各位に理解されるよう努めていく。また、スローガンに基づき積極的に活動をしていく。

2. 平成22年度事業活動

- ・日本ボディビル選手権大会、ブロック大会、地方大会等50を越えるボディビル大会会場で横断幕、懸垂幕、ポスターなどにより大会役員、係員、選手、観客にスポーツ環境、地球環境を守ることの大切さの理解を深めるよう努めた。
- ・全国都道府県ボディビル大会プログラムのページに【ストップ！地球温暖化】のスローガンと環境委員会の活動方針を掲載しスポーツと環境、地球温暖化防止の大切さの周知を図った。
- ・全国のボディビル大会会場で発生するゴミの分別収集の徹底を図った。
- ・事務室で昼休み時等にこまめに照明の消灯に努めた。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ・2. の内容と同じ。

4. 全体的な成果と今後の課題

横断幕、ポスターの掲示、年間50回以上開催される大会プログラムへ啓発文の掲載、大会会場でのゴミの分別収集など積極的に行ってきた。しかし役員間においては環境への取り組みが大切であることを理解されつつあるもののまだまだ末端まで浸透しているとはいえない。今後、全国の支部連盟を通じて一層の理解と協力が得られるよう積極的に取り組んでいきたい。

(スポーツ環境委員会委員長 磯野武夫)

(社)全日本テコンドー協会

1. 実施概要

環境問題が国際的課題として叫ばれている昨今ですが、本協会でも率先して取り組んでいきたいと考えております。特に本協会では、環境にやさしい大会運営をテーマに活動してまいりました。スポーツ団体ですから、全国各地で大会開催が行われますので、その積み重ねの効果は大いに期待できることと考えております。また大会開催を通じて一人でも多くの方たちが環境問題を意識し、その環が広がっていくようなエコーブメントの発信源となる大会運営を目指しております。

2. 平成22年度事業活動

- ・大会時環境啓発ポスター掲示
- ・大会プログラムでの環境広告掲載
- ・会長挨拶文での環境啓発文挿入
- ・大会時ゴミの分別回収
- ・大会時ゴミの持ち帰り運動の推進
- ・大会時節電・節水の実施・呼びかけ
- ・事務局内での裏紙使用・ペーパーレス化推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

全日本選手権大会をはじめ、全日本選手権地区予選大会、全日本学生選手権大会、全日本ジュニア選手権大会など主要国内大会ではパンフレットに環境広告を掲示し配布を行いました。ポスター掲示、ゴミ分別回収、さらには大会挨拶でも環境問題をテーマの一つとして盛り込むなど、啓蒙活動を率先して展開しました。

特に、去る2月、駒沢屋内球技場で開催しました全日本選手権大会では、ゴミの持ち帰り運動を行い、昨年度よりもゴミの回収量が可燃物ゴミ2袋分、空き缶1袋分、ペットボトル1袋分削減することに成功しました。これも積極的な啓蒙活動による意識向上の成果のひとつといえるでしょう。

4. 全体的な成果と今後の課題

「環境にやさしい大会運営」のテーマのもと、本協会主催の国内主要6大会では、積極的

な啓蒙活動を通して、環境問題への取り組みをアピールすることができ、大会関係者、選手、来場者の意識向上が図れたと思います。

今後の課題としては、本年度の取り組みを継続し、さらには、より多くの各都道府県加盟団体に啓蒙活動を行ってもらえるよう働き掛け、全国各地での大会開催で、更なる環境問題への取り組みが浸透するよう環境作りと協力体制を整えていきたいと考えております。

日本カバディ協会

1. 実施概要

日本カバディ協会では、平成19年4月に環境委員会を設置以来、引き続きスポーツと環境保全の啓発、実践活動を行っている。

2. 平成22年度事業活動

- ・大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会）での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
- ・競技会等における環境活動
- ・事務局における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

＜大会での環境啓発ポスター、バナーの掲示、パンフレットの配布＞

当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行った。

＜競技会等における環境活動＞

ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項記載した。

お昼時間を設け食事はなるべく食堂を利用するなど、ゴミが出ないようにした。

＜事務局における環境活動＞

ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXでの送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減にも心がけている。

4. 全体的な成果と今後の活動

大会におけるバナーや呼びかけの成果が実り、自主的にゴミの分別を行う選手が今まで以上に出てきた。カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツである。

そのようなスポーツだからこそ、今後選手を始め、関係者の環境問題への意識付けをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。

日本セパタクロー協会

1. 実施概要

日本セパタクロー協会では、平成22年度も環境委員会が中心となり、『できることからコツコツと実践』をテーマとして、大会時に発生するゴミの分別をより細分化するなど、身近にできるエコ活動に特に力を入れながら、主に下記の事業を行った。

2. 平成22年度事業活動

- ① オフィスにおけるエコ活動の実践
- ② 大会時環境啓発ポスターの掲示、冊子配布、啓発に関するアナウンス
- ③ 大会時におけるエコ活動の実践
- ④ 環境イベント、啓蒙活動への参加

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<オフィスにおけるエコ活動の実践>

- ・ 事務局の空調温度管理（夏は28度、冬は20度設定）や稼働時間の短縮、照明のこまめな消灯
- ・ 不使用時のパソコン電源切断
- ・ コピー用紙、メモ用紙の両面利用

<大会時における環境保全啓蒙活動の実践>

- ・ 本会主催大会において、環境啓発ポスターの掲示と環境パンフレットの配布を行うとともに、開会式でゴミの分別など環境活動への協力を促すアナウンスをして、啓発活動を行った。

<大会時におけるエコ活動の実践>

- ・ ゴミ分別の細分化（弁当の残飯をまとめて生ごみとして分別／弁当容器を空にしてプラスチックゴミとして廃棄／ペットボトルのプラスチックラベル剥がしなど）
- ・ 本会主催大会において、役員・選手は会場まで公共交通機関を利用

<環境イベント、啓蒙活動への参加>

- ・ チャレンジ25への参加表明（団体登録申請中）及び関連イベントへの参加
- ・ エコキャップ運動の推進（キャップ回収）
- ・ エコフラッグムーブメントへの賛同

4. 全体的な成果と今後の課題

本会主催大会時における環境啓発ポスターの掲示や環境パンフレットの配布、環境活動への協力を促すアナウンスなど、地道な啓発活動を行ってきた結果、役員・選手をはじめ多くの関係者に環境活動への理解を深めることができた。

今後は、環境活動に対する認識がまだ高くない国際協会への啓発活動を推進し、環境委員会の設置や世界選手権大会など国際大会での環境活動の実施を積極的に促進していきたいと考えている。

（専務理事 環境委員会委員長 三澤 勝）

特定非営利活動法人 日本ローラースポーツ連盟

1. 実施内容

- ・スポーツ団体として、環境活動は競技場（施設）の正しい使用法を促し、日頃より整理整頓を積極的に出来るよう指導し、今後も継続していく。

2. 平成22年度事業活動

- *大会時 環境啓発ポスターの掲示
- *大会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ・大会時 環境活動としてゴミの持ち帰りを促した。
- ・本連盟主催大会（一部）において参加者募集を当連盟ホームページに掲載し、紙の削減を行った。
- ・大会に参加するにあたり、現地までの公共交通機関使用、何人かの同乗しての移動等を促し、CO₂の削減に取り組んだ。

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスター掲示等で役員・選手の意識が高まりゴミの削減が行えた。
- ・本連盟主催大会（一部）において参加者募集を当連盟ホームページに掲載したが、今後は全部の大会で掲載し、紙の削減に取り組むたいと思っている。
- ・大会時だけではなく、家庭でも環境活動が行われるよう指導していきたい。

(2) JOCスポーツ環境アンバサダーの活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

瀬古 利彦 アンバサダー

地球温暖化対策を推進するにあたり、本年度は下記の3つのイベントで啓発活動を実施した。

① 2010年4月6日（火）東京マラソングリーンプロジェクト「海の森へ植樹」

東京マラソン環境アンバサダーとして東京湾に浮かぶ1,230万tのゴミにより造成された埋立地を日比谷公園の約5.5倍もの美しい森に生まれ変わらせる「海の森」へチャリティメンバーや都民のかたと植樹を実施。

② 2010年9月3日（金）第6回 JOC スポーツ環境・地域セミナー「基調対談」パネリスト

JOC スポーツ環境アンバサダーとして JOC パートナー都市である横浜市との共催のセミナーに参加。

（於 横浜市開港記念会館）

「マラソン大会の沿道で、観客が紙の旗を振るのが恒例になっていたが、環境のためと選手への接触事故の防止のため、現在廃止になっている」と日本陸上競技連盟の取り組みを紹介した。

③ 2011年12月1日（水）JOCジュニアオリンピックカップ 日本ジュニアカーリング大会 講話

（於 北海道北見市常呂町カーリングホール）

JOC スポーツ環境アンバサダーとしてカーリングジュニア選手と指導者へ地球環境の保全を啓蒙し関心呼び掛けた。



東京マラソングリーンプロジェクト「植樹」風景



JOC スポーツ環境・地域セミナー「基調対談」風景



JOC ジュニアオリンピックカップ日本ジュニアカーリング大会講話風景

岩崎 恭子 アンバサダー

1. 実施概要

JOC スポーツ環境アンバサダー、そして日本水泳連盟スポーツ環境委員として取り組むべき環境活動の重要性を理解し、環境省との連携活動「チーム・マイナス6」、そして「チャレンジ25キャンペーン」への協力を積極的に行った。

今後は、個人でも全国各地で発信していきけるような活動を目標に取り組む。

2. 平成22年度事業活動

- ・エココンテストの計画および実施（日本水泳連盟として活動）
- ・競技会における環境活動（日本水泳連盟として活動）
- ・環境保全に関する講演

3. 具体的な活動実施内容とその成果

■エココンテストの計画および実施

- ・水泳愛好者ができる「エコ活動」を推進
- ・スポーツに携わる人ができる「エコ活動」の提案
- ・水とエコを身近に感じてもらうことを目的にエコスローガンを公募し、審査。

■競技会における環境活動

- ・本会主催大会において、プログラム、リザルト等をウェブ上に反映し、紙の削減を行った。

数年前から行っている紙の削減活動が朝日新聞に掲載された。

また、照明、空調の調整、公共交通機関の使用を促すなど、CO2削減についても取り組んだ。

■環境保全に関する講演

- ・招聘された講演では、水質汚染や海岸のごみ問題など現在、海の環境問題が深刻化していることなど具体的な例を挙げ、スポーツと環境が密に関わっていることを伝え、参加者に環境について一緒に考えてもらい、環境保全の大切さを呼びかけた。

4. 全体的な成果と今後の課題

エココンテストではたくさんの公募があり、多くの水泳愛好者が水の環境について考えているということを実感できた。JOC スポーツ環境アンバサダー、そして日本水泳連盟スポーツ環境委員として平成23年度も継続し、環境に対する啓発活動を行っていきたい。

また、講演等を通じて、実際に海の環境汚染はオープンウォーターの大会などにも深刻な影響を及ぼすことを知ってもらい、環境問題が身近な問題であることをより多くの一人に理解してもらえよう今後も積極的に活動したい。



明治スポーツ講習会（2010.08.01）

原田 早穂 アンバサダー

1. 実施概要：

現在マルタ共和国に滞在中のため、日本での活動のかわりに、ヨーロッパでの環境対策について、調査を行った。ここで得た日本とは違う視点からの環境保護を日本でも普及できるよう活動。

2. 平成22年度事業活動：

- ・マルタ環境保護委員会に環境の取り組み方、現在の進行状況についてインタビュー
- ・ビーチクリーニングに参加

3. 具体的な活動実施内容とその成果：

<マルタの環境への取り組み方>

マルタは日照時間が長く晴天の日が多い。このため一部の体育館やスポーツ施設の屋根にはソーラーパネルを設置しているところもある。

実際にソーラーパネルを設置している家に行き、1日でどの程度の電力がえられて、利点、欠点を聞くことができた。

<ビーチクリーニング>

マルタのビーチと海はとてもきれいで、夏場はオープンウォータースイミングやトライアスロンが盛んに行われている。しかし近年、この海の環境も変わりクラゲに刺されるという被害が多発。ビーチが観光客の増加に伴い汚くなり、クラゲを食べるカメが減少したためこのような現状になっていると考えられる。

そこで、マルタの有志が集まり、年に数回ビーチクリーニングを実施。

2月に行われたビーチクリーニングに参加し、ゴミ、海藻の除去を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題：※成果と今後の課題を記載

マルタの全世帯にソーラーパネルを設置した場合、現在の年間消費電力の75%がまかなうことが出来るが、今現在の普及率は1%にも達していないのが現状である。発展途上国で、今まで公害の被害にも無縁だった国だけに、国民の環境保護に対する意識レベルが相当低いのが第一の理由だ。まずは国民に環境破壊の恐ろしさを伝えることというのが今できることである。

マルタの国民の海を愛するという心が、今でもきれいな海を保ち続けている理由の一つである。海を守るということが海でのスポーツの普及にもつながるので、日本でもこのような活動をおこなっていききたい。



ソーラーパネル



太陽熱を利用し水を温水に変えるシステム



ビーチクリーニング後の砂浜

松岡 修造 アンバサダー

日本テニス協会における啓蒙活動

「修造チャレンジトップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓蒙活動を積極的に行った。

●修造チャレンジトップジュニアキャンプ開催概要

日程	対象	会場
2010年6月8日（火） ～11日（金）	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された 16歳以下の男子ジュニア選手10名	エストレーホテル&テニスクラブ



日程	対象	会場
2010年9月13日（月） ～17日（金）	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された 13歳以下の男子ジュニア選手14名及び16歳以下の 男子ジュニア選手9名（前半と後半に分けて開催）	荏原湘南スポーツセンター



日程	対象	会場
2011年3月8日(火) ～11日(金)	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された 16歳以下の男子ジュニア選手16名	味の素ナショナルトレーニングセ ンター



大林 素子 アンバサダー

1. 実施概要

バレーボールを通じて、小中学生に環境活動を広めています。大林素子杯というタイトル杯で、全国にて活動しております。2010年で8回目になります。

学校の敷地内に植樹をしたり、体育館の冷暖房を使用しない。出来るだけ照明を使用しない。ペットボトルを出来るだけ使用せずに、水筒を持参させるなどの活動しております。

2. 平成22年度事業活動

- 1月 環境アスリートフォーラム 環境活動／環境アスリート協会主催
- 2月 環境省「しんきゅうさん」イベント 環境活動／環境省主催
- 2月 勝浦市「大林素子杯チャレンジバレー大会」／国際武道大学主催
- 3月 東大阪市「大林素子カップ」環境活動／東大阪市主催
- 4月 バレーボールVプレミアリーグ決勝大会 環境活動
- 5月 千葉県「湾岸まるごとゴミ拾い」副実行委員長 環境活動／千葉県主催
- 9月 環境省「環境セミナー」環境活動／ビックサイトにて 環境省主催
- 10月 オリピックデーラン東京大会・スポーツ祭り 環境活動／JOC 主催
- 12月 栃木県・宇都宮市「大林素子バレー教室」環境活動／茂木町主催

3. 具体的な活動実施内容とその成果

現在、環境省のチャレンジ25キャンペーン応援団や国土交通省観光庁のスポーツ観光マイスターなど、環境活動をスポーツを通じて幅広く啓発活動しております。

講演会では、必ず環境の大切さを話しております。例えば、海岸線のビーチが減少しており、ビーチバレーに影響があるなど、深刻さを伝えております。

バレーボール大会や教室では、ゴミを出さない、冷暖房は使用しないなどを伝えています。必ず始める前にストレッチやアップをさせております。

4. 全体的な成果と今後の課題

バレーボール、スポーツを通じて参加者の子どもたちや関係者に啓発活動を行ってきた成果が、少しずつ浸透してきております。一人一人の気持ちの意識とまずは行動をさせるようなアドバイスをして行きます。



大阪府豊中市長と植樹



学校敷地内にて



山口県宇部市長と植樹



大林素子カップ開会式にてスピーチ



試合中



試合中



閉会式



表彰式



バレー教室



サイン会

塚原 光男 アンバサダー

1. 実施概要

体操競技普及・強化活動を通じて環境活動の重要性を認識し、未来に向けた健康的な地球社会を構築するための啓蒙活動を行った。スポーツの原点である体操の持つ力をさらに広く国民に伝えながら健康的で豊かな地球的環境づくりを提言してゆく。

2. 平成22年度事業活動

・大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

4月25日、第30回世界新体操選手権大会日本代表選考会・東京

5月28日、第8回全日本新体操ユースチャンピオンシップ・東京

6月12日、第49回世界体操競技選手権大会日本代表選考会・東京

7月3日、ジャパンカップ・東京

8月12日、2010全日本ジュニア体操競技選手権大会・横浜

8月14日、全日本学生新体操選手権大会・青森

8月19日、全日本学生体操競技選手権大会・秋田

8月27日、全日本学生トランポリン選手権大会・石川

8月28日、第19回全日本新体操クラブ選手権大会・東京

9月10日、第10回全日本新体操団体選手権大会・東京

9月11日、全日本社会人体操選手権大会・福岡

9月18日、全日本社会人新体操選手権大会・山形

9月26日、第65回国民体育大会体操競技・千葉

10月3日、第65回国民体育大会新体操・千葉

10月8日、イオンカップ世界新体操クラブ選手権大会・東京

10月23日、第28回全日本ジュニア新体操選手権大会・東京

11月19日、第63回全日本新体操選手権大会・東京

11月27日、2010日本体操祭・東京

12月3日、第64回全日本体操競技団体種目別選手権大会・山口

12月11日豊田国際体操競技大会・豊田

2月24日、全日本チャイルド選手権大会・東京（予定）

3. 具体的な活動内容

・主催大会において環境啓発ポスター、バナー掲示を行い放送等で啓発

・主催会場の温度調節を行い、クーラー、暖房等のエネルギー節約によるCO₂の削減を行った。

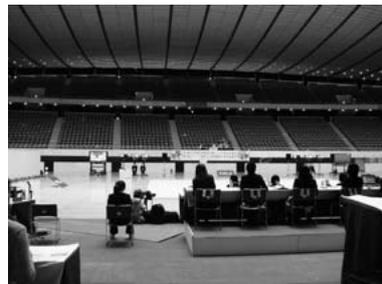
・ゴミの分別、持ち帰り運動を啓発し、環境啓発活動を行った。

・本協会ウェブサイトでの環境啓発の呼びかけを行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナー掲示、啓発呼びかけ運動の成果が出始めている。大会会場でのごみの分

別は当たり前のように実行されてきた。各会場施設での温度調節によるエネルギー節約運動も定着しつつある。さらに体操スポーツ活動通じて地球環境の重要性を啓発し、環境保全に貢献してゆきたい。



田南部 カ アンバサダー

1. 実施概要

子供から大人まで幅広い世代が取り組める環境活動として、われわれレスリング競技関係者が推進していることは、「試合会場・練習会場に来たときよりも綺麗にして帰る」という事を、指導者・選手・来場者に積極的に訴えかけています。今後も、さらに環境についてアピールしていけるよう工夫しておこないたい。

2. 平成22年度事業活動

- 少年・成年大会時での環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 競技会等での環境保全に関する挨拶
- 競技会終了後の清掃活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

少年レスリング大会時に環境活動に関しての講演を行い。大会関係者・来場者に対し可燃ごみ、不燃ごみの分別・照明、空調の節約・節水についても協力を求め、CO2削減に取り組んだ。

4. 全体的な成果と今後の課題

各種大会等で環境保全活動を訴えてきた成果が出始め、指導者・選手自らが積極的に環境啓発に対して理解しようという姿勢が見られてきた。

今後は、さらに活動を広げスポーツをすることが、環境保全に繋がっていけるよう、一人でも多くの人に理解してもらえる活動をしていきたいと考えている。



全日本強化合宿で練習終了後の分別活動
(右端はフリー84kg 全日本王者松本選手)

(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

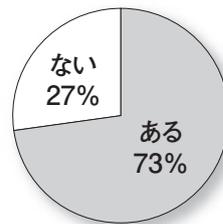
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

平成22年度JOC加盟団体を対象に7年前から、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立てている。

平成22年度はとる。その7割の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると解答を得た。

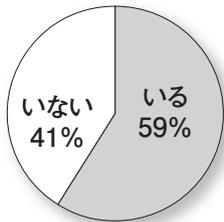
【平成22年度】

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか

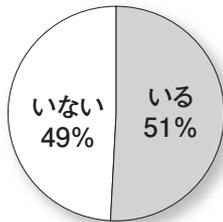


2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

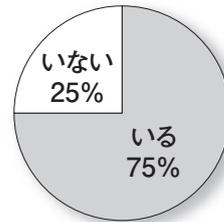
㉗ 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



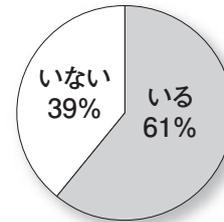
㉘ 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



㉙ トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするようにすすめている



㉚ 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している



【理由】

- 環境に配慮した用品・用具がない。
- 現在、用具のリサイクル、リデュース等を検討中

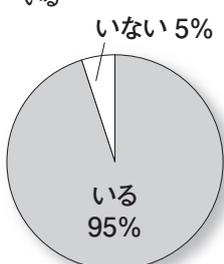
㉛ その他

- ロードレースでの応援小旗の使用を禁止した
- なるべく紙をつかわず、コンピュータ処理
- 大会参加選手へのエコバック配布、大会スタッフのベストにエコマーク製品を使用。ジュニア選手に対してリーフレットを配布
- 当連盟は発足間もなく、マニュアル等があれば配布して欲しい

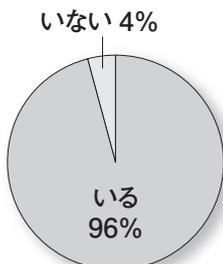
- 競技場である「スパイラル」は環境にやさしくを目標にアンモニア間接冷却方式を使用している。また会場周辺は自然にやさしくを目標に外周フェンスに隙間をあげ、小動物が通り抜けられるようにし、斜面には表土復元して地域の植生にあった地元の苗を植えている

3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

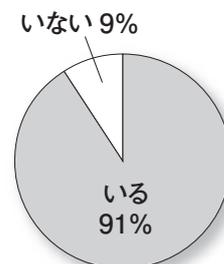
㉜ 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮している



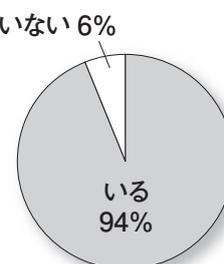
㉝ ごみの分別を実施している



㉞ ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している



㉟ 会場設営、運営の際、環境に配慮されるよう働きかけている



【具体的な取り組み】

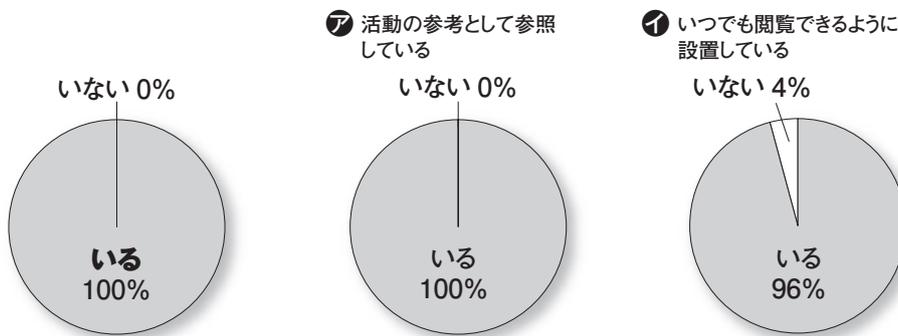
- ・大会会場の空調、気温管理等を実施
- ・適切な水値・水温、ベニュー内の装飾、エコ素材使用、バナー・ポスターの貼付

④ その他

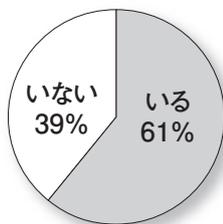
- ・ビーチバレー連盟を主体に、ペットボトルのキャップを分別収集してエコベンチ(二人掛け)に再加工し、公共施設に寄贈する地域貢献活動を実施している
- ・期間中、役員の飲料用プラスチックカップに記名し同じものを利用する
- ・公共交通利用呼びかけ

4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

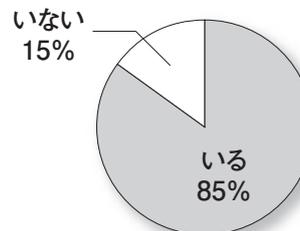
いると答えられた場合：どのように活用していますか



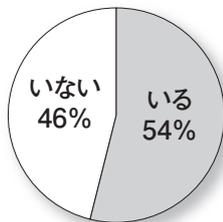
5 機関誌、大会プログラム等に環境保全について掲載していますか



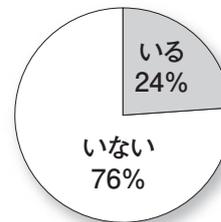
6 事業実施の時に、横断幕、ポスターおよびパンフレットを配布していますか



7 会議、大会開催時に環境についてのスピーチを行っていますか



8 貴団体は環境省の『チャレンジ25』のチャレンジャー登録をしていますか



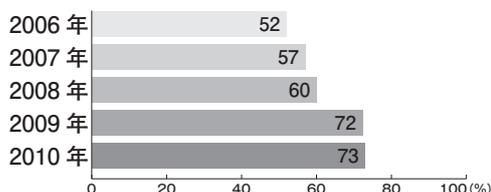
9 スポーツ環境担当者会議にて取り上げて欲しい議題

- ・中央競技団体ではなく、地方(県や市町村レベル)の競技団体や末端のクラブに於ける身近で継続的な環境保全活動の紹介
- ・環境をモチーフにした写真家があります。その方のレクチャーはいかがでしょう
- ・効率の良い環境保全教育の実例等を知りたい
- ・各団体にもそれぞれ問題等があるかと思いますが、それを提起皆さんで考えていただくのも大切ではないか
- ・種目は関係なく、環境によい行動・事象を項目ごとに羅列したものがほしい。環境保全団体などでそのようなものがあれば紹介してほしい。なかなか自分たちでは思いつかない

【年次推移】

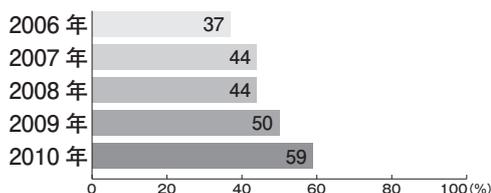
※数値はすべて「はい」の割合
※過去5年の推移

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか

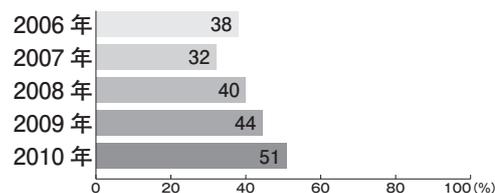


2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

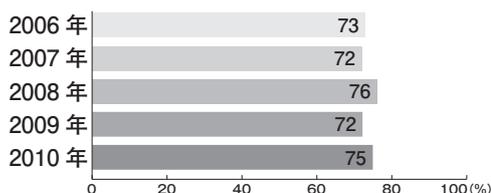
ア. 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



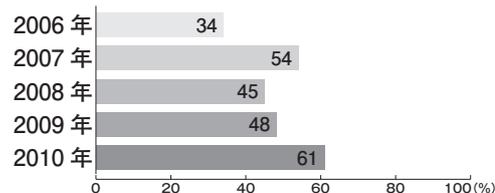
イ. 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ. トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするよう進めている

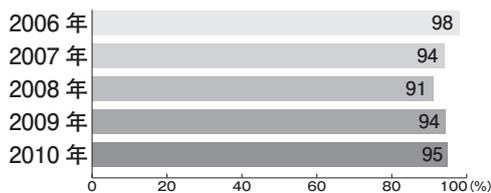


エ. 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

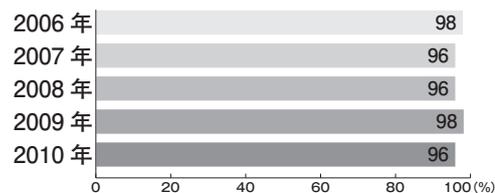


3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

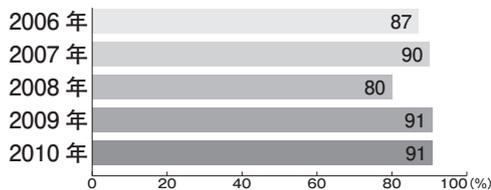
ア. 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮をしている



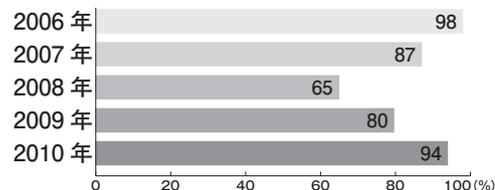
イ. ゴミの分別を実施している



ウ. ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している

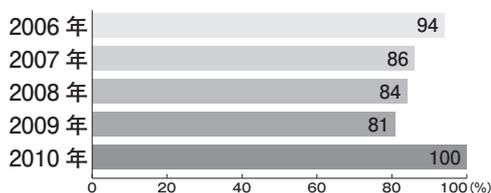


エ. 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮する

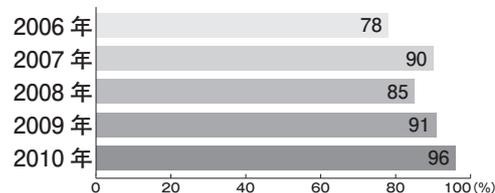


4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

ア. 活動の参考として参照している



イ. いつでも閲覧できるように設置している



(4) 国際大会での活動

JOC environmental activities at the International Games

国際総合競技大会出場選手に呼びかけ

地球の持続可能性を見詰め直そう！

日本代表選手団の皆さんは胸の「日の丸」を誇りとし、競技では日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、自らの記録を上回る成績を上げられるよう期待します。

皆さんがそれぞれの競技で高い成績を上げるについても、競技をする施設、用具、又多くの関係者の支援が必要であるように、地球上の全ての営みは空気、水、土、そして生態系など多くの要素が相互に依存しあって成立しています。単純な食物連鎖を考えて見ても、地上にある栄養素が川から海に流れ込み、それを基にプランクトンが多く発生しそれを小魚が食べます。中型の魚が小魚を食し、それを大型の魚が餌にする。大型の魚の命が絶えると分解されてプランクトンの栄養素になる。このような連鎖が生態系を維持していますが、この連鎖の一部でも途切れるとこの連鎖で成立している生物は絶滅するのです。

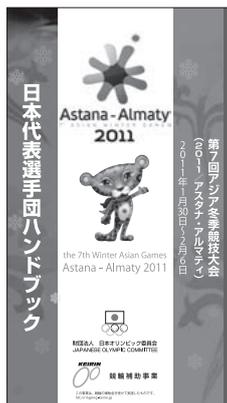
地上で人類が文明を発展させ、エネルギーや資源を大量に消費して便利な社会になった反面、大量に廃棄された二酸化炭素ガスなどの温室効果ガスが地球温暖化を起し、また地球の水、空気、土壤が汚染され多くの生物が絶滅しつつあります。そして温暖化から起こる気候変動は、スポーツ界にも大きな影響を与えつつあります。

平成22年10月に日本で開催されたCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）では地上の環境汚染で多くの生物が絶滅することは我々の社会生活の維持が非常に難しくなると警鐘を鳴らしています。一例を上げるなら、このままのペースで汚染が進み、魚を捕り続けると今世紀半ばには自然の魚は食べられなくなるそうです。

すなわちスポーツ選手を含む全ての人類の生存がこの地球生態系に依存をしています。よってスポーツ選手だけは特別ではなく、私たちも地球人として環境を保全し持続可能性を高めるために出来る協力をお願いしたいのです。JOCではIOCの環境保全活動に呼応し各競技団体がそれぞれ積極的に活動を推進しています。選手団の皆さんが身近に出来る活動として、必要のない部屋の電灯は消す、ゴミは分別する、身の回りのものを大切に使う等です。

代表選手団の皆さんは見られています。競技場のみならず選手村でも選手団員として恥じない生活をするようにお願いします。一人一人が環境保全に高い意識を持ち、「来た時よりも綺麗にして帰る」事を実践してください。

JOC スポーツ環境専門委員会



(5) 環境省との連携について

Collaboration with the Ministry of Environment

環境省との地球温暖化防止のための連携活動 「チャレンジ25キャンペーン」

JOC と環境省

JOC は京都議定書に基づき温室効果ガスを削減するための大規模国民運動「チーム・マイナス6%」に発足時の2005年から参加し、環境省との協力・連携をとってきた。アスリートや競技関係者は、世界各国の大会や合宿、国内での大会や練習などで気候変動による危機を肌で感じている。JOC と JOC 加盟国内スポーツ団体は、全国民の模範となって温暖化防止活動をその象徴となって推進すべく、率先して行動を起こし、大会などを通じて参加者や観戦者への呼びかけを行ってきた。

日本の環境行政を司る政府・環境省も、こうした JOC 及び加盟国内スポーツ団体の積極的な活動姿勢とその行動の影響力、そして国民の憧れの対象であるアスリートからの情報発信力を大いに評価し、JOC と環境省「チャレンジ25キャンペーン」の連携は進化している。

「チャレンジ25キャンペーン」 とのコラボ

1990年比での温室効果ガス6%削減を目標にした国民運動「チーム・マイナス6%」は2005年度から始まり、JOC は各競技団体の大会において、地球温暖化防止メッセージが書かれた横断幕を掲出、選手が記念撮影を行うなど、啓発活動に務めてきた。2009年度以降は、温室効果ガス25%削減を目指す国民運動「チャレンジ25」が始まり、JOC はこれまで同様にその運動を支持している。同運動では具体的な「25のアクション」をカテゴリーに分けて「6つのチャレンジ」として提案しており、運動の賛同者は「チャレンジ25宣言」に登録し、「チャレンジャー」として削減運動に取り組む。

2010年6月19日には、オリンピックの基本精神であるオリンピック・ムーブメントの普及と啓発のために、東京都のNHKホールで、「オリンピックコンサート」と「オリンピックデー記念式典」を開催。会場入り口に「チャレンジ25キャンペーン」のブースを設け、パネルを展示し、訪れた方に「チャレンジ25宣言」への登録を呼びかけた。

また10月11日に、味の素ナショナルトレーニングセンターなどで行われた『『体育の日』中央記念行事スポーツ祭り2010』では、メインステージのすぐ前に「チャレンジ25キャンペーン」のPRブースを設置。来場客が楽しめるゲームやパネルを展示することで温暖化防止をアピール、553名が「チャレンジ25宣言」に登録した。また環境を考えるイベントとして「スポーツ GOMI 拾い大会」を実施。限られた時間内にゴミを拾いそのポイントを競うゲームで、参加者は楽しみながらエコ活動を体験した。

9月3日に横浜市開港記念会館で行われた「第6回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」では、「チャレンジ25」の応援団として活躍している大林素子さんと、瀬古利彦さんの、2

名のJOCスポーツ環境アンバサダーが登壇。水野正人IOC環境委員の司会のもと、「スポーツ界における地球環境問題の啓発・実践活動」をテーマに基調対談を行った。会場では、「チャレンジ25」のパネル展示を行ったほか、「チャレンジャー」への登録を呼びかけた。

また10月29日には味の素ナショナルトレーニングセンターで「第7回スポーツと環境担当者会議」を開催。「環境省との連携について～チャレンジ25とスポーツ間の連携について～」と題する対談が行われ、環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室の植田明浩室長が登壇した。JOCスポーツ環境専門委員会の板橋一太委員長をコーディネーターに、JOCスポーツ環境アンバサダーの中村淳子さんと対談。植田室長は「JOCと環境省は長い間連携し活動をしてきました。スポーツ界を通じた広報普及活動は、今や切っても切れない関係になっております。ストップ温暖化の活動は、自転車を使うなど健康に結びつく取組みも多く、健康＝エコというイメージもあるので、スポーツ活動をされる方々に活動をぜひ広めていただきたいと思っています」と呼びかけた。

12月11日、日本体育協会と日本オリンピック委員会（JOC）の創立100周年記念シンポジウムの第2回目が京都会場で行われ、『スポーツで考える「環境と共生」の時代』をテーマに、環境問題やその対策について考えた。会場では、1200名を超える参加者全員に「チャレンジ25」のパンフレットを配布、啓発に務めた。



チャレンジ25キャンペーンのブース。多くの来場者にチャレンジャー登録して頂きました。



参加者には「しんきゅうさん温度計」がプレゼントされました。

(6) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

短い一言のご挨拶の機会がある時は次の一言をお願いします。

「私達スポーツを愛するものは環境保全の大切さを理解し温暖化防止などにエネルギー・資源の節減やゴミの分別などできる事から実行しましょう」

スポーツと環境について5分レクチャー原稿

5分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- ① スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。
- ② 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2) 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります。

- ① 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。
- ② ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
- ③ よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。

(3) Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのできる事を実行する)

- ① 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
- ② そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単な事です。

2. 協力依頼

(1) まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう。

- ① 地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、私たちの環境が破壊されています。
- ② 農業、漁業、多くの産業が気候変動によって大きな打撃を受けています。
- ③ 生態系の根本である食物連鎖が途切れて絶滅種が多くなりつつあります。

(2) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています。

- ① エネルギー資源を節減する為に3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行
 - a. 削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)
 - b. 再使用 (Reuse)。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫することです。

例えばサイズの問題で着る事ができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

- c. リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手に分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)
- ②夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減
- a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
 - b. 夏はできるだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クール・ビズ)
- ③ゴミは分別してリサイクルをしやすいように工夫する。
- a. 『混ぜればゴミ、分ければ資源』の言葉通り、廃棄物を分別する事で資源として再利用やリサイクルが可能になります。
 - b. 日常生活やスポーツ活動の中でも分別を心がけましょう。
- ④温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用）をする樹木を増やす手伝いをしましょう。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について15分レクチャー原稿

15分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私達は全員地球人です（宇宙船地球号の乗組員）

- ①46億年前に地球は形成されました。
- ②300万年前に人類が地上に出現しました。
- ③1万年前に大家族制による農業革命がおこりました。
- ④20世紀は人類の転換期（文明の急速発達）でした。
- ⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。
- ⑥環境問題を列記してみましよう。
 - a. 地球温暖化
 - b. オゾン層破壊
 - c. 酸性雨
 - d. 野生生物種の減少
 - e. 森林の減少
 - f. 地球規模の砂漠化
 - g. 海洋汚染

- h. 有害廃棄物の越境移動
- i. 大気汚染

2. スポーツと環境についての理解

- ①スポーツを愛する私たちも皆、地球人。
 - a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れないがそれは幻想です。
 - b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。
- ②私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります。
 - a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。
 - b. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
 - c. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。
- ③ Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのできる事を実行する。)
 - a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
 - b. そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単な事です。

3. スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

- ①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。
- ②1976年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）。
- ③1990年まで IOC は環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
- ④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）。
- ⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。
- ⑥1994年 IOC100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催。
- ⑦1995年 IOC にスポーツと環境委員会設置。
- ⑧1995年第1回 IOC スポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。
- ⑨1997年第2回 IOC スポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。
- ⑩1999年第3回 IOC スポーツと環境世界会議（ブラジル・リオデジャネイロ）で Olympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOC で承認された。
- ⑪2001年4月 JOC にスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
- ⑫2001年11月第4回 IOC スポーツと環境世界会議を長野で開催。
"Give The Planet A Sporting Chance" Olympic Movement's Agenda 21の実践。
- ⑬2003年第5回 IOC スポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者（選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。

- ⑭2005年第6回 IOC スポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。
- ⑮2007年第7回 IOC スポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。
- ⑯ IOC ジャック・ロゲ会長が IOC のスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。
- ⑰ IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。
- ⑱ IOC は UNEP が進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明。

4. 協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

- ①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。
- ②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3)循環型社会の形成

- ①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
- ②例えば、食品の生ゴミをある一定期間（約25日）酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。
- ③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
- ④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4)ゼロ・エミッション

- ①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
- ②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。
- ③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。
- ④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5)高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

- ①エネルギー資源を節減する為に3R（Reduce, Reuse, Recycle）の実行。
 - a. 削減（Reduce）。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）
 - b. 再使用（Reuse）。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事ができなくなったウェアを使える人に回して

はどうでしょう。

- c. リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)

(6)夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

- a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
- b. 夏はできるだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クール・ビズ)

(7)温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用 (二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用) をする樹木を増やす手伝いをしましょう

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について30分レクチャー原稿

30分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私達は全員地球人 (宇宙船地球号の乗組員)

- (1)46億年前に地球は形成されました
- (2)300万年前に人類が地上に出現しました
- (3)1万年前に大家族制による農業革命がおこりました
- (4)20世紀は人類の転換期 (文明の急速発達) でした
- (5)便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染がすすんでいます

2. 環境問題を列記し問題とその影響を見てみましょう

I. 地球温暖化

二酸化炭素などの「温暖化ガス」が増加する事によって地球の平均気温が上昇

- (1)海面水位上昇による土地の喪失
- (2)豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
- (3)生態系への影響や砂漠化の振興
- (4)農業生産や水資源への影響
- (5)マラリアなど熱帯性の感染症発生数の増加

II. 大気汚染と酸性雨

化石燃料の燃焼などにより生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中で酸性の化合物と

なり、雨などに取り込まれ地上に降る現象

- (1)森林の衰退
- (2)湖沼や河川などの酸性化とそれによる生態系への影響
- (3)歴史的な遺跡や建造物などへの影響

Ⅲ. オゾン層の破壊

「CFC」などの人工化学物質が地球を取り巻く「成層圏」に存在しているオゾン層を破壊する事

- (1)皮膚がんや白内障の増加
- (2)免疫抑制などによる人の健康への影響
- (3)動植物の生育阻害など生態系への影響
- (4)大気汚染などの影響

Ⅳ. 野生生物の減少

森林（熱帯林）の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題

- (1)遺伝子資源の減少
- (2)観光・レクリエーション資源の減少
- (3)生態系の破壊
- (4)食物連鎖の破壊

Ⅴ. 森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などによる熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題

- (1)そこに生息する野生生物種の減少
- (2)土壌（表土）の流失
- (3)森林に蓄積された炭素がCO₂となって放出される事による温暖化の進行
- (4)水源の涵養機能や熱循環、海と陸との相互作用機能の低下

Ⅵ. 地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などによる砂漠化

- (1)食糧生産基盤の悪化
- (2)生物多様性の喪失
- (3)貧困の加速
- (4)気候変動への影響
- (5)都市への人口の集中
- (6)難民の増加

Ⅶ. 海洋汚染

タンカー事故や海洋への汚染物質の投棄、河川などを通じた陸起源の汚染物質の流入、沿

岸の開発など様々な人為的要因により進行

- (1)生態系の破壊
- (2)漁業資源や観光資源の喪失
- (3)有害物質汚染による海洋生物への影響と海洋生物経由の人体への影響

VIII. 有害廃棄物の越境移動

海洋に投棄されたり、沿岸から流出する汚染物質や工業廃棄ガスなどが海や大気の流れにより世界中に広がる問題

3. スポーツと環境についての理解

(1)スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れないがそれは幻想です
- b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります

(2)私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

- a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能です
- b. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります
- c. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きていても地球からのバックアップ無しには生き続けられないのです

(3) think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)

- a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです
- b. そして、地球規模で起こっている問題を考えてつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てば出来る簡単な事です

4. スポーツと環境活動の簡単な経緯を見てみましょう

- ①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
- ②1976年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）
- ③1990年まで IOC は環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
- ④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）
- ⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名
- ⑥1994年 IOC 100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催
- ⑦1995年 IOC にスポーツと環境委員会設置
- ⑧1995年第1回 IOC スポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催
- ⑨1997年第2回 IOC スポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催
- ⑩1999年第3回 IOC スポーツと環境世界会議（ブラジル・リオデジャネイロ）で Olympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOCで承認された
- ⑪2001年4月 JOC にスポーツ環境委員会設置、活動を開始

- ⑫2001年11月第4回 IOC スポーツと環境世界会議を長野で開催
"Give The Planet A Sporting Chance" Olympic Movement's Agenda 21の実践
- ⑬2003年第5回 IOC スポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催
スポーツ関係者（選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された
- ⑭2005年第6回 IOC スポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催
- ⑮2007年第7回 IOC スポーツと環境世界会議を中国・北京で開催
- ⑯ IOC ジャック・ロゲ会長が IOC のスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた
- ⑰ IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞
- ⑱ IOC は UNEP が進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明

5. 協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう。

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

- ②『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスがちょうどいい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な開発をしようというものです。
- ③『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ後のような要素もどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3)循環型社会の形成

- ①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
- ②例えば、食品の生ゴミを酵素である一定期間（約25日）処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。
- ③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
- ④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4)ゼロ・エミッション

- ①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
- ②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物の分別回収をすれば、それらは又資源となるのです。
- ③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。
- ④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です

(5)高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸

化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行

- a. 削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)
- b. 再使用 (Reuse)。同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
- c. リサイクル (Recycle) 使えなくなったものを上手く分解して素材ごとによりサイクルし他の物資にして使用することです (例：ペットボトル→繊維)

(6)エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる

- ①冬には暖かい下着を着用し、またもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。(ウォームビス)
- ②夏は出来るだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クールビス)

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください

6. スポーツと環境に関与する要素には次のようなものがあります

(1)会場立地

- ①スポーツ施設の立地について、まわりの空気や水が基準以上でなければ選手・コーチの健康を損なう可能性がある。
- ②施設建設が自然を大きく破壊する事がないように配慮する
- ③特に冬のスポーツ施設の立地が天然記念物の生息地に掛からないように配慮する

(2)施設

- ①設建設に当たっては自然との調和を図るよう最善を尽くす事
- ②空調のエネルギー節減のため天窓を上手く配置し、冬は温室効果で暖かく、夏は窓を開放する事で暑い空気を天窓から出す事で涼しさを保つ工夫をする
- ③アイスアリーナなどはアンモニアの直接製氷法から間接にし、アンモニアの漏れでの環境破壊や選手の競技環境を損なわないように努める

(3)運営

- ①スポーツ大会、競技会、スポーツ教室などの運営に当たっては、資源・エネルギーの節減に努める。特にコピーは両面を使い、できればパソコンなどのディスプレイ画面で仕事の処理ができるように努める。
- ②運営全体での資源・エネルギーの消費量を数値化し計測し、削減に努めるとともに次回にはより削減できるよう工夫をする

(4)役員

- ①競技・運営役員はスポーツ環境保全の重要性を認識し、スポーツ界全体の環境保全が実践されるよう啓発活動を行なう。
- ②役員は身の周りのできる環境保全活動を率先垂範で実践する

(5)選手・コーチ

- ①選手・コーチは清潔でクリーンな競技環境で競技や訓練が実施できるよう最善を尽くす
- ②選手（特にトップ選手）は衆目を集めるので、環境保全に対する理解を深め啓発活動の一環としてチャンスがあるごとに環境保全の大切さをアピールする

(6)オフィスワーク

- ①スポーツに拘るオフィスはスポーツ環境の概念を良く理解してオフィスワークに活用する
- ②資源・エネルギーの削減、またグリーン購入法に基づいて物品購入を行なう。

(7)観客

- ①スポーツ競技会の観客にはポスターやパンフレットでスポーツ環境の意義の理解を深める啓発活動を行なう。
- ②ゴミの持ち帰り運動を推進し、会場清掃量を削減する。又各々の観客が持ち帰ったゴミは分別してリサイクルに回されるのが望ましい

(8)用具

- ①スポーツ品メーカーは環境に配慮した製品を企画製造する
- ②完全リサイクルができる「ナイロン6」素材のもの
- ③準完全リサイクルは元の原材料には戻らないが形を変えて製品化できるもの
- ④リサイクル素材の活用。回収ペットボトルから作られた繊維を利用した製品（混紡をするゆえ品質機能には全く問題はない）
- ⑤製造技術を改善し省資源・省エネでスポーツ品を製造する
- ⑥有害物質は全く使わない（塩化ビニール・フロンなど）

(9)メディア

- ①スポーツを報道するメディアにもスポーツ環境の大切さに対する理解を促進し協力を依頼する。
- ②メディア活動においても省資源・省エネを促進する

7. 低炭素社会（ローカーボン・ソサエティー）の構築

地球温暖化が気候変動を顕在化させる中、2007年にIPCC（気候変動に関する国際パネル）と温暖化を明快に解説し警鐘を鳴らす映画「不都合な真実」を制作したアル・ゴア米前副大統領にノーベル平和賞が授与された。

高度文明で排出される二酸化炭素ガスやCO₂の23倍の温室効果があるメタンガスなどが温室効果ガスとして温暖化を引き起こしている。

二酸化炭素ガスを吸収し酸素を放出する炭酸同化作用（光合成）を用いて炭酸ガスを減少させ酸素を多くするため植樹を促進しつつある。

各種活動で排出される温暖化ガスを植樹する事で相殺することをカーボンオフセットと言い、その植樹の費用を対価として支払う事も可能とされる。

エネルギーと資源の削減などと植樹で大気中の温暖化ガスを減少させることで低炭素社会の構築を目指す事が求められている。その結果として地球温暖化の進行を遅くし、地球の持続可能性を向上できると考えられている。

8. スポーツ環境の活動に必要な要素を列記しました。この活動にゴールはありません。啓発や実践を地道に継続的に進める忍耐力が必要です。

- ①気の長さ
- ②忍耐力
- ③継続力
- ④適正なペース
- ⑤実効性
- ⑥リーダーシップ

9. 関係者のパートナーシップと環境保全道具箱の理解と実践

スポーツ界で環境保全活動を進めるために二つの有効な提言がなされています。

(1)関係者のパートナーシップ

スポーツ界ではオリンピック大会運営からグラスルーツのスポーツ活動に至るまでスポーツの現場で活動にかかわる関係者（Stakeholders）が環境保全に対して明確な方針の下、協力する所謂パートナーシップが求められています。例えばオリンピック大会を考えると、関係者はIOC、NOCs、IFs（国際スポーツ競技連盟）、NFs（国内競技連盟）、競技者、役員、組織委員会、政府、地方自治体、観客、メディア、スポンサー、公式サプライヤー、運送業者、施設建設業者、施設管理者などで、これら関係者が組織委員会の環境方針を理解してパートナーシップによる協働体制で保全活動を実践することが大切です。

(2)「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」

バンクーバー組織委員会とスイスのAISTSがSSET（Sustainable Sports and Event Toolkit）「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」を考案しました。これはイベントなどで包括的に対策を実践できるように必要な要素を網羅しています。それらは1. 持続性への信念と戦略立案 2. 遣り繰り・管理 3. 会場立地と建設手法 4. 会場とオフィスの管理 5. 地域社会と商流 6. 輸送と宿泊 7. 食堂、食事・飲物 8. マーケティングとコミュニケーションの8つです。スポーツの現場、イベントの現場でこの要素を一つずつ検証して明確な考えを入れ込んで有効な活動にすることが大切なのです。

10. スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

5 IOCスポーツと環境委員会について

IOC Sport and Environment Commission

「何故、私たちは環境保全に力を尽くすのでしょうか？」

1909年に日本・アジア初のIOCメンバーに選ばれた嘉納治五郎先生は1912年ストックホルムで開催される第5回オリンピック競技大会参加に向けて今から100年前の1911年に大日本体育協会（現在の日本体育協会、日本オリンピック委員会）を設立した。この100周年を記念して、日本のスポーツ100年「これまで」「これから」をタイトルに2010年10月に福島で「夢があるから強くなる」、12月に京都で「環境問題に挑戦するスポーツ」そして2011年2月に広島で「スポーツと平和」のシンポジウムが開催された。



その京都会場では「環境との共生」をテーマに月尾嘉男東京大学名誉教授の基調講演と有識者のパネルディスカッションが行われ現代の環境問題とスポーツ界が現状を認識した上で地球及びスポーツの持続可能性を実現するために熱心に議論が交わされた。

会場との質疑応答で参加者から非常に本質的な質問が投げかけられた。すなわち、「地球温暖化、気候変動には両極端に至る広い学説があり、まだCO₂の排出が温暖化の元凶であるとは決定的には解明されていない今、何故、私たちは環境保全、持続可能性に取り組むのか？」

この質問に対して、浅利美鈴京都大学環境保全センター助教から明解な回答がなされた。「確かに学説は色々あるが、将来、やはりCO₂が地球温暖化を起こしている事が明確になった時に、人類として悔やまない為にも、今から私たちが持続可能性を追求し環境保全対策に全力を尽くす必要がある。」

1990年代初頭サマランチ当時IOC会長はそれまで「スポーツ」と「文化」を柱としていたオリンピック運動に「環境」を第三の柱として加えると言明した。それを受けて1994年IOCオリンピック kongress の決議を経て、1995年にIOCスポーツと環境委員会が設置された。

JOCでは2001年にスポーツ環境専門委員会が設置され、国内競技団体の競技大会や日本体育協会が主催する国体と密接に連携をしてより広くスポーツ界での啓発活動と国内スポーツの現場に於ける実践活動を継続推進し持続可能性を追求している。

年とともにより広くスポーツの現場に、より深く対策を探究し、そしてより高い効果を目指して様々な対策が実践されつつある。バンクーバーオリンピック冬季競技大会ではSSET (Sustainable Sport event Toolkit) を導入しより持続可能性の高い競技大会の対策が取られ、またシンガポールの第一回ユース・オリンピック・ゲームスでは世界から集まったヤング・オリンピックにゲーム形式で持続可能性の重要性を啓発した。

私たちスポーツ関係者は力を尽くします。より良い環境でスポーツができる様に、そして未来の子供達のために！

IOC スポーツと環境委員会
委員 水野 正人

(1) IOCスポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission

2010 Sport and Environment Commission

Date:	Thursday 24 June
Time:	10 : 30 - 17 : 00
Place:	IOC-Beijing Room
Organiser:	International Cooperation and Development Dept
Participants:	Jacques ROGGE (President, IOC), Gilbert FELLI (Director, Olympic Games, IOC) Tommy SITHOLE (Director, Int' 1 Cooperation and Development, IOC), *Saud bin Abdulrahman AL-THANI (Qatar), Roland BAAR (Germany), Tore BREVIK (Norway), Enrico CARBONE (Italy), Joseph FENDT (Germany), *Habu GUMEL (Nigeria, IOC), Johnson JASSON (Tanzania), Hamad KALKABA MALBOUM (Cameroon), George KAZANTZOPOULOS (Greece), Barbara KENDALL (New Zealand), Masato MIZUNO (Japan), Mamadou Diagna NDIAYE (Senegal), *Theodore OBEN (UNEP), Sunil SABHARWAL (UK), *Gideon SAM (South Africa), Anne DUFFY (VANOC), David STUBBS (LOCOG), Dmitry KOLOSOV (SOCHI), Mario CILENTI (Rio 2016), Nicole GIRARD SAVOY (IOC Solidarity), Elizabeth SLUYTER-MATHEW (IOC staff), Ornella LARDARUCCIO CHOHAIB (IOC Staff) (* New Members)
Objective:	Annual Meeting

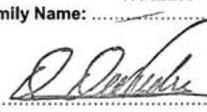
Meeting agenda (会議次第)

SUBJECT		
1	Welcome by the IOC President	IOC 会議による挨拶
2	Presentation of new Members	新委員会紹介
3	Approval of the Minutes of 29 March 2009	2009年3月29日議事録の承認
4	Report by the Director of the Department of International Cooperation & Development	IOC 国際協力発展局トミー・シトローレ09-10年報告
5	Rio +20	IOC, UntoRio +20
6	Report of the Olympic Solidarity	オリンピック・ソリダリティー報告
7	Report of the Olympic Congress	IOC オリンピック・コンGRESS報告
8	Regional Seminars	地域セミナー
9	Report of the VANOC representative	VANOC 代表の報告
10	Report of the LOCOG representative	LOCOG 代表の報告
11	Report of the SOCHI representative	SOCHI 代表の報告
12	Report of the RIO representative	RIO 代表の報告
13	Report by the Director of the Department of International Cooperation & Development	国際協力と発展局長による報告
14	9 th World Conference on Sport and the Environment : updat and applyin feedbacks	第9回 IOC スポーツと環境世界会議
15	IOC Environment Award	IOC 環境賞
16	Publication	出版物
17	Miscellaneous	その他
18	Next Commission meeting	次回委員会

(2) 2011 IOCスポーツと環境賞

2011 IOC Award for Sports and Environment

JOC から(財)日本水泳連盟のプロジェクトが推薦された

	Annex 1
INTERNATIONAL OLYMPIC COMMITTEE	
2010/2011 IOC AWARD FOR SPORT AND THE ENVIRONMENT	
Candidature Form	
<i>Please complete the form in TYPE or CAPITAL LETTERS, IN FRENCH OR IN ENGLISH, and return it NO LATER THAN <u>31 JANUARY 2011</u>, along with supporting documents to the IOC Department of International Cooperation & Development. All documentation can be submitted electronically by submitting to the following address: SportEnv.Award@olympic.org.</i>	
NOMINEE DETAILS	
Surname:..... / First name:	
OR : Excellent achievements of JASF for Sustainability	
Organisation/group name:..Japan Swimming Federation (JASF)	
CONTACT DETAILS	
1-1-1 Jinnan, Shibuya-ku	
Address:	TOKYO 150-8050
City:	Post code:
JAPAN	+81-3-3481-2238
Country:	Phone no:.....
+81-3-3481-2292	k-obata@joc.or.jp
Fax no:	E-mail:
ENDORSEMENT	
<i>This should be provided by President or Secretary General of NOC, IF, Recognised Organisation or Continental Association.</i>	
Organisation:	Japanese Olympic Committee / Function: President
First Name:	TSUNEKAZU / Family Name: TAKEDA
Place & Date:	TOKYO 27/DEC/2010
Stamp	Signature: 
	
CATEGORY	
<i>Please tick the continent award that you are applying for</i>	
<input type="checkbox"/> Africa	<input type="checkbox"/> Europe
<input type="checkbox"/> Americas	<input type="checkbox"/> Oceania
<input checked="" type="checkbox"/> Asia	
1	

FIELD OF ACTIVITY/INITIATIVE/PROJECT

Please tick the category your activity/initiative/project corresponds to:

- Design and/or construction of sports facilities
- Protection and enhancement of biodiversity or cultural heritage through sport
- Environmental education or raising sports community awareness on environmental and sustainability issues
- Management of sport events, facilities or clubs
- Media coverage and production of material to promote sustainability in sport
- Agenda 21 initiatives incorporating sustainable sport practises

If your activity/initiative/project does not correspond to one of the above please briefly outline its field of work:

.....
.....

DESCRIPTION OF ACTIVITY/INITIATIVE/PROJECT

Please describe below (in maximum 2 A4 pages) your activity/initiative/project taking into account the following aspects in so far as possible:

- Identification and significance of project
- Clear, measurable and ambitious goals
- Fulfilment of goals and benefits realized
- Forecast of future benefits
- Replication – actual and planned replication
- Engagement with stakeholders on sport and environmental performance
- Recognition from stakeholders
- Independent verification of performance

.....
Japanese Olympic Committee faithfully recommends the Japan Swimming Federation for the IOC Award of Sport and the Environment. Japan Swimming Federation (JASF) has been producing outstanding achievements in the area of sustainability, through steady and progressive programs at the work front of every swimming competition as well as grassroots daily activities.

JASF started their activities on sustainability in 2001, the same year as JOC established their commission on sport and environment. Dr. Kazuo Sano, the founding member and vice chairman of the commission and President of JASF today, has been the driving force of these activities, making his utmost efforts for improving awareness and implementation of sustainability for both JOC and JASF. During these years, he has participated in several IOC World Conferences on Sport and Environment, as the representative of JOC.

(Photographs Document P5)

To name but a few examples of their achievements, JASF has created the system which enables drastic reduction of result papers usage at competitions by making best use of website, and has started annual contest of environmental conservation, which honors good environmental activities in swimming-related areas.

Originally JASF started their activities in conventional ways, such as turning off lights when not in use, reducing copy papers, creating posters and leaflets to promote awareness, and

separation of wastes. Year by year, JASF has evolved their programs, and has come so far as to create an outstanding system, in conjunction with a leading watch manufacturer. The system reduces the usage of result papers dramatically, by putting up all results at website immediately. The system was put in use at quite a number of Japanese domestic competitions, and the amount of paper actually reduced has come to about 2-million sheets of paper in total a year.

In the past, it was quite common at competition sites to see staff distribute all the result papers to officials, media, and other relevant people by hand. Today at Japanese national swimming championships, anyone can check and see the results of races just 10 seconds after they are over, through Internet and/or mobile phone. JASF is now trying another step to further utilize Internet and presentation software, to eliminate printed papers such as entry papers, starting lists, and all papers at coaches meetings prior to competitions. JASF estimates its total reduction effect would be dramatically up to over 200 million sheets of paper a year, once this system was completely introduced to about 1,500 regional competitions in 47 prefectures in Japan. The effect would be equivalent to saving some 17,000 trees from being cut down.

(Photographs Document P1~3)

JASF has also created its annual contest over environmental programs in the swimming-related activities. The most valuable programs have been commended at the Japan Swimming Championship, and the event has been widely reported through media.

One example of the excellent programs among the contest is a clean up program of beaches by young swimmers. The program promotes youngsters to collect garbage and trashes on beaches. The participants are to wear gloves of different colors, which denote the number of participation to the program. This system works well, as increasing number of youngsters are motivated to more participations so as to wear higher-ranked colors, and those with high ranked colors are proud of their achievements.

(Photographs Document P4)

SUPPORTING DOCUMENTATION

Please provide as an annex any document (no more than 3 A4 size pages) that you believe important such as certificates or awards, press articles, summary of reports, photographs or videos of activities.

NO MORE THAN 3 A4 SIZE PAGES

- Certificates
- Awards
- Photographs
- Press articles
- Summary of not more than 1 page
- Video of activities

For further information, please contact:
Department of International Cooperation & Development
International Olympic Committee
Tel: +41.21.621 64 18 | Fax: +41.21.621 63 54
e-mail: SportEnv.Award@olympic.org

Excellent achievements of JASF for Sustainability

Japan Swimming Federation (JASF) has been very active on promotion of sustainability since foundation of the JASF Environment Committee in 2001 the same year the JOC has established the Sport and Environment Commission. Dr. Kazuo Sano, the President of JASF has been striving on the activities as vice chairman of the JOC Commission.

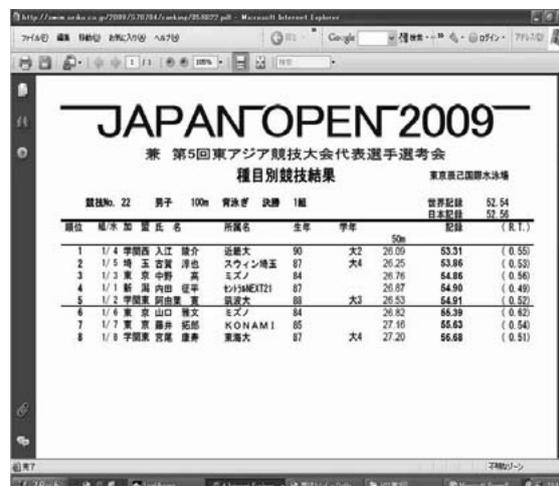
Reduction of result papers at swimming competitions

JASF has advanced its programs over the years. To name a few good examples, it has reduced paper usage dramatically by announcing race results on website, and has started its nationwide contest of swimming-related conservation activities, to select highly valued ones for its annual awards.



Result Paper

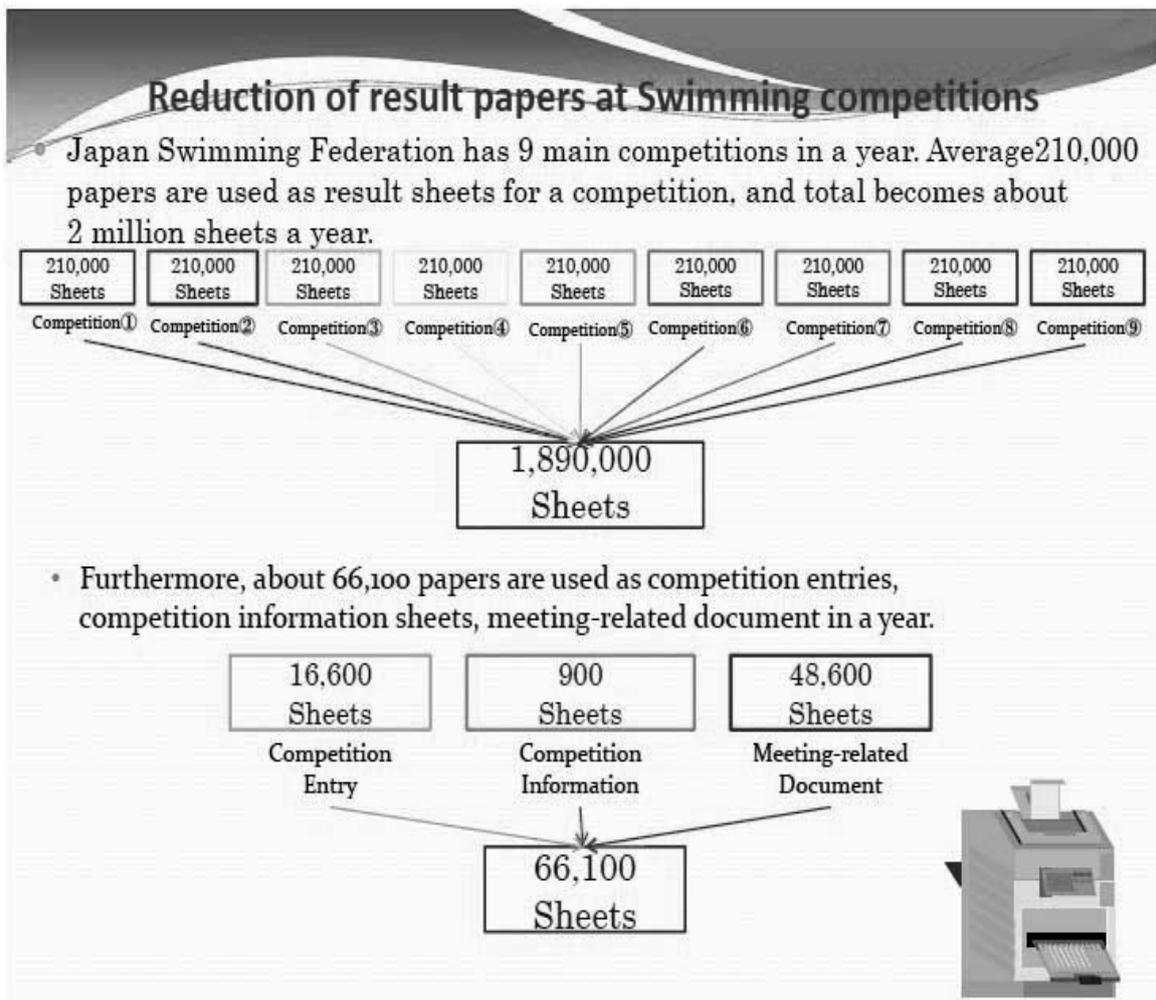
At major events such as JASF National Championship, all race results are being put up on website just 10 seconds after the races are over, and through this, as much as 2 million sheets of paper usage, equivalent of 150 trees, has been reduced. This program was made only possible in conjunction with a leading watch manufacturer, and once this is put in practice at 1,500 competitions nationwide in near future, over 200 million paper reduction effect will be some 17,000 tree's worth a year. At the same time, vigorous efforts have been made to eliminate printed papers for coach's pre-meeting and other meetings, by showing contents on screens.



Showing all results on website, which is also accessible by mobile phones, enabling dramatic reduction of paper use and simultaneous and real-time access by general public.



Utilizing display screen instead of printed papers, reducing some 2 million sheets of paper



The volume of paper to use in 9 main competitions

$$\begin{array}{|c|} \hline 1,890,000 \\ \hline \text{Sheets} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline 66,100 \\ \hline \text{Sheets} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline 1,956,100 \\ \hline \text{Sheets} \\ \hline \end{array}$$

- About 13,000 papers are made from one tree



$$\begin{array}{|c|} \hline 1,956,100 \\ \hline \text{Sheets} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline 150 \\ \hline \text{Tree's} \\ \hline \end{array}$$



« The prospects to the future »

There are approximately 1,500 regional competitions nationwide. If these regional competitions reduce the use of paper in the same way, there will be an annual reduction of 225,000,000 sheets of paper. An annual reduction of 225,000,000 sheets of paper in effect will preserve 17,000 trees annually.

JASF Environment Conservation Contest

Beach Clean Up with Fun! Key factor is participants to wear gloves of different colors
 Youngsters are motivated to do more cleaning so as to wear gloves of higher-ranked colors.



Glove color mapping (from 1st timer to Leader)



Youngsters cleaning up beach, with fun and pride



Sharing the feeling of "Our Own Ocean and Beach"



"Sense of Participation and Achievement" is the driving force of the activity



JASF executive members, and contestants



Excellent activities being awarded at National Championship

The basic activities such as saving energy and materials, putting up banners and posters all over the venues for awareness, separation of the waste for recycling have kept on going and creating and implementing new ways of sustainability with full of ideas through the contest within swimming family.



Putting up banners and posters at every swimming meeting, calling for Environmental Conservation. The banner reads, "Global Warming is leading to a lack of water. When there's not enough water to drink, how can we keep swimming?" The memorial photos of participants and the banner are widely in use for PR activities.



The president of JASF takes every opportunity to advance environmental conservation movement. Basic activities such as separation of wastes, usage reduction of energy and resources, have been also constantly reviewed, and made even better and easier to understand and carry out.



All the uniforms worn at competitions are of recycled material.



People are encouraged to bring "One's Own Chopsticks" for lunch, to reduce the use of disposable wooden chopsticks.

6 関連資料

References

(1) スポーツ環境専門委員一覧

Member of Sport and Environment Commission

JOC スポーツ環境専門委員会

JOC Sport and Environment Commission

平成23年3月現在

役職名	氏名	所属団体
委員長 Chairman	板橋 一太 Ichita ITABASHI	(財)日本オリンピック委員会 Japanese Olympic Committee
副委員長 Vice-Chairman	田嶋 幸三 Kozo TASHIMA	(財)日本サッカー協会 Japan Football Association
副委員長 Vice-Chairman	佐野 和夫 Kazuo SANŌ	(財)日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
委員 Member	浅草 和敏 Kazutoshi ASAKUSA	(財)日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association
〃	荻原 健司 Kenji OGIWARA	(財)全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
〃	風間 明 Akira KAZAMA	(財)日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
〃	鎌賀 秀夫 Hideo KAMAGA	(財)日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
〃	橋爪 功 Isao HASHIZUME	(財)日本テニス協会 Japan Tennis Association
〃	平松 純子 Junko HIRAMATSU	(財)日本スケート連盟 Japan Skating Federation
〃	松岡 修造 Shuzo MATSUOKA	(財)日本テニス協会 Japan Tennis Association
〃	村里 敏彰 Toshiaki MURASATO	(財)全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
〃	森末 慎二 Shinji MORISUE	(財)日本体操協会 Japan Gymnastic Association
〃	山口 香 Kaori YAMAGUCHI	(財)全日本柔道連盟 All Japan Judo Federation
アドバイザー Adviser	水野 正人 Masato MIZUNO	(財)日本オリンピック委員会 / IOCスポーツと環境委員会委員 Japanese Olympic Committee / IOC Sport and Environment Commission, Member

■ IOC スポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission

Chairman	Pál SCHMITT	
Members	Saud bin Abdulrahman AL-THANI	Roland BAAR
	Michel BARNIER	Andrès BOTERO PHILLIPSBOURNE
	Tore BREVIK	Enrico CARBONE
	Joseph FENDT	Habu GUMEL
	Camilla HAUGSTEN	Johnson JASSON
	Hamad KALKABA MALBOUM	George KAZANTZOPOULOS
	Barbara KENDALL	Masato MIZUNO
	Mamadou Diagna NDIAYE	Théodore OBEN
	Sunil SABHARWAL	Gideon SAM
	Luzeng SONG	Shamil TARPISCHEV
	Efraim ZINGER	Représentant du LOCOG/LOCOG Representative
	Représentant du SOTCHI/SOCHI Representative	Représentant de RIO 2016/RIO 2016 Representative
Director in Charge	(Director of International Cooperation and Development)	

■ OCA スポーツと環境委員会

OCA Sport and Environment Committee

Chairman	Mr Kyung-Sun Yu	Korea
Members	Mr Murat Saralinov	Kyrgyzstan
	Mr Mohamed Mahid Shareef	Maldives
	Mr Arie Pratignjo Ariotedjo	Indonesia
	Mr U Khin Maung Lwin	Myanmar
	Mr Jamal Ahmad	Palestine
	Mr Ferras Moualla	Syria
	Dr Rashed Hamed Al Heraiwel	Saudi Arabia
	Prof Meas Sarin	Cambodia

■ JOC スポーツ環境アンバサダー JOC Sport and Environment Ambassador

平成23年3月現在

氏名	オリンピック出場大会	競技名	出場種目
瀬古利彦	1984 ロサンゼルス 1988 ソウル	陸上競技	男子マラソン
岩崎恭子	1992 バルセロナ 1996 アトランタ	水泳	女子200m平泳ぎ 女子4×100mメドレーリレー
原田早穂	2004 アテネ 2008 北京		シンクロナイズドスイミング
岡田武史	1984 ロサンゼルス予選	サッカー	監督
荻原健司	1992 アルベールビル 1994 リレハンメル 1998 長野 2002 ソルトレークシティ	スキー	ノルディック複合団体 ノルディック複合個人
松岡修造	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ	テニス	男子シングルス
大林素子	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ	バレーボール	女子チーム
塚原光男	1968 メキシコ 1972 ミュンヘン 1976 モントリオール	体操	男子
黒岩敏幸	1992 アルベールビル 1994 リレハンメル 1998 長野	スケート	スピードスケート
八木沼純子	1988 カルガリー		フィギュアスケート・女子シングル
小林孝至	1988 ソウル	レスリング	フリースタイル
中村淳子		柔道	女子
田南部力	2004 アテネ	レスリング	フリースタイル

■ 本会加盟団体スポーツ環境担当一覧

National Federation

平成22年度 JOC スポーツ環境活動 加盟団体スポーツ環境担当者

(平成23年度3月現在)

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(財)日本陸上競技連盟	JAAFグリーンプロジェクト 委員長 有澤政雄	副委員長：副委員長：中尾敬治、瀬古利彦 委員：石上敬久、瀬戸邦宏	三宅 聡
(財)日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長 佐野和夫	委員：泉 正文、岩崎恭子、末弘昭人、山口善久、 齋藤由紀、鷺見全弘、岡田奉代、草分容子、長谷川 雪恵、有久 暢、丸笹公一郎、原田早穂、林 正洋、 小川知伸	小川知伸
(財)日本サッカー協会	環境プロジェクト 委員長 岡田武史	委員：濱口博行、中村典宏、星野公平、窪田慎二、 安達 健、島田信男、青木克史、玉利聡一、藤ノ木恵、 根本敦史	玉利聡一
(財)全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長 村里敏彰	委員：吉田英一、富田政利、林 辰男、山田 隆、 古川年正、齋藤二郎、瀬尾 洋、佐藤 昭	宮沢賢一
(財)日本テニス協会	スポーツ環境委員会 委員長 橋爪 功	副委員長：宗 中正 委員：秋山英宏、飯田 剛、佐々木信子、吉田友佳、 中内まどか、松岡修造、秋山 忍、大西哲夫、生沼 明人	関口久美
(社)日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長 小野寺 等	委員：清水一巳、小沢哲史	竹内麻記子
(社)日本ホッケー協会	総務委員会 環境部会 委員長 寺田一夫	委員：安岡裕美子、西中武士	西中武士
(社)日本アマチュアボクシング連盟	環境部会 委員長 寺崎誠(部会長)	副委員長：荒木 健	内海祥子
(財)日本バレーボール協会	環境委員会 委員長 浅草和敏	副委員長：橋口陽一 委員：西部卓志、上杉 忠	小田桐隆司
(財)日本体操協会	総務委員会・環境対策部 委員長 森末慎二(部長)	—	八木沢則子
(財)日本バスケットボール協会	環境委員会 委員長 木内貴史	副委員長：山田章博 委員：成澤偉三郎、品田奥義、有本 功、羽角国広、 松岡憲四郎、弘田充宏	羽角国宏
(財)日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長 岩島直巳	副委員長：鈴木民生 委員：佐々木正隆、新田俊彦、須藤範久、安藤美和子、 山崎弘雄、久野千嘉子、加藤真弓、吉川敏彦	森村直樹
(財)日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長 君塚 晋	副委員長：谷田順一 委員：木野内毅、細谷妙子	細谷妙子
(財)日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長 鎌賀秀夫	委員：木名瀬重夫、真田栄作、本田原明、白井正良、 吉澤 昌、関貴 史	鎌賀秀夫
(社)日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長 守 昌宏	副委員長：野呂記代志 委員：後藤節哉、舟喜信生、仁科健太郎、篠 弘明	守 昌宏
(財)日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長 伊藤宏幸	副委員長：兼子 真 委員：家永昌樹、羽田裕一、村上 隆	兼子 真
(財)日本自転車競技連盟	改正中	委員：岡田行雄、小西浩一郎、堀江洋一郎、山崎隆明、 志摩謙治	大池新次
(財)日本ソフトテニス連盟	環境部会 委員長 柳下秋久	副委員長：— 委員：藤原伸二、神崎公宏、宮下恭子、津田誠、田 鹿明彦	竹田 稔
(財)日本卓球協会	環境委員会 委員長 後藤広子	副委員長：佐藤 勲 委員：折居克春、小坂信彦、佐々木賢治、鈴木一雄	渡邊紗知子
(財)全日本軟式野球連盟	委員長 牧野勝行	委員：渡邊起祐	熱海奈津美

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(財)日本相撲連盟	総務委員会 委員長 竹内晋岸	—	新井宏宣
(社)日本馬術連盟	環境委員会 委員長 大波多廣一	委員：矢作直也	飯田 悟
(社)日本フェンシング協会	環境委員会 委員長 川口大三	副委員長：河原塚淳	川口大三
(財)全日本柔道連盟	柔道ルネッサンス特別委員会 委員長 山下泰裕	副委員長：細川伸二 委員：浅野哲男、朝飛 大、射手矢岬、伊藤吉治、牛窪多喜男、大辻広文、仮屋 力、金野潤、島谷順子、小志田憲一、田辺陽子、津村弘三、寺澤豊志、中田善久、花岡重喜、腹巻宏一、廣川充志、藤原敬生、松井勲、向井幹博、持田達人、山口香、山田利彦、山根和彦、山本三四郎、吉鷹幸春	坂本健司
(財)日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長 鈴木 征	委員：笹田嘉雄、豊嶋芳紀	上山政樹
(財)日本バドミントン協会	今井茂満 委員長 今井茂満	委員：近岡 昭、池田公子、本多修治	本多修治
(財)全日本弓道連盟	—	—	原田繁樹
(社)日本ライフル射撃協会	総務委員会環境部会 委員長 松丸喜一郎	副委員長：— 委員：永谷喜一郎、田村恒彦、高 淳一	塚越ゆかり
(財)全日本剣道連盟	医学科委員会 委員長 松永政美	副委員長：— 委員：朝日茂樹、佐々木健、高幣民雄、百鬼史訓、野見山延、菱山幸一、宮坂信之、藤本由紀子	小川俊夫
(社)日本近代五種・バイアスロン連合	—	—	坂野 勝
(財)日本ラグビーフットボール協会	管理委員会環境部門 委員長 高野敬一郎	副委員長：児玉隆一郎 委員：岩上教行、片山良太、大山高行	橘登紀子
(社)日本山岳協会	自然保護委員会 委員長 長谷川茂	副委員長：— 委員：青木敏雄、浅見 豊、岩崎繁夫、梅山義弘、小川由樹、小高令子、小原美子、斎藤長作、遠山君枝、廣田 博、三ツ木達男、紅葉淳一、山口泰雄	松隈 豊
公益社団法人日本カヌー連盟	環境対策委員会 委員長 八鍬美由紀	副委員長：本田 泉	岩上禎宏
(社)全日本アーチェリー連盟	— 委員長 島田晴男(主担当)	副委員長：穂苅美奈子	島田晴男
(財)全日本空手道連盟	—	—	石田航
(社)全日本銃剣道連盟	— 委員長 兼坂弘道	副委員長：藤田廣大 委員：大塚 享、関 高、村井敏夫、西尾耕一郎、東昭夫、伊藤武人、上萬 涼、上村 正、渡辺邦夫	藤田廣大
(財)全日本ボウリング協会	普及開発委員会 委員長 榎本隆明	副委員長：金安利和 委員：青木 稔、伊藤 寛、曾我勝巳、菅野沙織	宮内久美子
全日本アマチュア野球連盟	スポーツ環境委員会 委員長 内藤雅之	委員：柴田 穰	柴田 穰
(社)日本カーリング協会	—	—	倉本憲男
(社)日本トライアスロン連合	環境委員会 委員長 鈴木信之	副委員長：松生治子 委員：中村あゆみ、小金澤光司	中山正夫
(財)日本ゴルフ協会	—	—	林 忠男
(社)日本スカッシュ協会	環境委員会・JSAエコキャンペーン 委員長 宮城島真知子	副委員長：小前ひろみ	梶田幸子
(社)日本ボディビル連盟	環境委員会 委員長 磯野武夫	副委員長：磯村俊夫 委員：高岡光弘	磯野武夫
(社)全日本テコンドー協会	—	—	岡本依子
(社)日本ダンススポーツ連盟	—	—	岸尾政弘

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
日本カバディ協会	環境委員会 委員長 九重 卓	副委員長：林 佳子 委員：河合陽児、松橋耕二、高野一裕、津田はる、佐藤美奈子	河合陽児
日本セバタクロ協会	環境委員会 委員長 三澤 勝	副委員長：寺本 進 委員：赤石量也、中塚智之	三澤 勝
日本ローラースポーツ連盟	環境委員会 委員長 清宮邦雄	副委員長：大矢栄助 委員：宮坂孝一、西村孝一、渡辺真彦、厚芝幸彦、松本昌子、小菌井開治	松本昌子

(2) IOCスポーツと環境委員会小史

Brief history of the IOC Sport and Environment Commission

- 1972年 札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
- 1976年 デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題)
1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
- 1992年 バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
- 1994年 第12回オリンピック・コンGRESS(IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
- 1995年 IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット
第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
- 1996年 委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
- 1997年 第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
- 1999年 第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ
オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
- 2001年 第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市
"GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
- 2002年 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京
- 2003年 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ
"PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
- 2004年 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
- 2005年 極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ
第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ
"SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
- 2006年 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クワラルンプール
IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
- 2007年 第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京
"FROM PLAN TO ACTION"
- 2008年 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン
IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
- 2009年 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー
"INNOVATION AND INSPIRATION : HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE"
2009IOCスポーツと環境賞制定
IOCスポーツと環境・地域セミナー・サモア
- 2010年 IOCスポーツと環境委員会
- 2011年 第9回IOCスポーツと環境世界会議・ドーハ
"PLAYING FOR A GREENER FUTURE"
2011IOCスポーツと環境賞授賞式

(3) JOCスポーツ環境委員会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成15年度(2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
平成16年度(2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)
平成17年度(2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告
平成18年度(2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター
平成19年度(2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告
平成20年度(2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市 第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第1回OCAコンGRESS・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成21年度(2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市 第6回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成22年度(2010年)	ポスター(9th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横浜市 第7回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成23年度(2011年)	ポスター(10th)作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第7回JOCスポーツと環境・地域セミナー・神戸市(予定) 第8回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)

(4) オリンピックムーブメント アジェンダ21(要約)

Olympic Movement's Agenda 21

1. 一般原則

1.1 持続可能な開発

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(UNCED)、別名「地球サミット」で持続可能な開発を目指す「リオ宣言」が182カ国の創意で採択された。

1.2 UNCED アジェンダ21

各国政府がそれぞれの国家戦略、計画、規制、活動を策定する際の青写真としての役割を果たすだけでなく、非政府組織にもこのアジェンダ21に基づいた独自のアジェンダ21を作成するよう求めている。

2. オリンピックムーブメントにおけるアジェンダ21の目標

傘下のメンバー全員 (IOC、IF、NOC、OCOG など) およびスポーツをする全ての人を対象に持続可能な開発を方針に取り入れられる分野を提案し、また、各個人の行動方法についても指摘している。

3. 持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画

3.1 社会経済条件の改善

全ての個人が文化的・物質的ニーズを満たされなければならない。

3.1.1 オリンピズムの価値および持続可能な開発のための行動

持続可能な開発のための国際協力事業を強化し、社会排除と戦う一助となり、新たな消費者習慣を奨励し、健康保護奨励に積極的な役目を果たし、スポーツインフラを振興するに当たり、開発と環境の概念をスポーツの方針に取り入れていく。

3.1.2 持続可能な開発に向けての国際協力の強化

環境と開発がもたらす難題は世界的なパートナーシップを確立しなければ克服できない。特に国連環境計画 (UNEP) との協調が大切である。地域レベルでは IOC と NOC とが持続可能な開発に向けて共同歩調をとるべきである。また、スポーツ用品業界では使用する材料や工程を介して持続可能な管理に努め、その活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるべきである。

3.1.3 排除の撲滅

スポーツへの参加を通じて社会的不利な立場にある個人・集団を支援する。

3.1.4 消費者習慣の変化

無公害あるいはリサイクル材料を利用し、原料とエネルギーが節約できるよう製造されたスポーツ用品の使用を奨励する。同時にスポーツ用品・建造物には地域特有の従来型材料を使用するよう働きかける。

3.1.5 健康の保護

ドーピング対策はもとより、栄養、衛生、感染症・伝染病防止、弱者グループの保護、都市住民の健康面を大きく取り上げる。

3.1.6 人の居住環境および定住

スポーツ施設は土地利用計画に従って、自然・人口を問わず、地域の状況に調和して融け込むように建設・改築されるべきである。事前の環境影響調査が条件となっているのが望ましい。また、スポーツイベントで主催者は以前よりも条件的な改善を目指し、地域住民をより多く関与させることも大切である。

3.1.7 「持続可能な開発」概念のスポーツ方針への取り込み

各競技運営団体は持続可能な開発の概念をスポーツ界、スポーツ活動およびスポーツイベント企画の方針・規則や管理制度に取り入れる。

3.2 持続可能な開発のための資源の保全および管理

オリンピックムーブメントは、スポーツと文化に加えて環境をオリンピックの第三の柱としている。その環境保全活動は社会経済条件の改善に必要な天然資源と自然環境の保全と管理に切り替えられている。

3.2.1 オリンピックムーブメントに関する環境行動の方法

オリンピックムーブメントによる行動はすべて環境に充分配慮しつつ持続可能な開発の精神に則り、環境教育を推奨し、環境保全の一助となる活動をしなければならない。

3.2.2 環境保全区域および田園地帯の保護

スポーツ活動、施設、イベントは環境保全区域、田園地帯、文化遺産と天然資源全体を保護しなければならない。また、これらに関するインフラが環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮しなければならない。

3.2.3 スポーツ施設

既存のスポーツ施設をできる限り最大限に活用し、良好な状態に保ち、安全性を高めて環境への影響を減らす。また、新規施設の建造の前提としては、既存施設では修理しても使用できない場合に限る。

3.2.4 スポーツ用品

環境に配慮したスポーツ用品の製造だけでなく、商品の輸送・流通のためのエネルギー消費を最小限にとどめ、出来るだけ現地の製品を利用することを奨励する。また、品質保証および環境管理に関する ISO の認証を取得すべきである。

3.2.5 輸送

再生不可能なエネルギーの消費などを削減するために無公害の生産手段と公共輸送手段の利用促進を目的とした計画を進める。

3.2.6 エネルギー

- 過剰なエネルギー消費を抑える。
- 再生可能なエネルギー源の利用とエネルギーの節約を推奨する新技術、用具、施設、慣行の利用を推進する。
- 再生可能で無公害のエネルギー源を入手することを推奨する。

3.2.7 主要スポーツイベントでの宿泊設備および食事サービス

- アジェンダ21の3.1.6節に従った構造を推奨する。
- 衛生条件を厳守する。
- 地元住民の発展と環境保護に充分配慮して作られた商品・食料を利用する。
- 使用済み製品を最大限に再利用することで廃棄物を最小限に抑える。

- ・再利用できない廃棄物を処理する。

3.2.8 水の管理

- ・貯水保護および天然水の品質保全を意図した世界的・地域的な活動を奨励し、支援する。
- ・地下水または地下水を汚染する危険を持つ慣行はすべて避ける。
- ・スポーツ活動から生じた排水が必ず処理されるようにする。
- ・単にスポーツ活動でのニーズを満たすために特定の地域での全般的な水の供給を脅かさない。

3.2.9 有害な製品、廃棄物、公害の管理

- ・人類にとって有害もしくは有毒である、または環境汚染を引き起こすと認められている製品の使用は避ける。
- ・そのような製品を使用しなければならない慣行、製造、農業手法を奨励しない。
- ・排出・処理される廃棄物の量を最小限にし、廃棄物管理再利用の地域プログラムを推進する。
- ・新規のスポーツ施設の設立、既存施設の改善、新規インフラの構築および主要イベントの企画を利用して、有害なもしくは有毒な製品、汚染物質または廃棄物によって汚染されている敷地を改善する。
- ・あらゆる形態の公害、特に騒音公害を最小限に抑える。公害を低減するために過去のオリンピック競技大会で用いられた慣行・手法の成功例をもとに事を進める。

3.2.10 生物圏の質および生物多様性の維持

オリンピックムーブメントは以下の慣行を非難し、反対する。

- ・大気、土壌または水を汚染する。
- ・生物多様性を危険にさらす、または動植物の種を絶滅の危機に陥れる。
- ・森林伐採の原因をつくる、または国土保全に害を及ぼす。

3.3 主要グループの役割強化

持続可能な開発の成功にはオリンピックムーブメントを構成する全てのグループがこの取組みを積極的に支援すると同時に、これらグループに敬意が払われることが不可欠である。

3.3.1 女性の役割の向上

- ・女性のスポーツ振興に邁進する。
- ・従来女性のものだと考えてきた競技種目を他のものと同様に扱う。
- ・特に教育の中核ともなる地域スポーツセンターの構築を通じて女性の教育を推進する。
- ・女性がスポーツに参加しやすくなるよう託児所などの社会的な手段を講じる手助けをする。
- ・男女のスポーツの実施を公平にマスコミが取り上げ、経済面でも公平に扱うようにする。
- ・競技運営団体において女性が責任ある地位に就けるよう奨励する。
- ・関連国際団体と共同で活動にあたる。

3.3.2 若者の役割の推進

- ・全ての若い競技者が教育を受けられ、労働生活へと溶け込めることを奨励する。

- 競技団体内で若者が自分たちに関係のある決定を下す際に関与できるようにする。
- オリンピックムーブメントが手配した活動で若者が示す動員力を活用する。
- 若者が特に犠牲となる可能性の高い人権侵害を非難し、対抗する。
- 子どもの人権に関する国連条約（決議44/25）の承認を宣言し施行する。
- 専門の国際団体と共同で活動する。

3.3.3 原住民族の認知および推進

- 原住民の伝統的なスポーツを振興する。
- 特に原住民発祥の地において、環境管理問題では先住民の昔からの知識とノウハウを使うようにし、適切な行動を取る。
- これらの原住民がスポーツに参加できるよう推奨する。

オリンピックムーブメントのメンバーによるアジェンダ21の誓い

1999年10月に開催された第3回スポーツと環境に関する世界会議の出席者はアジェンダ21の実施に向けての一連の行動を定める「リオ宣言」を発表した。

スポーツと持続可能な開発に関するリオ宣言

1. アジェンダ21は、オリンピックムーブメントが持続可能な開発に効果的に役立つ分野において全般的な行動を示すための道具である。
2. オリンピックムーブメントの全てのメンバーやスポーツ参加者、スポーツ関連企業は出来る限り現行のアジェンダ21の勧告に従うべきである。
3. オリンピックムーブメントの全てのメンバーは持続可能な開発を各々の方針や活動に取り入れ、また関連する個人も自らのスポーツ活動やライフスタイルが持続可能な開発に役立つような行動をすべきである。
4. アジェンダ21の実施に当たっては様々な社会・経済・地理・気候・文化・宗教などの事情を尊重しなければならない。
5. 意識向上のため、環境保全についての教育・研修に重点がおかれるべきである。
6. 競技者は環境教育・研修を進める上での貢献が期待され、マスコミもそれを支援していかなければならない。
7. アジェンダ21は同様の目標を掲げている他の全ての政府・非政府組織および国内外組織との緊密な協調を経て実施されるべきである。
8. アジェンダ21の推進・改訂についての責任はIOCにある。オリンピックムーブメントの全てのメンバーや他の関連団体は、その任務を行うスポーツ環境委員会を適切に支援するべきである。
9. IOCスポーツ委員会と国連環境計画は共同の作業委員会を設立し、方針について助言・指導するとともにアジェンダ21の実施を監視するべきである。
10. 共同の作業委員会はアジェンダ21の進捗状況をオリンピックムーブメントのメンバーが出席する会議や今後開催されるスポーツと環境に関する世界会議に提出するべきである。

平成22年度 スポーツ環境専門委員会 活動報告書

発行日：平成23年3月31日

編集・発行：財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会
〒150-8050

渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

URL：<http://www.joc.or.jp/eco/>

印刷：広研印刷株式会社

写真提供：アフロススポーツ

フォート・キシモト 他

問い合わせ：財団法人 日本オリンピック委員会 事業・広報部

TEL：03-3481-2238 FAX：03-3481-2292